

得

第百八十三條 監查役ハ取締役カ株主總會ニ提出セントスル書類ヲ調査シ株主總會ニ其意見ヲ報告スルコトヲ要ス

第百八十四條 監查役ハ取締役又ハ支配人ヲ兼ヌルコトヲ得ス但取締役中ニ缺員アルトキハ取締役及ヒ監查役ノ協議ヲ以テ監查役中ヨリ一時取締役ノ職務ヲ行フヘキ者ヲ定ムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リテ取締役ノ職務ヲ行フ監查役ハ第百九十二條第一項ノ規定ニ從ヒ株主總會ノ承認ヲ得ルマテハ監查役ノ職務ヲ行フコトヲ得ス

第百八十五條 會社カ取締役ニ對シ又ハ取締役カ會社ニ對シ訴ヲ提起スル場合ニ於テハ其訴ニ付テハ監查役會社ヲ代表ス但株主總會ハ他人ヲシテ之ヲ代表セシムルコトヲ得

資本ノ十分ノ一以上ニ當タル株主カ取締役ニ對シテ訴ヲ提起スルコトヲ請求シタルトキハ特ニ代表者ヲ指定スルコトヲ得

第百八十六條 監查役カ其任務ヲ怠リタルトキハ會社及ヒ第三者ニ對シテ損害賠償ノ責ニ任ス

第百八十七條 株主總會ニ於テ監查役ニ對シテ訴ヲ提起スルコトヲ決議シタルトキ又ハ之ヲ否決シタル場合ニ於テ資本ノ十分ノ一以上ニ當タル株主カ之ヲ取締役ニ請求シタルトキハ會社ハ決議又ハ請求ノ日ヨリ一个月内ニ訴ヲ提起スルコトヲ要ス此場合ニ於テハ第百八十五條第一項但書及ヒ第二項ノ規定ヲ準用ス

前項ノ請求ヲ爲シタル株主ハ其株券ヲ供託シ且取締役ノ請求ニ因リ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス

會社カ敗訴シタルトキハ右ノ株主ハ會社ニ對シテノ損害賠償ノ責ニ任ス

第百八十八條 監查役ハ其破産又ハ禁治産ニ因リテ退任ス

第百八十九條 第百六十四條、第百六十七條及ヒ第百七十九條ノ規定ハ監查役ニ之ヲ準用ス

第四節 會社ノ計算

第百九十條 取締役ハ定時總會ノ會日ヨリ一週間前ニ左ノ書類ヲ監查役ニ提出スルコトヲ要ス

一 財産目錄

二 貸借對照表

三 營業報告書

四 損益計算書

五 準備金及ヒ利益又ハ利息ノ配當ニ關スル議案

第百九十一條 取締役ハ定時總會ノ會日前ニ前條ニ掲ケタル書類及ヒ監查役ノ報告書ヲ本店ニ備フルコトヲ要ス

株主及ヒ會社ノ債權者ハ營業時間内何時ニテモ前項ニ掲ケタル書類ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

第百九十二條 取締役ハ第百九十條ニ掲ケタル書類ヲ定時總會ニ提出シテ其承認ヲ求ムルコトヲ要ス

取締役ハ前項ノ承認ヲ得タル後貸借對照表ヲ公告スルコトヲ要ス

第百九十三條 定時總會ニ於テ前條第一項ノ承認ヲ爲シタルトキハ會社ハ取締役及ヒ監查役ニ對シテ其責任ヲ解除シタルモノト看做ス但取締役又ハ監查役ニ不正ノ行爲アリタルトキハ此限ニ在ラス

第百九十四條 會社ハ其資本ノ四分ノ一ニ達スルマテハ利益ヲ配當スル毎ニ準備金トシテ其利益

ノ二十分ノ一以上ヲ積立ツルコトヲ要ス

額面以上ノ價額ヲ以テ株式ヲ發行シタルトキハ其額面ヲ超ユル金額ハ前項ノ額ニ達スルマテ之ヲ準備金ニ組入ルルコトヲ要ス

第九十五條 會社ハ損失ヲ填補シ且前條第一項ニ定メタル準備金ヲ控除シタル後ニ非サレハ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ規定ニ違反シテ配當ヲ爲シタルトキハ會社ノ債權者ハ之ヲ返還セシムルコトヲ得

第九十六條 會社ノ目的タル事業ノ性質ニ依リ第四百一十一條第一項ノ規定ニ從ヒ本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲シタル後二年以上開業ヲ爲スコト能ハサルモノト認ムルトキハ會社ハ定款ヲ以テ開業ヲ爲スニ至ルマテ一定ノ利息ヲ株主ニ配當スヘキコトヲ定ムルコトヲ得但其利率ハ法定利率ニ超ユルコトヲ得ス

前項ニ掲ケタル定款ノ規定ハ裁判所ノ認可ヲ得ルコトヲ要ス

第九十七條 利益又ハ利息ノ配當ハ定款ニ依リテ拂込ミタル株金額ノ割合ニ應シテ之ヲ爲ス但會社カ優先株ヲ發行シタル場合ニ於テ之ニ異ナリタル定アルトキハ此限ニ在ラス

第九十八條 裁判所ハ資本ノ十分ノ一以上ニ當タル株主ノ請求ニ因リ會社ノ業務及ヒ會社財産ノ狀況ヲ調査セシムル爲メ検査役ヲ選任スルコトヲ得

検査役ハ其調査ノ結果ヲ裁判所ニ報告スルコトヲ要ス此場合ニ於テ裁判所ハ必要アリト認ムルトキハ監査役ヲシテ株主總會ヲ招集セシムルコトヲ得

第五節 社債
第九十九條 社債ハ第二百九條ニ定メタル決議ニ依ルニ非サレハ之ヲ募集スルコトヲ得ス

第二百條 社債ノ總額ハ拂込ミタル株金額ニ超ユルコトヲ得ス

最終ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ現存スル財産カ前項ノ金額ニ滿タサルトキハ社債ノ總額ハ其財産ノ額ニ超ユルコトヲ得ス

第二百一條 各社債ノ金額ハ二十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第二百二條 社債權者ニ償還スヘキ金額カ券面額ニ超ユヘキコトヲ定メタルトキハ其金額ハ各社債ニ付キ同一ナルコトヲ要ス

第二百三條 社債ヲ募集セントスルトキハ取締役ハ左ノ事項ヲ公告スルコトヲ要ス

一 第九十三條第三號乃至第六號ニ掲ケタル事項

二 會社ノ商號

三 前ニ社債ヲ募集シタルトキハ其償還ヲ了ヘサル總額

四 社債發行ノ價額又ハ其最低價額

五 會社ノ資本及ヒ拂込ミタル株金ノ總額

六 最終ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ現存スル財産ノ額

第二百四條 社債ノ募集カ完了シタルトキハ取締役ハ各社債ニ付キ其全額ヲ拂込マシムルコトヲ要ス

取締役ハ前項ノ規定ニ從ヒ全額ノ拂込ヲ受ケタル日ヨリ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ第二百三條第三號乃至第六號ニ掲ケタル事項ヲ登記スルコトヲ要ス

第二百五條 債券ニハ第二百三條第一號及ヒ第二號ニ掲ケタル事項及ヒ番號ヲ記載シ取締役之ニ署名スルコトヲ要ス

第二百六條 記名社債ノ讓渡ハ讓受人ノ氏名住所ヲ社債原簿ニ記載シ且其氏名ヲ債券ニ記載スルニ非サレハ之ヲ以テ會社其他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第二百七條 第二百五十五條ノ規定ハ債券ニ之ヲ準用ス

第六節 定款ノ變更

第二百八條 定款ハ株主總會ノ決議ニ依リテノミ之ヲ變更スルコトヲ得

第二百九條 定款ノ變更ハ總株主ノ半數以上ニシテ資本ノ半額以上ニ當タル株主出席シ其議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

前項ニ定メタル員數ノ株主カ出席セサルトキハ出席シタル株主ノ議決權ノ過半數ヲ以テ假決議ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ各株主ニ對シテ其假決議ノ趣旨ノ通知ヲ發シ且無記名式ノ株券ヲ發行シタルトキハ其趣旨ヲ公告シ更ニ一個月ヲ下ラサル期間内ニ第二回ノ株主總會ヲ招集スルコトヲ要ス

第二回ノ株主總會ニ於テハ出席シタル株主ノ議決權ノ過半數ヲ以テ假決議ノ認否ヲ決ス

前二項ノ規定ハ會社ノ目的タル事業ヲ變更スル場合ニハ之ヲ適用セス

第二百十條 會社ノ資本ハ株金全額拂込ノ後ニ非サレハ之ヲ増加スルコトヲ得ス

第二百十一條 會社ハ其資本ヲ増加スル場合ニ限り優先株ヲ發行スルコトヲ得此場合ニ於テハ其旨ヲ定款ニ記載スルコトヲ要ス

第二百十二條 會社カ優先株ヲ發行シタル場合ニ於テ定款ノ變更カ優先株主ニ損害ヲ及ホスヘキトキハ株主總會ノ決議ノ外優先株主ノ總會ノ決議アルコトヲ要ス
優先株主ノ總會ニハ株主總會ニ關スル規定ヲ準用ス

第二百十三條 會社カ其資本ヲ増加シタル場合ニ於テ各新株ニ付キ第二百二十九條ノ拂込アリタルトキハ取締役ハ遲滞ナク株主總會ヲ招集シテ之ニ新株ノ募集ニ關スル事項ヲ報告スルコトヲ要ス

第二百十四條 監査役ハ左ニ掲ケタル事項ヲ調査シ之ヲ株主總會ニ報告スルコトヲ要ス

一 新株總數ノ引受アリタルヤ否ヤ

二 各新株ニ付キ第二百二十九條ノ拂込アリタルヤ否ヤ

三 金銭以外ノ財産ヲ以テ出資ノ目的ト爲シタル者アルトキハ其財産ニ對シテ與フル株式ノ數ノ正當ナルヤ否ヤ

株主總會ハ前項ノ調査及ヒ報告ヲ爲サシムル爲メ特ニ検査役ヲ選任スルコトヲ得

第二百十五條 株主總會ニ於テ金銭以外ノ財産ニ對シテ與フル株式ノ數ヲ不當ト認メタルトキハ之ヲ減少スルコトヲ得此場合ニ於テハ第二百三十五條但書ノ規定ヲ準用ス

第二百十六條 引受ナキ株式又ハ第二百二十九條ノ拂込ノ未済ナル株式アルトキハ取締役ハ連帶シテ其株式ヲ引受ケ又ハ其拂込ヲ爲ス義務ヲ負フ株式ノ申込カ取消サレタルトキ亦同シ

第二百十七條 會社ハ第二百十三條ノ規定ニ依リテ招集シタル株主總會終結ノ日ヨリ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

一 増加シタル資本ノ總額

二 資本増加ノ決議ノ年月日

三 各新株ニ付キ拂込ミタル株金額

四 優先株ヲ發行シタルトキハ其株主ノ權利

前項ノ規定ニ從ヒ本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スマテハ新株券ノ發行及ヒ新株ノ讓渡又ハ其豫約ヲ爲スコトヲ得ス

第二百十八條 新株ヲ發行シタルトキハ前條第一項ノ規定ニ從ヒ本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲シタル年月日ヲ株券ニ記載スルコトヲ要ス

優先株ヲ發行シタルトキハ其株主ノ權利ヲ株券ニ記載スルコトヲ要ス

第二百十九條 第二百二十七條乃至第三百十條、第四百十條、第四百十二條及ヒ第四百十七條第二項ノ規定ハ新株發行ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百二十條 株主總會ニ於テ資本減少ノ決議ヲ爲ストキハ同時ニ其減少ノ方法ヲ決議スルコトヲ要ス

第七十八條乃至第八十條ノ規定ハ資本減少ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七節 解散

第二百二十一條 會社ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス

一 第七十四條第一號第二號、第四號、第六號及ヒ第七號ニ掲ケタル事由

二 株主總會ノ決議

三 株主カ七八未滿ニ減シタルコト

第二百二十二條 前條第二號及ヒ合併ノ決議ハ第二百九條ノ規定ニ從フニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二百二十三條 會社カ合併ヲ爲サント欲スルトキハ其旨ヲ公告シテ株主總會ノ會日前一个月ヲ超エサル期間及ヒ開會中記名株ノ讓渡ヲ停止スルコトヲ得

株主總會ニ於テ合併ノ決議ヲ爲シタルトキハ其決議ノ日ヨリ第八十一條ノ規定ニ從ヒ本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スマテハ株主ハ其記名株ヲ讓渡スコトヲ得ス

第二百二十四條 會社カ解散シタルトキハ破産ノ場合ヲ除ク外取締役ハ遲滞ナク株主ニ對シテ其通知ヲ發シ且無記名式ノ株券ヲ發行シタル場合ニ於テハ之ヲ公告スルコトヲ要ス

第二百二十五條 第七十六條及ヒ第七十八條乃至第八十二條ノ規定ハ株式會社ニ之ヲ準用ス

第八節 清算

第二百二十六條 會社カ解散シタルトキハ合併及ヒ破産ノ場合ヲ除ク外取締役其清算人ト爲ル但定款ニ別段ノ定アルトキ又ハ株主總會ニ於テ他人ヲ選任シタルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リテ清算人タル者ナキトキハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ清算人ヲ選任ス

第二百二十七條 清算人ハ就職ノ後遲滞ナク會社財産ノ現況ヲ調査シ財産目錄及ヒ貸借對照表ヲ作り之ヲ株主總會ニ提出シテ其承認ヲ求ムルコトヲ要ス

第二百五十八條第二項及ヒ第九十二條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百二十八條 株主總會ニ於テ選任シタル清算人ハ何時ニテモ株主總會ノ決議ヲ以テ之ヲ解任スルコトヲ得

重要ナル事由アルトキハ裁判所ハ監査役又ハ資本ノ十分ノ一以上ニ當タル株主ノ請求ニ因リ清算人ヲ解任スルコトヲ得

第二百二十九條 殘餘財産ハ定款ニ依リテ拂込ミタル株金額ノ割合ニ應シテ之ヲ株主ニ分配スルコトヲ要ス但會社カ優先株ヲ發行シタル場合ニ於テ之ニ異ナリタル定アルトキハ此限ニ在ラ

ス

第二百三十條 清算事務カ終ハリタルトキハ清算人ハ遲滯ナク決算報告書ヲ作り之ヲ株主總會ニ提出シテ其承認ヲ求ムルコトヲ要ス

第二百五十八條第二項及ヒ第九十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百三十一條 總會招集ノ手續又ハ其決議ノ方法カ法令又ハ定款ニ反スルトキハ清算人ハ其決議ノ無効ノ宣告ヲ請求スルコトヲ要ス

第二百三十二條 會社カ事業ニ著手シタル後其設立ノ無効ナルコトヲ發見シタルトキハ解散ノ場合ニ準シテ清算ヲ爲スコトヲ要ス此場合ニ於テハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ清算人ヲ選任ス

第二百三十三條 會社ノ帳簿、其營業ニ關スル信書及ヒ清算ニ關スル一切ノ書類ハ本店ノ所在地ニ於テ清算終了ノ登記ヲ爲シタル後十年間之ヲ保存スルコトヲ要ス其保存者ハ清算人其他ノ利害關係人ノ請求ニ因リ裁判所之ヲ選任ス

第二百三十四條 第八十四條、第八十九條乃至第九十三條、第九十五條、第九十七條、第九十九條、第一百二十九條、第六十條、第六十三條、第七十六條乃至第七十八條、第八十一條、第八十三條乃至第八十五條、第八十七條及ヒ民法第七十九條、第八十條ノ規定ハ株式會社ノ清算ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五章 株式合資會社

第二百三十五條 株式合資會社ハ無限責任社員ト株主トヲ以テ之ヲ組織ス

第二百三十六條 左ノ事項ニ付テハ合資會社ニ關スル規定ヲ準用ス

一 無限責任社員相互間ノ關係

二 無限責任社員ト株主及ヒ第三者トノ關係

三 無限責任社員ノ退社

此他株式合資會社ニハ本章ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外株式會社ニ關スル規定ヲ準用ス

第二百三十七條 無限責任社員ハ發起人ト爲リテ定款ヲ作り之ニ左ノ事項ヲ記載シテ署名スルコトヲ要ス

一 第二百二十條第一號、第二號、第四號、第六號及ヒ第七號ニ掲ケタル事項

二 株金ノ總額

三 無限責任社員ノ氏名住所

四 無限責任社員ノ株金以外ノ出資ノ種類及ヒ價格又ハ評價ノ標準

第二百二十八條 無限責任社員ハ株主ヲ募集スルコトヲ要ス
株式申込證ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 第二百二十二條、第二百二十六條第二項第一號、第四號及ヒ前條ニ掲ケタル事項

二 無限責任社員カ株式ヲ引受ケタルトキハ其各自カ引受ケタル株式ノ數

第二百二十九條 創立總會ニ於テハ監査役ヲ選任スルコトヲ要ス
無限責任社員ハ監査役ト爲ルコトヲ得ス

第二百四十條 無限責任社員ハ創立總會ニ出席シテ其意見ヲ述フルコトヲ得但株式ヲ引受ケタルトキト雖モ議決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス
無限責任社員カ引受ケタル株式其他ノ出資ハ議決權ニ關シテハ之ヲ算入セス

前二項ノ規定ハ株主總會ニ之ヲ準用ス

第二百四十一條 監査役ハ第三百二十四條第一項及ヒ第二百三十七條第四號ニ掲ケタル事項ヲ調査シ之ヲ創立總會ニ報告スルコトヲ要ス

第二百四十二條 會社ハ創立總會終結ノ日ヨリ二週間内ニ其本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

一 第二百一十條第一號第二號第四號第七號及ヒ第四百一十一條第一項第二號乃至第六號ニ掲ケタル事項

二 株金ノ總額

三 無限責任社員ノ氏名住所

四 無限責任社員ノ株金以外ノ出資ノ種類及ヒ財産ヲ目的トスル出資ノ價格

五 會社ヲ代表スヘキ無限責任社員ヲ定メタルトキハ其氏名

六 監査役ノ氏名住所

第二百四十三條 會社ヲ代表スヘキ無限責任社員ニハ株式會社ノ取締役ニ關スル規定ヲ準用ス但第二百四十四條乃至第六十八條、第七十五條及ヒ第七十九條ノ規定ハ此限ニ在ラス

第二百四十四條 合資會社ニ於テ總社員ノ同意ヲ要スル事項ニ付テハ株主總會ノ決議ノ外無限責任社員ノ一致アルコトヲ要ス

第二百四十五條 監査役ハ無限責任社員ヲシテ株主總會ノ決議ヲ執行セシムル責ニ任ス

第二百四十六條 株式合資會社ハ合資會社ト同一ノ事由ニ因リテ解散ス但第八十三條ノ場合ハ此限ニ在ラス

第二百四十七條 無限責任社員ノ全員カ退社シタル場合ニ於テ株主ハ第二百九條ニ定メタル決議ニ依リ株式會社トシテ會社ヲ繼續スルコトヲ得此場合ニ於テハ株式會社ノ組織ニ必要ナル事項ヲ決議スルコトヲ要ス

第二百四十八條 會社カ解散シタルトキハ合併、破産又ハ裁判所ノ命令ニ因リテ解散シタル場合ヲ除ク外清算ハ無限責任社員ノ全員又ハ其選任シタル者及ヒ株主總會ニ於テ選任シタル者之ヲ爲ス但定款ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

無限責任社員カ清算人ヲ選任スルトキハ其過半數ヲ以テ之ヲ決ス

株主總會ニ於テ選任スル清算人ハ無限責任社員ノ全員若クハ其相續人又ハ其選任スル者ト同數ナルコトヲ要ス

第二百四十九條 無限責任社員ハ何時ニテモ其選任シタル清算人ヲ解任スルコトヲ得

前條第二項ノ規定ハ清算人ノ解任ニ之ヲ準用ス

第二百五十條 第二百一十條ノ規定ハ株式合資會社ノ無限責任社員ニ之ヲ準用ス

第二百五十一條 清算人ハ第二百二十七條第一項及ヒ第二百三十條第一項ニ定メタル計算ニ付キ株主總會ノ承認ノ外無限責任社員全員ノ承認ヲ得ルコトヲ要ス

第二百五十二條 株式合資會社ハ第二百四十四條ノ規定ニ從ヒ其組織ヲ變更シテ之ヲ株式會社ト爲スコトヲ得

第二百五十三條 前條ノ場合ニ於テハ株主總會ハ直チニ株式會社ノ組織ニ必要ナル事項ヲ決議ス

ルコトヲ要ス此總會ニ於テハ無限責任社員モ亦其引受クヘキ株式ノ數ニ應シテ議決權ヲ行フコトヲ得

第七十八條及ヒ第七十九條第一項、第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百五十四條 會社ハ組織變更ニ付キ債權者ノ承認ヲ得又ハ第七十九條第二項ニ定メタル義務ヲ履行シタル後二週間内ニ其本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ株式合資會社ニ付テハ解散ノ登記ヲ爲シ株式會社ニ付テハ第四百四十一條第一項ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ要ス

第六章 外國會社

第二百五十五條 外國會社カ日本ニ支店ヲ設ケタルトキハ日本ニ成立スル同種ノモノ又ハ最モ之ニ類似セルモノト同一ノ登記及ヒ公告ヲ爲スコトヲ要ス

右ノ外日本ニ支店ヲ設ケタル外國會社ハ其日本ニ於ケル代表者ヲ定メ且支店設立ノ登記ト同時ニ其氏名、住所ヲ登記スルコトヲ要ス

第六十二條ノ規定ハ外國會社ノ代表者ニ之ヲ準用ス

第二百五十六條 前條第一項及ヒ第二項ノ規定ニ依リ登記スヘキ事項カ外國ニ於テ生シタルトキハ登記ノ期間ハ其通知ノ到達シタル時ヨリ之ヲ起算ス

第二百五十七條 外國會社カ始メテ日本ニ支店ヲ設ケタルトキハ其支店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スマテハ第三者ハ其會社ノ成立ヲ否認スルコトヲ得

第二百五十八條 日本ニ本店ヲ設ケ又ハ日本ニ於テ商業ヲ營ムヲ以テ主タル目的トスル會社ハ外國ニ於テ設立スルモノト雖モ日本ニ於テ設立スル會社ト同一ノ規定ニ從フコトヲ要ス

第二百五十九條 第四百四十七條、第四百四十九條、第五百十條、第五百十五條第一項、第二百六條、第

二百七條及ヒ第二百七條第二項ノ規定ハ日本ニ於テスル外國會社ノ株式ノ發行及ヒ其株式若クハ社債ノ讓渡ニ之ヲ準用ス此場合ニ於テハ始メテ日本ニ設ケタル支店ヲ以テ本店ト看做ス

第二百六十條 外國會社カ日本ニ支店ヲ設ケタル場合ニ於テ其代表者カ會社ノ業務ニ付キ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スル行爲ヲ爲シタルトキハ裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其支店ノ閉鎖ヲ命スルコトヲ得

第七章 罰則

第二百六十一條 發起人、會社ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、外國會社ノ代表者、監査役又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ五百圓以上五百圓以下ノ過料ニ處セラレ

- 一 本編ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ
- 二 本編ニ定メタル公告若クハ通知ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告若クハ通知ヲ爲シタルトキ
- 三 本編ノ規定ニ依リ閱覽ヲ許スヘキ書類ヲ正當ノ理由ナクシテ閱覽セシメサリシトキ
- 四 本編ノ規定ニ依リ調査ヲ妨ケタルトキ
- 五 第四十六條ノ規定ニ違反シテ開業ノ準備ニ著手シタルトキ
- 六 第二百二十六條第二項及ヒ第二百三十八條第二項ノ規定ニ反シ株式申込證ヲ作ラス、之ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ
- 七 第四百四十七條第一項又ハ第二百七條第二項ノ規定ニ違反シテ株式ヲ發行シタルトキ
- 八 株式又ハ債券ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ
- 九 定款、株主名簿、社債原簿、總會ノ決議録、財産目録、貸借對照表、營業報告書、損益計算書

及準備金並ニ利益又ハ利息ノ配當ニ關スル議案ヲ本店若クハ支店ニ備ヘ置カス、之ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ之ニ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

十 第七十四條第一項又ハ第九十八條第二項ノ規定ニ反シテ株主總會ヲ招集セザルトキ
第二百六十二條 發起人、會社ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、外國會社ノ代表者、監査役又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處セラレ

一 官廳又ハ總會ニ對シ不實ノ申立ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ
二 第七十八條乃至第八十條ノ規定ニ違反シテ合併、會社財産ノ處分、資本ノ減少又ハ組織ノ變更ヲ爲シタルトキ

三 検査役ノ調査ヲ妨ゲタルトキ
四 第五十一條第一項ノ規定ニ反シテ株式ヲ取得シ若クハ質權ノ目的トシテ之ヲ受ケ又ハ同條第二項ノ規定ニ違反シテ之ヲ消却シタルトキ

五 第五十五條第一項ノ規定ニ違反シテ株券ヲ無記名式ト爲シタルトキ
六 第七十四條第二項又ハ民法第八十一條ノ規定ニ反シテ破産宣告ノ請求ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

七 第九十四條ノ規定ニ反シテ準備金ヲ積立テス又ハ第九十五條第一項若クハ第九十六條ノ規定ニ違反シテ配當ヲ爲シタルトキ
八 第二百條ノ規定ニ違反シテ社債ヲ募集シタルトキ

九 第二百六十條ノ規定ニ依ル裁判所ノ命令ニ違反シタルトキ
十 民法第七十九條ノ期間内ニ或債權者ニ辨濟ヲ爲シ又ハ第九十五條ノ規定ニ違反シテ會社

財産ヲ分配シタルトキ

第二編 商行爲

第一章 總則

第二百六十三條 左ニ掲ケタル行爲ハ之ヲ商行爲トス

- 一 利益ヲ得テ讓渡ス意思ヲ以テスル動産、不動産若クハ有價證券ノ有價取得又ハ其取得シタルモノノ讓渡ヲ目的トスル行爲
- 二 他人ヨリ取得スヘキ動産又ハ有價證券ノ供給契約及ヒ其履行ノ爲メニスル有價取得ヲ目的トスル行爲
- 三 取引所ニ於テスル取引
- 四 手形其他ノ商業證券ニ關スル行爲

第二百六十四條 左ニ掲ケタル行爲ハ營業トシテ之ヲ爲ストキハ之ヲ商行爲トス但專ラ賃金ヲ得ル目的ヲ以テ物ヲ製造シ又ハ勞務ニ服スル者ノ行爲ハ此限ニ在ラス

- 一 賃貸スル意思ヲ以テスル動産若クハ不動産ノ有價取得若クハ賃借又ハ其取得若クハ賃借シタルモノノ賃貸ヲ目的トスル行爲
- 二 他人ノ爲メニスル製造又ハ加工ニ關スル行爲
- 三 電氣又ハ瓦斯ノ供給ニ關スル行爲
- 四 運送ニ關スル行爲
- 五 作業又ハ勞務ノ請負
- 六 出版、印刷又ハ撮影ニ關スル行爲

七 客ノ來集ヲ目的トスル場屋ノ取引

八 兩替其他ノ銀行取引

九 保險

十 寄託ノ引受

十一 仲立又ハ取次ニ關スル行為

十二 商行爲ノ代理ノ引受

第二百六十五條 商人カ其營業ノ爲メニスル行為ハ之ヲ商行爲トス

商人ノ行為ハ其營業ノ爲メニスルモノト推定ス

第二百六十六條 商行爲ノ代理人カ本人ノ爲メニスルコトヲ示ササルトキト雖モ其行為ハ本人ニ

對シテ其效力ヲ生ス但相手方カ本人ノ爲メニスルコトヲ知ラサリントキハ代理人ニ對シテ履行

ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス

第二百六十七條 商行爲ノ受任者ハ委任ノ本旨ニ反セサル範圍内ニ於テ委任ヲ受ケサル行為ヲ爲

スコトヲ得

第二百六十八條 商行爲ノ委任ニ因ル代理權ハ本人ノ死亡ニ因リテ消滅セス

第二百六十九條 對話者間ニ於テ契約ノ申込ヲ受ケタル者カ直チニ承諾ヲ爲ササルトキハ申込ハ

其效力ヲ失フ

第二百七十條 隔地者間ニ於テ承諾期間ノ定ナクシテ契約ノ申込ヲ受ケタル者カ相當ノ期間内

ニ承諾ノ通知ヲ發セサルトキハ申込ハ其效力ヲ失フ

民法第五百二十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百七十一條 商人カ平常取引ヲ爲ス者ヨリ其營業ノ部類ニ屬スル契約ノ申込ヲ受ケタルトキ

ハ遲滞ナク諾否ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス若シ之ヲ發スルコトヲ怠リタルトキハ申込ヲ承諾シ

タルモノト看做ス

第二百七十二條 商人カ其營業ノ部類ニ屬スル契約ノ申込ヲ受ケタル場合ニ於テ申込ト共ニ受取

リタル物品アルトキハ其申込ヲ拒絕シタルトキト雖モ申込者ノ費用ヲ以テ其物品ヲ保管スルコ

トヲ要ス但其物品ノ價額カ其費用ヲ償フニ足ラサルトキ又ハ商人カ其保管ニ因リテ損害ヲ受ク

ヘキトキハ此限ニ在ラス

第二百七十三條 數人カ其一人又ハ全員ノ爲メニ商行爲タル行為ニ因リテ債務ヲ負擔シタルトキ

ハ其債務ハ各自連帶シテ之ヲ負擔ス

保證人アル場合ニ於テ債務カ主タル債務者ノ商行爲ニ因リテ生シタルトキ又ハ保證カ商行爲ナ

ルトキハ主タル債務者及ヒ保證人カ各別ノ行為ヲ以テ債務ヲ負擔シタルトキト雖モ其債務ハ各

自連帶シテ之ヲ負擔ス

第二百七十四條 商人カ其營業ノ範圍内ニ於テ他人ノ爲メニ或行為ヲ爲シタルトキハ相當ノ報酬

ヲ請求スルコトヲ得

第二百七十五條 商人間ニ於テ金錢ノ消費貸借ヲ爲シタルトキハ貸主ハ法定利息ヲ請求スルコト

ヲ得

商人カ其營業ノ範圍内ニ於テ他人ノ爲メニ金錢ノ立替ヲ爲シタルトキハ其立替ノ日以後ノ法定

利息ヲ請求スルコトヲ得

第二百七十六條 商行爲ニ因リテ生シタル債務ニ關シテハ法定利率ハ年六分トス

第二百七十七條 民法第二百四十九條ノ規定ハ商行爲ニ因リテ生シタル債權ヲ擔保スル爲メニ設定シタル質權ニハ之ヲ適用セス

第二百七十八條 商行爲ニ因リテ生シタル債務ノ履行ヲ爲スヘキ場所カ其行爲ノ性質又ハ當事者ノ意思表示ニ因リテ定マラサルトキハ特定物ノ引渡ハ行爲ノ當時其物ノ存在セシ場所ニ於テ之ヲ爲シ其他ノ履行ハ債權者ノ現時ノ營業所、若シ營業所ナキトキハ其住所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

指圖債權及ヒ無記名債權ノ辨濟ハ債務者ノ現時ノ營業所、若シ營業所ナキトキハ其住所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

支店ニ於テ爲シタル取引ニ付テハ其支店ヲ以テ營業所ト看做ス

第二百七十九條 指圖債權又ハ無記名債權ノ債務者ハ其履行ニ付キ期限ノ定アルトキト雖モ其期限カ到來シタル後所持人カ其證券ヲ呈示シテ履行ノ請求ヲ爲シタル時ヨリ遲滞ノ責ニ任ス

第二百八十條 第二百七十八條第二項及ヒ前條ノ規定ハ民法第四百七十一條ニ掲ケタル債權ニ之ヲ準用ス

第二百八十一條 金錢其他ノ物ノ給付ヲ目的トスル指圖證券又ハ無記名證券ノ所持人カ其證券ヲ喪失シタル場合ニ於テ公示催告ノ申立ヲ爲シタルトキハ債務者ヲシテ其債務ノ目的物ヲ供託セシメ又ハ相當ノ擔保ヲ供シテ其證券ノ趣旨ニ從ヒ履行ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百八十二條 第四百四十一條、第四百五十七條、第四百六十一條及ヒ第四百六十四條ノ規定ハ金錢其他ノ物ノ給付ヲ目的トスル指圖債權ニ之ヲ準用ス

第二百八十三條 法令又ハ慣習ニ依リ取引時間ノ定アルトキハ其取引時間内ニ限り債務ノ履行ヲ

爲シ又ハ其履行ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第二百八十四條 商人間ニ於テ其雙方ノ爲メニ商行爲タル行爲ニ因リテ生シタル債權カ辨濟期ニ在ルトキハ債權者ハ辨濟ヲ受クルマテ其債務者トノ間ニ於ケル商行爲ニ因リテ自己ノ占有ニ歸シタル債務者ノ所有物ヲ留置スルコトヲ得但別段ノ意思表示アリタルトキハ此限ニ在ラス

第二百八十五條 商行爲ニ因リテ生シタル債權ハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外五年間之ヲ行ハサルトキハ時効ニ因リテ消滅ス但他ノ法令ニ之ヨリ短キ時効期間ノ定アルトキハ其規定ニ從フ

第二章 賣買

第二百八十六條 商人間ノ賣買ニ於テ買主カ其目的物ヲ受取ルコトヲ拒ミ又ハ之ヲ受取ルコト能ハサルトキハ賣主ハ其物ヲ供託シ又ハ相當ノ期間ヲ定メテ催告ヲ爲シタル後之ヲ競賣スルコトヲ得此場合ニ於テハ遲滞ナク買主ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

損敗シ易キ物ハ前項ノ催告ヲ爲サシメテ之ヲ競賣スルコトヲ得
前二項ノ規定ニ依リ賣主カ賣買ノ目的物ヲ競賣シタルトキハ其代價ヲ供託スルコトヲ要ス但其全部又ハ一部ヲ代金ニ充當スルコトヲ妨ケス

第二百八十七條 賣買ノ性質又ハ當事者ノ意思表示ニ依リ一定ノ日時又ハ一定ノ期間内ニ履行ヲ爲スニ非サレハ契約ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサル場合ニ於テ當事者ノ一方カ履行ヲ爲サシメテ其時期ヲ經過シタルトキハ相手方ハ直チニ其履行ヲ請求スルニ非サレハ契約ノ解除ヲ爲シタルモノト看做ス

第二百八十八條 商人間ノ賣買ニ於テ買主カ其目的物ヲ受取リタルトキハ遲滞ナク之ヲ検査シ若

レ之ニ瑕疵アルコト又ハ其數量ニ不足アルコトヲ發見シタルトキハ直チニ賣主ニ對シテ其通知ヲ發スルニ非サレハ其瑕疵又ハ不足ニ因リテ契約ノ解除又ハ代金減額若クハ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス買主ノ目的物ニ直チニ發見スルコト能ハサル瑕疵アリタル場合ニ於テ買主カ六个月内ニ之ヲ發見シタルトキ亦同シ

前項ノ規定ハ賣主ニ惡意アリタル場合ニハ之ヲ適用セス

第二百八十九條 前條ノ場合ニ於テ買主ハ契約ノ解除ヲ爲シタルトキト雖モ賣主ノ費用ヲ以テ買主ノ目的物ヲ保管又ハ供託スルコトヲ要ス但其物ニ付キ減失又ハ毀損ノ虞アルトキハ裁判所ノ許可ヲ得テ之ヲ競賣シ其代價ヲ保管又ハ供託スルコトヲ要ス
前項ノ規定ニ依リ買主カ競賣ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク賣主ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

前二項ノ規定ハ賣主及ヒ買主ノ營業所若シ營業所ナキトキハ其住所カ同市町村内ニ在ル場合ニハ之ヲ適用セス

第二百九十條 前條ノ規定ハ賣主ヨリ買主ニ引渡シタル物品カ注文シタル物品ト異ナリタル場合ニ之ヲ準用ス其物品カ注文シタル數量ヲ超過シタル場合ニ於テ其超過額ニ付キ亦同シ

第三章 交互計算

第二百九十一條 交互計算ハ商人間又ハ商人ト商人ニ非サル者トノ間ニ平常取引ヲ爲ス場合ニ於テ一定ノ期間内ノ取引ヨリ生スル債權債務ノ總額ニ付キ相殺ヲ爲シ其殘額ノ支拂ヲ爲スヘキコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百九十二條 手形其他ノ商業證券ヨリ生シタル債權債務ヲ交互計算ニ組入レタル場合ニ於テ

證券ノ債務者カ辨濟ヲ爲ササリシトキハ當事者ハ其債務ニ關スル項目ヲ交互計算ヨリ除去スルコトヲ得

第二百九十三條 當事者カ相殺ヲ爲スヘキ期間ヲ定メサリシトキハ其期間ハ之ヲ六個月トス

第二百九十四條 當事者カ債權債務ノ各項目ヲ記載シタル計算書ノ承認ヲ爲シタルトキハ其各項目ニ付キ異議ヲ述フルコトヲ得ス但錯誤又ハ脱漏アリタルトキハ此限ニ在ラス

第二百九十五條 相殺ニ因リテ生シタル殘額ニ付テハ債權者ハ計算閉鎖ノ日以後ノ法定利息ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ハ各項目ヲ交互計算ニ組入レタル日ヨリ之ニ利息ヲ附スルコトヲ妨ケス

第二百九十六條 各當事者ハ何時ニテモ交互計算ノ解除ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ直チニ計算ヲ閉鎖シテ殘額ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得

第四章 匿名組合

第二百九十七條 匿名組合契約ハ當事者ノ一方カ相手方ノ營業ノ爲メニ出資ヲ爲シ其營業ヨリ生スル利益ヲ分配スヘキコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百九十八條 匿名組合員ノ出資ハ營業者ノ財產ニ歸ス

匿名組合員ハ營業者ノ行爲ニ付キ第三者ニ對シテ權利義務ヲ有セス

第二百九十九條 匿名組合員カ其氏若クハ氏名ヲ營業者ノ商號中ニ用非又ハ其商號ヲ營業者ノ商號トシテ用ユルコトヲ許諾シタルトキハ其使用以後ニ生シタル債務ニ付テハ營業者ト連帶シテ其責ニ任ス

第三百條 出資カ損失ニ因リテ減シタルトキハ其填補ノ後ニ非サレハ匿名組合員ハ利益ノ配當

ヲ請求スルコトヲ得ス

第三百一條 組合契約ヲ以テ組合ノ存續期間ヲ定メサリシトキ又ハ或當事者ノ終身間組合ノ存續スヘキコトヲ定メタルトキハ各當事者ハ營業年度ノ終ニ於テ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但六個月前ニ其豫告ヲ爲スコトヲ要ス

組合ノ存續期間ヲ定メタルト否トヲ問ハス已ムコトヲ得サル事由アルトキハ各當事者ハ何時ニテモ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第三百二條 前條ニ掲ケタル場合ノ外組合契約ハ左ノ事由ニ因リテ終了ス

- 一 組合ノ目的タル事業ノ成功又ハ其成功ノ不能
- 二 營業者ノ死亡又ハ禁治産

三 營業者又ハ匿名組合員ノ破産

第三百三條 組合契約カ終了シタルトキハ營業者ハ匿名組合員ニ其出資ノ價額ヲ返還スルコトヲ要ス但出資カ損失ニ因リテ減シタルトキハ其殘額ヲ返還スルヲ以テ足ル

第三百四條 第八條、第一百一條及ヒ第一百五條ノ規定ハ匿名組合員ニ之ヲ準用ス

第五章 仲立營業

第三百五條 仲立人トハ他人間ノ商行為ノ媒介ヲ爲スヲ業トスル者ヲ謂フ

第三百六條 仲立人ハ其媒介シタル行為ニ付キ當事者ノ爲メニ支拂其他ノ給付ヲ受クルコトヲ得ス但別段ノ意思表示又ハ慣習アルトキハ此限ニ在ラス

第三百七條 仲立人カ其媒介スル行為ニ付キ見本ヲ受取リタルトキハ其行為カ完了スルマテ之ヲ保管スルコトヲ要ス

第三百八條 當事者間ニ於テ行為カ成立シタルトキハ仲立人ハ遲滞ナク各當事者ノ氏名又ハ商號、行為ノ年月日及ヒ其要領ヲ記載シタル書面ヲ作り署名ノ後之ヲ各當事者ニ交付スルコトヲ要ス

當事者カ直チニ履行ヲ爲スヘキ場合ヲ除ク外仲立人ハ各當事者ヲシテ前項ノ書面ニ署名セシメタル後之ヲ其相手方ニ交付スルコトヲ要ス

前二項ノ場合ニ於テ當事者ノ一方カ書面ヲ受領セス又ハ之ニ署名セサルトキハ仲立人ハ遲滞ナク相手方ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

第三百九條 仲立人ハ其帳簿ニ前條第一項ニ掲ケタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス
當事者ハ何時ニテモ仲立人カ自己ノ爲メニ媒介シタル行為ニ付キ其帳簿ノ謄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第三百十條 當事者カ其氏名又ハ商號ヲ相手方ニ示ササルヘキ旨ヲ仲立人ニ命シタルトキハ仲立人ハ第三百八條第一項ノ書面及ヒ前條第二項ノ謄本ニ其氏名又ハ商號ヲ記載スルコトヲ得ス
第三百十一條 仲立人カ當事者ノ一方ノ氏名又ハ商號ヲ其相手方ニ示ササリシトキハ之ニ對シテ自ラ履行ヲ爲ス責ニ任ス

第三百十二條 仲立人ハ第三百八條ノ手續ヲ終ハリタル後ニ非サレハ報酬ヲ請求スルコトヲ得ス
仲立人ノ報酬ハ當事者雙方平分シテ之ヲ負擔ス

第六章 問屋營業

第三百十三條 問屋トハ自己ノ名ヲ以テ他人ノ爲メニ物品ノ販賣又ハ買入ヲ爲スヲ業トスル者ヲ

謂フ

第三百十四條 問屋ハ他人ノ爲メニ爲シタル販賣又ハ買入ニ因リ相手方ニ對シテ自ラ權利ヲ得義務ヲ負フ

問屋ト委託者トノ間ニ於テハ本章ノ規定ノ外委任及ヒ代理ニ關スル規定ヲ準用ス

第三百十五條 問屋ハ委託者ノ爲メニ爲シタル販賣又ハ買入ニ付キ相手方カ其債務ヲ履行セサル場合ニ於テ自ラ其履行ヲ爲ス責ニ任ス但別段ノ意思表示又ハ慣習アルトキハ此限ニ在ラス

第三百十六條 問屋カ委託者ノ指定シタル金額ヨリ廉價ニテ販賣ヲ爲シ又ハ高價ニテ買入ヲ爲シタル場合ニ於テ自ラ其差額ヲ負擔スルトキハ其販賣又ハ買入ハ委託者ニ對シテ其效力ヲ生ス

第三百十七條 問屋カ取引所ノ相場アル物品ノ販賣又ハ買入ノ委託ヲ受ケタルトキハ自ラ買主又ハ買主ト爲ルコトヲ得此場合ニ於テハ賣買ノ代價ハ問屋カ買主又ハ買主ト爲リタルコトノ通知ヲ發シタル時ニ於ケル取引所ノ相場ニ依リテ之ヲ定ム

前項ノ場合ニ於テモ問屋ハ委託者ニ對シテ報酬ヲ請求スルコトヲ得

第三百十八條 問屋カ買入ノ委託ヲ受ケタル場合ニ於テ委託者カ買入レタル物品ヲ受取ルコトヲ拒ミ又ハ之ヲ受取ルコト能ハサルトキハ第二百八十六條ノ規定ヲ準用ス

第三百十九條 第二十七條及ヒ第四十一條ノ規定ハ問屋ニ之ヲ準用ス

第三百二十條 本章ノ規定ハ自己ノ名ヲ以テ他人ノ爲メニ販賣又ハ買入ニ非サル行爲ヲ爲スヲ業トスル者ニ之ヲ準用ス

第七章 運送取扱營業

第三百二十一條 運送取扱人トハ自己ノ名ヲ以テ物品運送ノ取次ヲ爲スヲ業トスル者ヲ謂フ

運送取扱人ニハ本章ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外問屋ニ關スル規定ヲ準用ス

第三百二十二條 運送取扱人ハ自己又ハ其使用人カ運送品ノ受取引渡保管運送人又ハ他ノ運送取扱人ノ選擇其他運送ニ關スル注意ヲ怠ラサリシコトヲ證明スルニ非サレハ運送品ノ滅失毀損又ハ延著ニ付キ損害賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

第三百二十三條 運送取扱人カ運送品ヲ運送人ニ引渡シタルトキハ直チニ其報酬ヲ請求スルコトヲ得

運送取扱契約ヲ以テ運送賃ノ額ヲ定メタルトキハ運送取扱人ハ特約アルニ非サレハ別ニ報酬ヲ請求スルコトヲ得ス

第三百二十四條 運送取扱人ハ運送品ニ關シ受取ルヘキ報酬運送賃其他委託者ノ爲メニ爲シタル立替又ハ前貸ニ付テノミ其運送品ヲ留置スルコトヲ得

第三百二十五條 敷人相次テ運送ノ取次ヲ爲ス場合ニ於テハ後者ハ前者ニ代ハリテ其權利ヲ行使スル義務ヲ負フ

前項ノ場合ニ於テ後者カ前者ニ辨濟ヲ爲シタルトキハ前者ノ權利ヲ取得ス

第三百二十六條 運送取扱人カ運送人ニ辨濟ヲ爲シタルトキハ運送人ノ權利ヲ取得ス

第三百二十七條 運送取扱人ハ特約ナキトキハ自ラ運送ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ運送取扱人ハ運送人ト同一ノ權利義務ヲ有ス

第三百二十八條 運送取扱人ノ責任ハ荷受人カ運送品ヲ受取リタル日ヨリ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

前項ノ期間ハ運送品ノ全部滅失ノ場合ニ於テハ其引渡アルヘカリシ日ヨリ之ヲ起算ス

前二項ノ規定ハ運送取扱人ニ惡意アリタル場合ニハ之ヲ適用セス

第三百二十九條 運送取扱人ノ委託者又ハ荷受人ニ對スル債權ハ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第三百三十條 第三百二十八條及ヒ第三百四十三條ノ規定ハ運送取扱營業ニ之ヲ準用ス

第八章 運送營業

第三百三十一條 運送人トハ陸上又ハ湖川、港灣ニ於テ物品又ハ旅客ノ運送ヲ爲スヲ業トスル者ヲ謂フ

第一節 物品運送

第三百三十二條 荷受人ハ運送人ノ請求ニ因リ運送狀ヲ交付スルコトヲ要ス

運送狀ニハ左ノ事項ヲ記載シ荷受人之ニ署名スルコトヲ要ス

一 運送品ノ種類、重量又ハ容積及ヒ其荷造ノ種類、個數並ニ記號

二 到達地

三 荷受人ノ氏名又ハ商號

四 運送狀ノ作成地及ヒ其作成ノ年月日

第三百三十三條 運送人ハ荷受人ノ請求ニ因リ貨物引換證ヲ交付スルコトヲ要ス

貨物引換證ニハ左ノ事項ヲ記載シ運送人ノ署名スルコトヲ要ス

一 前條第二項第一號乃至第三號ニ掲ケタル事項

二 荷受人ノ氏名又ハ商號

三 運送貨

四 貨物引換證ノ作成地及ヒ其作成ノ年月日

第三百三十四條 貨物引換證ヲ作りタルトキハ運送ニ關スル事項ハ運送人ト所持人トノ間ニ於テハ貨物引換證ノ定ムル所ニ依ル

第三百三十五條 裏書ニ依リテ貨物引換證ヲ讓渡シタルトキハ運送品ノ讓渡ト同一ノ效力ヲ有ス

第三百三十六條 運送品ノ全部又ハ一部カ不可抗力ニ因リテ滅失シタルトキハ運送人ハ其運送貨

ヲ請求スルコトヲ得ス若シ運送人カ既ニ其運送貨ノ全部又ハ一部ヲ受取りタルトキハ之ヲ返還

スルコトヲ要ス

運送品ノ全部又ハ一部カ其性質若クハ瑕疵又ハ荷受人ノ過失ニ因リテ滅失シタルトキハ運送人

ハ運送貨ノ全額ヲ請求スルコトヲ得

第三百三十七條 運送人ハ自己若クハ運送取扱人又ハ其使用人其他運送ノ爲メ使用シタル者カ運

送品ノ受取、引渡、保管及ヒ運送ニ關シ注意ヲ怠ラシコトヲ證明スルニ非サレハ運送品ノ滅

失、毀損又ハ延著ニ付キ損害賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

第三百三十八條 貨幣、有價證券其他ノ高價品ニ付テハ荷受人カ運送ヲ委託スルニ當タリ其種類

及ヒ價額ヲ明告シタルニ非サレハ運送人ハ損害賠償ノ責ニ任セス

第三百三十九條 數人相次テ運送ヲ爲ス場合ニ於テハ各運送人ハ運送品ノ滅失、毀損又ハ延著ニ

付キ連帶シテ損害賠償ノ責ニ任ス

第三百四十條 運送品ノ全部滅失ノ場合ニ於ケル損害賠償ノ額ハ其引渡アルヘカリシ日ニ於ケ

ル到達地ノ價格ニ依リテ之ヲ定ム

運送品ノ一部滅失又ハ毀損ノ場合ニ於ケル損害賠償ノ額ハ其引渡アリタル日ニ於ケル到達地ノ

價格ニ依リテ之ヲ定ム但延著ノ場合ニ於テハ前項ノ規定ヲ準用ス

運送品ノ滅失又ハ毀損ノ爲メ支拂フコトヲ要セサル運送貨其他ノ費用ハ前二項ノ賠償額ヨリ之ヲ控除ス

第三百四十一條 運送品カ運送人ノ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リテ滅失又ハ毀損シタルトキハ運送人ハ一切ノ損害ヲ賠償スル責ニ任ス

第三百四十二條 荷送人又ハ貨物引換證ノ所持人ハ運送人ニ對シ運送ノ中止、運送品ノ返還其他ノ處分ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ運送人ハ既ニ爲シタル運送ノ割合ニ應スル運送貨、立替金及ヒ其處分ニ因リテ生シタル費用ノ辨濟ヲ請求スルコトヲ得

前項ニ定メタル荷送人ノ權利ハ運送品カ到達地ニ達シタル後荷受人カ其引渡ヲ請求シタルトキハ消滅ス

第三百四十三條 運送品カ到達地ニ達シタル後ハ荷受人ハ運送契約ニ因リテ生シタル荷送人ノ權利ヲ取得ス

荷受人カ運送品ヲ受取リタルトキハ運送人ニ對シ運送貨其他ノ費用ヲ支拂フ義務ヲ負フ

第三百四十四條 貨物引換證ヲ作りタル場合ニ於テハ之ト引換ニ非サレハ運送品ノ引渡ヲ請求スルコトヲ得ス

第三百四十五條 荷受人ヲ確知スルコト能ハザルトキハ運送人ハ運送品ヲ供託スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ運送人カ荷送人ニ對シ相當ノ期間ヲ定メ運送品ノ處分ニ付キ指圖ヲ爲スヘキ旨ヲ催告スルモ荷送人カ其指圖ヲ爲サザルトキハ運送品ヲ競賣スルコトヲ得

運送人カ前二項ノ規定ニ從ヒテ運送品ノ供託又ハ競賣ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク荷送人ニ對シ

テ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

第三百四十六條 前條ノ規定ハ運送品ノ引渡ニ關シテ爭アル場合ニ之ヲ準用ス

運送人カ競賣ヲ爲スニハ豫メ荷受人ニ對シ相當ノ期間ヲ定メテ運送品ノ受取ヲ催告シ其期間經過ノ後更ニ荷送人ニ對スル催告ヲ爲スコトヲ要ス

運送人ハ遲滞ナク荷受人ニ對シテモ運送品ノ供託又ハ競賣ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

第三百四十七條 第二百八十六條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ前二條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三百四十八條 運送人ノ責任ハ荷受人カ留保ヲ爲サシテ運送品ヲ受取リ且運送貨其他ノ費用ヲ支拂ヒタルトキハ消滅ス但運送品ニ直チニ發見スルコト能ハサル毀損又ハ一部滅失アリタル場合ニ於テ荷受人カ引渡ノ日ヨリ二週間内ニ運送人ニ對シテ其通知ヲ發シタルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ハ運送人ニ惡意アリタル場合ニハ之ヲ適用セス

第三百四十九條 第三百二十四條、第三百二十五條、第三百二十八條及ヒ第三百二十九條ノ規定ハ運送人ニ之ヲ準用ス

第三百五十條 旅客運送

第三百五十一條 旅客ノ運送人ハ旅客ヨリ引渡ヲ受ケタル手荷物ニ付テハ特ニ運送貨ヲ請求セザルトキト雖モ物品ノ運送人ト同一ノ責任ヲ負フ

第三百五十二條 旅客ノ運送人ハ自己又ハ其使用人カ運送ニ關シ注意ヲ怠ラサリシコトヲ證明スルニ非サレハ旅客カ運送ノ爲メニ受ケタル損害ヲ賠償スル責ヲ免ルルコトヲ得ス

損害賠償ノ額ヲ定ムルニ付テハ裁判所ハ被害者及ヒ其家族ノ情況ヲ斟酌スルコトヲ要ス

第三百五十三條 旅客ノ運送人ハ旅客ヨリ引渡ヲ受ケタル手荷物ニ付テハ特ニ運送貨ヲ請求セザルトキト雖モ物品ノ運送人ト同一ノ責任ヲ負フ

手荷物カ到達地ニ達シタル日ヨリ一週間内ニ旅客カ其引渡ヲ請求セサルトキハ第二百八十六條ノ規定ヲ準用ス但住所又ハ居所ノ知レサル旅客ニハ催告及ヒ通知ヲ爲スコトヲ要セス
第二百五十二條 旅客ノ運送人ハ旅客ヨリ引渡ヲ受ケサル手荷物ノ滅失又ハ毀損ニ付テハ自己又ハ其使用人ニ過失アル場合ヲ除ク外損害賠償ノ責ニ任セス

第九章 寄託

第一節 總則

第二百五十三條 商人カ其營業ノ範圍内ニ於テ寄託ヲ受ケタルトキハ報酬ヲ受ケサルトキト雖モ善良ナル管理者ノ注意ヲ爲スコトヲ要ス

第二百五十四條 旅店、飲食店、浴場其他客ノ來集ヲ目的トスル場屋ノ主人ハ客ヨリ寄託ヲ受ケタル物品ノ滅失又ハ毀損ニ付キ其不可抗力ニ因リタルコトヲ證明スルニ非サレハ損害賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

客カ特ニ寄託セサル物品ト雖モ場屋中ニ携帶シタル物品カ場屋ノ主人又ハ其使用人ノ不注意ニ因リテ滅失又ハ毀損シタルトキハ場屋ノ主人ハ損害賠償ノ責ニ任ス

客ノ携帶品ニ付キ責任ヲ負ハサル旨ヲ告示シタルトキト雖モ場屋ノ主人ハ前二項ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ス

第二百五十五條 貨幣、有價證券其他ノ高價品ニ付テハ客カ其種類及ヒ價額ヲ明告シテ之ヲ前條ノ場屋ノ主人ニ寄託シタルニ非サレハ其場屋ノ主人ハ其物品ノ滅失又ハ毀損ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スル責ニ任セス

第二百五十六條 前二條ノ責任ハ場屋ノ主人カ寄託物ヲ返還シ又ハ客カ携帶品ヲ持去リタル後一

年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

前項ノ期間ハ物品ノ全部滅失ノ場合ニ於テハ客カ場屋ヲ去リタル時ヨリ之ヲ起算ス
前二項ノ規定ハ場屋ノ主人ニ惡意アリタル場合ニハ之ヲ適用セス

第二節 倉庫營業

第二百五十七條 倉庫營業者トハ他人ノ爲メニ物品ヲ倉庫ニ保管スルヲ業トスル者ヲ謂フ

第二百五十八條 倉庫營業者ハ寄託者ノ請求ニ因リ寄託物ノ預證券及ヒ質入證券ヲ交付スルコトヲ要ス

第二百五十九條 預證券及ヒ質入證券ニハ左ノ事項及ヒ番號ヲ記載シ倉庫營業者之ニ署名スルコトヲ要ス

- 一 受寄物ノ種類、品質、數量及ヒ其荷造ノ種類、個數並ニ記號
 - 二 寄託者ノ氏名又ハ商號
 - 三 保管ノ場所
 - 四 保管料
 - 五 保管ノ期間ヲ定メタルトキハ其期間
 - 六 受寄物ヲ保險ニ付シタルトキハ保險金額、保險期間及ヒ保險者ノ氏名又ハ商號
 - 七 證券ノ作成地及ヒ其作成ノ年月日
- 第三百六十條 倉庫營業者カ預證券及ヒ質入證券ヲ寄託者ニ交付シタルトキハ其帳簿ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス
- 一 前條第一號第二號及ヒ第四號乃至第六號ニ掲ケタル事項

二 證券ノ番號及ヒ其作成ノ年月日

第三百六十一條 預證券及ヒ質入證券ノ所持人ハ倉庫營業者ニ對シ寄託物ヲ分割シ且其各部分ニ對スル預證券及ヒ質入證券ノ交付ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ所持人ハ前ノ預證券及ヒ質入證券ヲ倉庫營業者ニ返還スルコトヲ要ス

前項ニ定メタル寄託物ノ分割及ヒ證券ノ交付ニ關スル費用ハ所持人之ヲ負擔ス

第三百六十二條 預證券及ヒ質入證券ヲ作リタルトキハ寄託ニ關スル事項ハ倉庫營業者ト所持人トノ間ニ於テハ其證券ノ定ムル所ニ依ル

第三百六十三條 預證券及ヒ質入證券ヲ作リタルトキハ寄託物ニ關スル處分ハ其證券ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第三百六十四條 預證券及ヒ質入證券ハ其記名式ナルトキト雖モ裏書ニ依リテ之ヲ讓渡シ又ハ之ヲ質入スルコトヲ得但證券ニ裏書ヲ禁スル旨ヲ記載シタルトキハ此限ニ在ラス

預證券ノ所持人カ未タ質入ヲ爲ササル間ハ預證券及ヒ質入證券ハ各別ニ之ヲ讓渡スコトヲ得ス

第三百六十五條 第三百二十五條ノ規定ハ預證券ニ之ヲ準用ス

第三百六十六條 預證券又ハ質入證券カ滅失シタルトキハ其所持人ハ相當ノ擔保ヲ供シテ更ニ其證券ノ交付ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ倉庫營業者ハ其旨ヲ帳簿ニ記載スルコトヲ要ス

第三百六十七條 質入證券ニ第一ノ質入裏書ヲ爲スニハ債權額、其利息及ヒ辨濟期ヲ記載スルコトヲ要ス

第一ノ質權者カ前項ニ掲ケタル事項ヲ預證券ニ記載シテ之ニ署名スルニ非サレハ質權ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第三百六十八條 質入證券ノ所持人カ辨濟期ニ至リ支拂ヲ受ケサルトキハ手形ニ關スル規定ニ從ヒテ拒絕證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス

第三百六十九條 質入證券ノ所持人ハ拒絕證書作成ノ日ヨリ一週間ヲ經過シタル後ニ非サレハ寄託物ノ競賣ヲ請求スルコトヲ得ス

第三百七十條 倉庫營業者ハ競賣代金ノ中ヨリ競賣ニ關スル費用、受寄物ニ課スヘキ租稅、保管料其他保管ニ關スル費用及ヒ立替金ヲ控除シタル後其殘額ヲ質入證券ト引換ニ其所持人ニ支拂フコトヲ要ス

競賣代金ノ中ヨリ前項ニ掲ケタル費用、租稅、保管料、立替金及ヒ質入證券所持人ノ債權額、利息、拒絕證書作成ノ費用ヲ控除シタル後餘剩アルトキハ倉庫營業者ハ之ヲ預證券ト引換ニ其所持人ニ支拂フコトヲ要ス

第三百七十一條 競賣代金ヲ以テ質入證券ニ記載シタル債權ノ全部ヲ辨濟スルコト能ハサリシトキハ倉庫營業者ハ其支拂ヒタル金額ヲ質入證券ニ記載シテ其證券ヲ返還シ且其旨ヲ帳簿ニ記載スルコトヲ要ス

第三百七十二條 質入證券ノ所持人ハ先ツ寄託物ニ付キ辨濟ヲ受ケ尙ホ不足アルトキハ債務者其他ノ裏書人ニ對シテ其不足額ヲ請求スルコトヲ得

第三百七十三條 質入證券ノ所持人カ辨濟期ニ至リ支拂ヲ受ケサリシ場合ニ於テ拒絕證書ヲ作ラシメサリシトキ又ハ拒絕證書作成ノ日ヨリ一週間内ニ寄託物ノ競賣ヲ請求セサリシトキハ裏書人ニ對スル請求權ヲ失フ

第三百七十四條 債務者其他ノ裏書人ニ對スル質入證券所持人ノ請求權ハ辨濟期ヨリ一年間之ヲ

行ハサルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第三百七十五條 寄託者又ハ預證券ノ所持人ハ營業時間内何時ニテモ倉庫營業者ニ對シテ寄託物ノ點檢若クハ其見本ノ抽出ヲ求メ又ハ其保存ニ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

質入證券ノ所持人ハ營業時間内何時ニテモ倉庫營業者ニ對シテ寄託物ノ點檢ヲ求ムルコトヲ得

第三百七十六條 倉庫營業者ハ自己又ハ其使用人カ受寄物ノ保管ニ關シテ注意ヲ怠ラサリシコトヲ證明スルニ非サレハ其滅失又ハ毀損ニ付キ損害賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

第三百七十七條 倉庫營業者ハ受寄物出庫ノ時ニ非サレハ報酬及ヒ立替金其他受寄物ニ關スル費用ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得ス但受寄物ノ一部出庫ノ場合ニ於テハ割合ニ應シテ其支拂ヲ請求スルコトヲ得

第三百七十八條 當事者カ保管ノ期間ヲ定メサリシトキハ倉庫營業者ハ受寄物入庫ノ日ヨリ六ヶ月ヲ經過シタル後ニ非サレハ其返還ヲ爲スコトヲ得ス但已ムコトヲ得サル事由アルトキハ此限ニ在ラス

第三百七十九條 預證券及ヒ質入證券ヲ作りタル場合ニ於テハ之ト引換ニ非サレハ寄託物ノ返還ヲ請求スルコトヲ得ス

第三百八十條 預證券ノ所持人ハ質入證券ニ記載シタル債權ノ辨濟期前ト雖モ其債權ノ全額及ヒ辨濟期マテノ利息ヲ倉庫營業者ニ供託シテ寄託物ノ返還ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ニ從ヒテ供託シタル金額ハ質入證券ト引換ニ之ヲ其所持人ニ支拂フコトヲ要ス

第三百八十一條 第三百八十六條ノ規定ハ寄託者又ハ預證券ノ所持人カ寄託物ヲ受取ルコトヲ拒ミ又ハ之ヲ受取ルコト能ハサル場合ニ之ヲ準用ス

第三百八十二條 第二百四十八條ノ規定ハ倉庫營業者ニ之ヲ準用ス

第三百八十三條 寄託物ノ滅失又ハ毀損ニ因リテ生シタル倉庫營業者ノ責任ハ出庫ノ日ヨリ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

前項ノ期間ハ寄託物ノ全部滅失ノ場合ニ於テハ倉庫營業者カ預證券ノ所持人、若シ其所持人カ知レサルトキハ寄託者ニ對シテ其滅失ノ通知ヲ發シタル日ヨリ之ヲ起算ス

前二項ノ規定ハ倉庫營業者ニ惡意アリタル場合ニハ之ヲ適用セス

第十章 保險

第一節 損害保險

第一款 總則

第三百八十四條 損害保險契約ハ當事者ノ一方カ偶然ナル一定ノ事故ニ因リテ生スルコトアルヘキ損害ヲ填補スルコトヲ約シ相手方カ之ニ其報酬ヲ與フルコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百八十五條 保險契約ハ金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ利益ニ限り之ヲ以テ其目的ト爲スコトヲ得

第三百八十六條 保險金額カ保險契約ノ目的ノ價額ニ超過シタルトキハ其超過シタル部分ニ付テハ保險契約ハ無効トス

第三百八十七條 同一ノ目的ニ付キ同時ニ數箇ノ保險契約ヲ爲シタル場合ニ於テ其保險金額カ保險價額ニ超過シタルトキハ各保險者ノ負擔額ハ其各自ノ保險金額ノ割合ニ依リテ之ヲ定ム

數箇ノ保險契約ノ日附カ同一ナルトキハ其契約ハ同時ニ爲シタルモノト推定ス

第三百八十八條 相次テ數箇ノ保險契約ヲ爲シタルトキハ前ノ保險者先ツ損害ヲ負擔シ若シ其負擔

擔額カ損害ノ全部ヲ填補スルニ足ラサルトキハ後ノ保險者之ヲ負擔ス
第三百八十九條 保險價額ノ全部ヲ保險ニ付シタル後ト雖モ左ノ場合ニ限り更ニ保險契約ヲ爲スコトヲ得

- 一 前ノ保險者ニ對スル權利ヲ後ノ保險者ニ讓渡スコトヲ約シタルトキ
- 二 前ノ保險者ニ對スル權利ノ全部又ハ一部ヲ拋棄スヘキコトヲ後ノ保險者ニ約シタルトキ
- 三 前ノ保險者カ損害ノ填補ヲ爲ササルコトヲ條件トシタルトキ

第三百九十條 同時ニ又ハ相次テ數箇ノ保險契約ヲ爲シタル場合ニ於テ保險者ノ一人ニ對スル權利ノ拋棄ハ他ノ保險者ノ權利義務ニ影響ヲ及ホサス

第三百九十一條 保險價額ノ一部ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ保險者ノ負擔ハ保險金額ノ保險價額ニ對スル割合ニ依リテ之ヲ定ム

第三百九十二條 保險價額カ保險期間中著シク減少シタルトキハ保險契約者ハ保險者ニ對シテ保險金額及ヒ保險料ノ減額ヲ請求スルコトヲ得但保險料ノ減額ハ將來ニ向テノミ其效力ヲ生ス

第三百九十三條 保險者カ填補スヘキ損害ノ額ハ其損害カ生シタル地ニ於ケル其時ノ價額ニ依リテ之ヲ定ム

前項ノ損害額ヲ計算スルニ必要ナル費用ハ保險者之ヲ負擔ス
第三百九十四條 當事者カ保險價額ヲ定メタルトキハ保險者ハ其價額ノ著シク過當ナルコトヲ證明スルニ非サレハ其填補額ノ減少ヲ請求スルコトヲ得ス

第三百九十五條 戰爭其他ノ變亂ニ因リテ生シタル損害ハ特約アルニ非サレハ保險者之ヲ填補スル責ニ任セス

第三百九十六條 保險ノ目的ノ性質若クハ瑕疵其自然ノ消耗又ハ保險契約者若クハ被保險者ノ惡意若クハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル損害ハ保險者之ヲ填補スル責ニ任セス

第三百九十七條 保險契約ノ當時當事者ノ一方又ハ被保險者カ事故ノ生セサルヘキコト又ハ既ニ生シタルコトヲ知レルトキハ其契約ハ無効トス

第三百九十八條 保險契約ノ當時保險契約者カ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ重要ナル事實ヲ告ケス又ハ重要ナル事項ニ付キ不實ノ事ヲ告ケタルトキハ其契約ハ無効トス但保險者カ其事實ヲ知リ又ハ之ヲ知ルコトヲ得ヘカリシトキハ此限ニ在ラス

第三百九十九條 保險契約ノ全部又ハ一部カ無効ナル場合ニ於テ保險契約者及ヒ被保險者カ善意ニシテ且重大ナル過失ナキトキハ保險者ニ對シテ保險料ノ全部又ハ一部ノ返還ヲ請求スルコトヲ得

第四百條 保險契約ノ當事者カ特別ノ危險ヲ斟酌シテ保險料ノ額ヲ定メタル場合ニ於テ保險期間中其危險カ消滅シタルトキハ保險契約者ハ將來ニ向テ保險料ノ減額ヲ請求スルコトヲ得

第四百一條 保險契約ハ他人ノ爲メニモ之ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ保險契約者ハ保險者ニ對シ保險料ヲ支拂フ義務ヲ負フ

第四百二條 保險契約者カ委任ヲ受ケメシテ他人ノ爲メニ契約ヲ爲シタル場合ニ於テ其旨ヲ保險者ニ告ケサルトキハ其契約ハ無効トス若シ之ヲ告ケタルトキハ被保險者ハ當然其契約ノ利益ヲ享受ス

第四百三條 保險者ハ保險契約者ノ請求ニ因リ保險證券ヲ交付スルコトヲ要ス

保險證券ニハ左ノ事項ヲ記載シ保險者之ニ署名スルコトヲ要ス

一 保險ノ目的
 二 保險者ノ負擔シタル危險
 三 保險價額ヲ定メタルトキハ其價額
 四 保險金額
 五 保險料及ヒ其支拂ノ方法
 六 保險期間ヲ定メタルトキハ其始期及ヒ終期
 七 保險契約者ノ氏名又ハ商號
 八 保險契約ノ年月日
 九 保險證券ノ作成地及ヒ其作成ノ年月日
 第四百四條 被保險者カ保險ノ目的ヲ讓渡シタルトキハ同時ニ保險契約ニ因リテ生シタル權利ヲ讓渡シタルモノト推定ス
 前項ノ場合ニ於テ保險ノ目的ノ讓渡カ著シク危險ヲ變更又ハ増加シタルトキハ保險契約ハ其效力ヲ失フ
 第四百五條 保險者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ保險契約者ハ相當ノ擔保ヲ供セシメ又ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得
 前項ノ場合ニ於テ保險契約者カ契約ノ解除ヲ爲シタルトキハ其解除ハ將來ニ向テノミ其效力ヲ生ス
 前二項ノ規定ハ保險契約者カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス但保險契約者カ既ニ保險料ノ全部ヲ支拂ヒタルトキハ此限ニ在ラス

第四百六條 他人ノ爲メニ保險契約ヲ爲シタル場合ニ於テ保險契約者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ保險者ハ被保險者ニ對シテ保險料ヲ請求スルコトヲ得但被保險者カ其權利ヲ拋棄シタルトキハ此限ニ在ラス
 第四百七條 保險者ノ責任カ始マル前ニ於テハ保險契約者ハ契約ノ全部又ハ一部ノ解除ヲ爲スコトヲ得
 第四百八條 保險者ノ責任カ始マル前ニ於テ保險契約者又ハ被保險者ノ行爲ニ因ラスシテ保險ノ目的ノ全部又ハ一部ニ付キ保險者ノ負擔ニ歸スヘキ危險カ生セサルニ至リタルトキハ保險者ハ保險料ノ全部又ハ一部ヲ返還スルコトヲ要ス
 第四百九條 前二條ノ場合ニ於テハ保險者ハ其返還スヘキ保險料ノ半額ニ相當スル金額ヲ請求スルコトヲ得
 第四百十條 保險期間中危險カ保險契約者又ハ被保險者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ著シク變更又ハ増加シタルトキハ保險契約ハ其效力ヲ失フ
 第四百十一條 保險期間中危險カ保險契約者又ハ被保險者ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リテ著シク變更又ハ増加シタルトキハ保險者ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但其解除ハ將來ニ向テノミ其效力ヲ生ス
 前項ノ場合ニ於テ保險契約者又ハ被保險者カ危險ノ著シク變更又ハ増加シタルコトヲ知リタルトキハ遲滞ナク之ヲ保險者ニ通知スルコトヲ要ス若シ其通知ヲ怠リタルトキハ保險者ハ危險ノ變更又ハ増加ノ時ヨリ保險契約カ其效力ヲ失ヒタルモノト看做スコトヲ得
 保險者カ前項ノ通知ヲ受ケ又ハ危險ノ變更若クハ増加ヲ知リタル後遲滞ナク契約ノ解除ヲ爲サ

サルトキハ其契約ヲ承認シタルモノト看做ス

第四百十二條 保險者ノ負擔シタル危險ノ發生ニ因リテ損害カ生シタル場合ニ於テ保險契約者又ハ被保險者カ其損害ノ生シタルコトヲ知リタルトキハ遲滞ナク保險者ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

第四百十三條 保險ノ目的ニ付キ保險者ノ負擔スヘキ損害カ生シタルトキハ其後ニ至リ其目的カ保險者ノ負擔セサル危險ノ發生ニ因リテ滅失シタルトキト雖モ保險者ハ其損害ヲ填補スル責ヲ免ルルコトヲ得ス

第四百十四條 被保險者ハ損害ノ防止ヲ力ムルコトヲ要ス但之カ爲メニ必要又ハ有益ナリシ費用及ヒ填補額カ保險金額ニ超過スルトキト雖モ保險者之ヲ負擔ス

第四百十五條 保險ノ目的ノ全部カ滅失シタル場合ニ於テ保險者カ保險金額ノ全部ヲ支拂ヒタルトキハ被保險者カ其目的ニ付キ有セル權利ヲ取得ス但保險金額ノ一部ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ保險者ノ權利ハ保險金額ノ保險價額ニ對スル割合ニ依リテ之ヲ定ム

第四百十六條 損害カ第三者ノ行爲ニ因リテ生シタル場合ニ於テ保險者カ被保險者ニ對シ其負擔額ヲ支拂ヒタルトキハ其支拂ヒタル金額ノ限度ニ於テ保險契約者又ハ被保險者カ第三者ニ對シテ有セル權利ヲ取得ス

保險者カ被保險者ニ對シ其負擔額ノ一部ヲ支拂ヒタルトキハ保險契約者又ハ被保險者ノ權利ヲ害セサル範圍内ニ於テノミ前項ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ得

第四百十七條 保險金額支拂ノ義務ハ二年保險料支拂ノ義務ハ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因

リテ消滅ス

第四百十八條 本節ノ規定ハ相互保險ニ之ヲ準用ス但其性質カ之ヲ許ササルトキハ此限ニ在ラス

第二款 火災保險

第四百十九條 火災ニ因リテ生シタル損害ハ其火災ノ原因如何ヲ問ハス保險者之ヲ填補スル責ニ任ス但第三百九十五條及ヒ第三百九十六條ノ場合ハ此限ニ在ラス

第四百二十條 消防又ハ避難ニ必要ナル處分ニ因リ保險ノ目的ニ付キ生シタル損害ハ保險者之ヲ填補スル責ニ任ス

第四百二十一條 賃借人其他他人ノ物ヲ保管スル者カ其支拂フコトアルヘキ損害賠償ノ爲メ其物ヲ保險ニ付シタルトキハ所有者ハ保險者ニ對シテ直接ニ其損害ノ填補ヲ請求スルコトヲ得

第四百二十二條 火災保險證券ニハ第四百三條第二項ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 保險ニ付シタル建物ノ所在、構造及ヒ用方
- 二 動産ヲ保險ニ付シタルトキハ之ヲ納ルル建物ノ所在、構造及ヒ用方

第三款 運送保險

第四百二十三條 保險者ハ特約ナキトキハ運送人カ運送品ヲ受取リタル時ヨリ之ヲ荷受人ニ引渡ス時マテニ生スルコトアルヘキ損害ヲ填補スル責ニ任ス

第四百二十四條 運送品ノ保險ニ付テハ發送ノ地及ヒ時ニ於ケル其價額及ヒ到達地マテノ運送賃其他ノ費用ヲ以テ保險價額トス

運送品ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益ハ特約アルトキニ限り之ヲ保險價額中ニ算入ス

第四百二十五條 運送保險證券ニハ第四百三條第二項ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 運送ノ道筋及ヒ方法
- 二 運送人ノ氏名又ハ商號
- 三 運送品ノ受取及ヒ引渡ノ場所
- 四 運送期間ノ定アルトキハ其期間

第四百二十六條 保險契約ハ特約アルニ非サレハ運送上ノ必要ニ因リ一時運送ヲ中止シ又ハ運送ノ道筋若クハ方法ヲ變更シタルトキト雖モ其效力ヲ失ハス

第二節 生命保險

第四百二十七條 生命保險契約ハ當事者ノ一方カ相手方又ハ第三者ノ生死ニ關シ一定ノ金額ヲ支拂フヘキコトヲ約シ相手方カ之ニ其報酬ヲ與フルコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第四百二十八條 保險金額ヲ受取ルヘキ者ハ被保險者其相續人又ハ親族ナルコトヲ要ス

保險契約ニ因リテ生シタル權利ハ被保險者ノ親族ニ限りテ之ヲ讓受クルコトヲ得

保險金額ヲ受取ルヘキ者カ死亡シタルトキ又ハ被保險者ト保險金額ヲ受取ルヘキ者トノ親族關係カ止ミタルトキハ保險契約者ハ更ニ保險金額ヲ受取ルヘキ者ヲ定メ又ハ被保險者ノ爲メニ積立テタル金額ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得

保險契約者カ前項ニ定メタル權利ヲ行ハスシテ死亡シタルトキハ被保險者ヲ以テ保險金額ヲ受取ルヘキ者トス

第四百二十九條 保險契約ノ當時保險契約者又ハ被保險者カ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ重要ナ

ル事實ヲ告ケス又ハ重要ナル事項ニ付キ不實ノ事ヲ告ケタルトキハ其契約ハ無効トス但保險者カ其事實ヲ知り又ハ之ヲ知ルコトヲ得ヘカリシトキハ此限ニ在ラス

第四百三十條 生命保險證券ニハ第四百三條第二項ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 保險契約ノ種類
- 二 被保險者ノ氏名
- 三 保險金額ヲ受取ルヘキ者ヲ定メタルトキハ其者ノ氏名及ヒ其者ト被保險者トノ親族關係

第四百三十一條 左ノ場合ニ於テハ保險者ハ保險金額ヲ支拂フ責ニ任セス

- 一 被保險者カ自殺決闘其他ノ犯罪又ハ死刑ノ執行ニ因リテ死亡シタルトキ
- 二 保險金額ヲ受取ルヘキ者カ故意ニテ被保險者ヲ死ニ致シタルトキ但其者カ保險金額ノ一部ヲ受取ルヘキ場合ニ於テハ保險者ハ其殘額ヲ支拂フ責ヲ免ルルコトヲ得ス

前項第一號ノ場合ニ於テハ保險者ハ被保險者ノ爲メニ積立テタル金額ヲ拂戻スコトヲ要ス

第四百三十二條 保險契約者又ハ保險金額ヲ受取ルヘキ者カ被保險者ノ死亡シタルコトヲ知リタルトキハ遲滞ナク保險者ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

第四百三十三條 第三百九十五條、第三百九十七條、第三百九十九條乃至第四百一條、第四百三條第一項、第四百五條乃至第四百七條、第四百十條、第四百十一條、第四百十七條及ヒ第四百十八條ノ規定ハ生命保險ニ之ヲ準用ス

第三百九十五條、第四百五條、第四百七條、第四百十條及ヒ第四百十一條ノ場合ニ於テ保險者カ保險金額ヲ支拂フコトヲ要セサルトキハ被保險者ノ爲メニ積立テタル金額ヲ拂戻スコトヲ要ス

第四編 手形

第一章 總則

第四百三十四條 本法ニ於テ手形トハ爲替手形、約束手形及ヒ小切手ヲ謂フ

第四百三十五條 手形ニ署名シタル者ハ其手形ノ文言ニ從ヒテ責任ヲ負フ

第四百三十六條 代理人カ本人ノ爲メニスルコトヲ記載セスシテ手形ニ署名シタルトキハ本人ハ手形上ノ責任ヲ負フコトナシ

第四百三十七條 偽造又ハ變造シタル手形ニ署名シタル者ハ其偽造又ハ變造シタル手形ノ文言ニ從ヒテ責任ヲ負フ

變造シタル手形ニ署名シタル者ハ變造前ニ署名シタルモノト推定ス

偽造者、變造者及ヒ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ偽造又ハ變造シタル手形ヲ取得シタル者ハ手形上ノ權利ヲ有セス

第四百二十八條 無能力者カ手形ヨリ生シタル債務ヲ取消シタルトキト雖モ他ノ手形上ノ權利義務ニ影響ヲ及ボサス

第四百二十九條 本編ニ規定ナキ事項ハ之ヲ手形ニ記載スルモ手形上ノ效力ヲ生セス

第四百四十條 手形ノ債務者ハ本編ニ規定ナキ事由ヲ以テ手形上ノ請求ヲ爲ス者ニ對抗スルコトヲ得ス但直接ニ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ事由ハ此限ニ在ラス

第四百四十一條 何人ト雖モ惡意又ハ重大ナル過失ナクシテ手形ヲ取得シタル者ニ對シ其手形ノ返還ヲ請求スルコトヲ得ス

第四百四十二條 手形ノ引受又ハ支拂ヲ求ムル爲メニスル呈示、拒絕證書ノ作成其他手形上ノ權利

利ノ行使又ハ保全ニ付キ利害關係人ニ對シテ爲スヘキ行爲ハ其營業所、若シ營業所ナキトキハ其住所又ハ居所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス但其者ノ承諾アルトキハ他ノ場所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ妨ケス

利害關係人ノ營業所、住所又ハ居所カ知レサルトキハ拒絕證書ヲ作ルヘキ公證人又ハ執達吏ハ其地ノ官署又ハ公署ニ問合ヲ爲スコトヲ要ス若シ問合ヲ爲スモ營業所、住所又ハ居所カ知レサルトキハ其役場又ハ官署若クハ公署ニ於テ拒絕證書ヲ作ルコトヲ得

第四百四十三條 引受人又ハ約束手形ノ振出人ニ對スル債權ハ滿期日ヨリ三年所持人ノ其前者ニ對スル償還請求權ハ支拂拒絕證書作成ノ日ヨリ六ヶ月裏書人ノ其前者ニ對スル償還請求權ハ償還ヲ爲シタル日ヨリ六ヶ月ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第四百四十四條 手形ヨリ生シタル債權カ時効又ハ手續ノ欠缺ニ因リテ消滅シタルトキト雖モ所持人ハ振出人又ハ引受人ニ對シ其受ケタル利益ノ限度ニ於テ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第二章 爲替手形

第一節 振出

第四百四十五條 爲替手形ニハ左ノ事項ヲ記載シ振出人ニ署名スルコトヲ要ス

- 一 其爲替手形タルコトヲ示スヘキ文字
- 二 一定ノ金額
- 三 支拂人ノ氏名又ハ商號
- 四 受取人ノ氏名又ハ商號
- 五 單純ナル支拂ノ委託

六 振出ノ年月日
七 一定ノ満期日
八 支拂地

第四百四十六條 爲替手形ノ主タル部分ニ記載シタル金額カ他ノ部分ニ記載シタル金額ト異ナルトキハ主タル部分ニ記載シタル金額ヲ以テ手形金額トス

第四百四十七條 振出人ハ自己ヲ受取人又ハ支拂人ト定ムルコトヲ得

第四百四十八條 振出人ハ爲替手形ニ其支拂地ニ於ケル豫備支拂人ヲ記載スルコトヲ得

第四百四十九條 爲替手形ハ其金額三十圓以上ノモノニ限り之ヲ無記名式ト爲スコトヲ得

第四百五十條 満期日ハ左ニ掲ケタル種類ノ一タルコトヲ要ス

一 確定セル日

二 日附後確定セル期間ヲ經過シタル日

三 一覽ノ日

四 一覽後確定セル期間ヲ經過シタル日

第四百五十一條 振出人カ爲替手形ニ満期日ヲ記載セサリシトキハ一覽ノ日ヲ以テ其爲替手形ノ満期日トス

第四百五十二條 振出人カ爲替手形ニ支拂地ヲ記載セサリシトキハ其爲替手形ニ記載シタル支拂人ノ住所地ヲ以テ其支拂地トス

第四百五十三條 支拂地カ支拂人ノ住所地下異ナルトキハ他人ヲ以テ支拂擔當者トシテ爲替手形ニ記載スルコトヲ得

第四百五十四條 振出人ハ爲替手形ニ其支拂地ニ於ケル支拂ノ場所ヲ記載スルコトヲ得

第二節 裏書

第四百五十五條 爲替手形ハ其記名式ナルトキト雖モ裏書ニ依リテ之ヲ讓渡スコトヲ得但振出人カ裏書ヲ禁スル旨ヲ記載シタルトキハ此限ニ在ラス

第四百五十六條 振出人、引受人又ハ裏書人カ裏書ニ依リテ爲替手形ヲ讓受ケタルトキハ更ニ裏書ニ依リテ之ヲ讓渡スコトヲ得

第四百五十七條 裏書ハ爲替手形、其謄本又ハ補箋ニ被裏書人ノ氏名又ハ商號及ヒ裏書ノ年月日ヲ記載シ裏書人署名スルニ依リテ之ヲ爲ス

裏書ハ裏書人ノ署名ノミヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ爾後爲替手形ハ引渡ノミニ依リテ之ヲ讓渡スコトヲ得

第四百五十八條 裏書人ハ裏書ヲ爲スニ當タリ支拂地ニ於ケル豫備支拂人ヲ記載スルコトヲ得

第四百五十九條 裏書人ハ裏書ヲ爲スニ當タリ手形上ノ責任ヲ負ハサル旨ヲ記載スルコトヲ得

第四百六十條 裏書人カ裏書ヲ爲スニ當タリ爾後裏書ヲ禁スル旨ヲ記載シタルトキハ其裏書人ハ被裏書人ノ後者ニ對シテ手形上ノ責任ヲ負フコトナシ

第四百六十一條 裏書人カ其署名ノミヲ以テ裏書ヲ爲シタルトキハ所持人ハ自己ヲ其被裏書人ト爲スコトヲ得

第四百六十二條 支拂拒絶證書作成ノ期間經過ノ後所持人カ裏書ヲ爲シタルトキハ被裏書人ハ裏書人ノ有シタル權利ノミヲ取得ス此場合ニ於テハ其裏書人ハ手形上ノ責任ヲ負フコトナシ

第四百六十三條 所持人ハ裏書ニ依リテ爲替手形ノ質入ヲ爲シ又ハ其取立ノ委任ヲ爲スコトヲ得

此場合ニ於テハ裏書ニ其目的ヲ附記スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ被裏書人ハ同一ノ目的ヲ以テ更ニ裏書ヲ爲スコトヲ得

第四百六十四條 裏書アル爲替手形ノ所持人ハ其裏書カ連續スルニ非サレハ其權利ヲ行フコトヲ得ス但署名ノミヲ以テ爲シタル裏書アルトキハ次ノ裏書人ハ其裏書ニ因リテ爲替手形ヲ取得シタルモノト看做ス

第三節 引受

第四百六十五條 所持人ハ何時ニテモ爲替手形ヲ支拂人ニ呈示シテ其引受ヲ求ムルコトヲ得

第四百六十六條 一覽後定期拂ノ爲替手形ノ所持人ハ其日附ヨリ一年内ニ爲替手形ヲ支拂人ニ呈示シテ其引受ヲ求ムルコトヲ要ス但振出人ハ之ヨリ短キ呈示期間ヲ定ムルコトヲ得

所持人カ拒絕證書ニ依リ前項ニ定メタル呈示ヲ爲シタルコトヲ證明セサルトキハ其前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

第四百六十七條 所持人カ一覽後定期拂ノ爲替手形ヲ呈示シタル場合ニ於テ支拂人カ其引受ヲ爲サス又ハ引受ノ日附ヲ爲替手形ニ記載セサリシトキハ所持人ハ呈示期間内ニ拒絕證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス此場合ニ於テハ其拒絕證書作成ノ日ヲ以テ呈示ノ日ト看做ス

所持人カ拒絕證書ヲ作ラシメサリシトキハ其前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

引受人カ引受ノ日附ヲ記載セサリシ場合ニ於テ所持人カ拒絕證書ヲ作ラシメサリシトキハ呈示期間ノ末日ヲ以テ呈示ノ日ト看做ス

第四百六十八條 引受ハ爲替手形ニ其旨ヲ記載シ支拂人署名スルニ依リテ之ヲ爲ス

支拂人カ爲替手形ニ署名シタルトキハ其引受ヲ爲シタルモノト看做ス

第四百六十九條 支拂人ハ手形金額ノ一部ニ付キ引受ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ヲ除ク外支拂人カ爲替手形ノ單純ナル引受ヲ爲ササリシトキハ其引受ヲ拒絕シタルモノト看做ス但引受人ハ其引受ノ文言ニ從ヒテ責任ヲ負フ

第四百七十條 支拂人ハ爲替手形ノ引受ニ因リ満期日ニ於テ其引受ケタル金額ヲ支拂フ義務ヲ負フ

第四百七十一條 引受人カ爲替手形ノ支拂ヲ爲ササリシ場合ニ於テ其所持人又ハ償還ヲ爲シタル裏書人若クハ振出人ニ對シテ支拂フヘキ金額ハ第四百九十一條又ハ第四百九十二條ノ規定ニ依リテ之ヲ定ム

第四百七十二條 支拂地カ支拂人ノ住所ト異ナル場合ニ於テ振出人カ爲替手形ニ支拂擔當者ヲ記載セサリシトキハ支拂人ハ其引受ヲ爲スニ當タリ之ヲ記載スルコトヲ得若シ支拂人カ之ヲ記載セサリシトキハ支拂地ニ於テ自ラ支拂ヲ爲ス責ニ任ス

前項ノ場合ニ於テ振出人ハ爲替手形ニ其引受ヲ求ムル爲メ之ヲ呈示スヘキ旨ヲ記載スルコトヲ得此場合ニ於テ所持人カ拒絕證書ニ依リ其呈示ヲ爲シタルコトヲ證明セサルトキハ其前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

第四百七十三條 支拂人ハ引受ヲ爲スニ當タリ爲替手形ニ其支拂地ニ於ケル支拂ノ場所ヲ記載スルコトヲ得

第四節 擔保ノ請求

第四百七十四條 支拂人カ爲替手形ノ引受ヲ爲ササリシトキハ所持人ハ其前者ニ對シ手形金額及ヒ費用ニ付キ相當ノ擔保ヲ請求スルコトヲ得

支拂人カ手形金額ノ一部ニ付キ引受ヲ爲シタルトキハ所持人ハ其殘額及ヒ費用ニ付キ相當ノ擔保ヲ請求スルコトヲ得

第四百七十五條 爲替手形ノ所持人カ前條ノ請求ヲ爲サント欲スルトキハ引受拒絕證書ヲ作ラシメ且擔保ヲ供セシメント欲スル者ニ對シ遲滞ナク擔保請求ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

第四百七十六條 裏書人カ其後者ヨリ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ其前者ニ對シ其擔保スヘキ金額及ヒ費用ニ付キ相當ノ擔保ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ裏書人ハ擔保ヲ供セシメント欲スル者ニ對シ遲滞ナク擔保請求ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

第四百七十七條 前三條ノ規定ニ依リテ擔保ノ請求ヲ受ケタル者ハ遲滞ナク引受拒絕證書ト引換ニ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス但擔保ニ代ヘテ相當ノ金額ヲ供託スルコトヲ得

第四百七十八條 前者カ擔保ヲ供シ又ハ供託ヲ爲シタルトキハ其後者全員ノ爲メ且其後者全員ニ對シテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

所持人又ハ裏書人カ第四百七十五條又ハ第四百七十六條第二項ノ通知ヲ發シタルトキハ其通知ヲ受ケル者ノ後者全員ノ爲メニシタルモノト看做ス

第四百七十九條 左ノ場合ニ於テハ第四百七十七條ノ規定ニ依リテ供シタル擔保ハ其效力ヲ失ヒ又供託シタル金額ハ之ヲ取戻スコトヲ得

一 後日ニ至リ爲替手形ノ單純ナル引受アリタルトキ

二 手形金額及ヒ費用ノ支拂アリタルトキ

三 擔保ヲ供シ若クハ供託ヲ爲シタル者又ハ其前者カ償還ヲ爲シタルトキ

四 手形上ノ權利カ時効又ハ手續ノ欠缺ニ因リテ消滅シタルトキ

五 擔保ヲ供シ又ハ供託ヲ爲シタル者カ満期日ヨリ一年內ニ償還ノ請求ヲ受ケサリシトキ

第四百八十條 引受人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ相當ノ擔保ヲ供セサルトキハ所持人ハ豫備支拂人ノ引受ヲ求ムルコトヲ得但拒絕證書ヲ作ラシメ且遲滞ナク豫備支拂人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

豫備支拂人ナキトキ又ハ豫備支拂人カ單純ナル引受ヲ爲ササリシトキハ所持人ハ其前者ニ對シテ相當ノ擔保ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ第四百七十四條乃至第四百七十八條ノ規定ヲ準用ス

第四百八十一條 左ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ニ依リテ供シタル擔保ハ其效力ヲ失ヒ又供託シタル金額ハ之ヲ取戻スコトヲ得

一 豫備支拂人カ後日ニ至リ單純ナル引受ヲ爲シタルトキ

二 引受人カ後日ニ至リ相當ノ擔保ヲ供シタルトキ

三 第四百七十九條第二號乃至第五號ノ場合

第五節 支拂

第四百八十二條 一覽拂ノ爲替手形ノ所持人ハ其日附ヨリ一年內ニ爲替手形ヲ呈示シテ其支拂ヲ求ムルコトヲ要ス但振出人ハ之ヨリ短キ呈示期間ヲ定ムルコトヲ得

所持人カ拒絕證書ニ依リ前項ニ定メタル呈示ヲ爲シタルコトヲ證明セサルトキハ其前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

第四百八十三條 支拂ハ爲替手形ト引換ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ要セス

支拂ヲ爲ス者ハ所持人ヲシテ爲替手形ニ其支拂ヲ受ケタル旨ヲ記載セシメ且之ニ署名セシムルコトヲ得

第四百八十四條 手形金額ノ全部ニ付キ引受アリタルトキト雖モ所持人ハ其一部ノ支拂ヲ拒ムコトヲ得ス

一部ノ支拂アリタルトキハ所持人ハ其旨ヲ爲替手形ニ記載シ且其原本ヲ作リ署名ノ後之ヲ交付スルコトヲ要ス

第四百八十五條 爲替手形ノ支拂ノ請求ナキトキハ引受人ハ支拂拒絶證書作成ノ期間經過ノ後手形金額ヲ供託シテ其債務ヲ免ルルコトヲ得

第六節 償還ノ請求

第四百八十六條 支拂人カ爲替手形ノ支拂ヲ爲ササリシトキハ所持人ハ其前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第四百八十七條 所持人カ前條ノ請求ヲ爲サント欲スルトキハ支拂ヲ求ムル爲メ爲替手形ヲ支拂人ニ呈示シ、若シ手形金額ノ支拂ナキトキハ満期日又ハ其後二日內ニ支拂拒絶證書ヲ作ラシメ且償還ヲ爲サシメント欲スル者ニ對シテ拒絶證書作成ノ翌日マテニ償還請求ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

所持人カ前項ニ定メタル手續ヲ爲ササリシトキハ其前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

第四百八十八條 裏書人カ其後者ヨリ前條第一項ノ通知ヲ受ケタルトキハ其前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ裏書人ハ償還ヲ爲サシメント欲スル者ニ對シ自己カ通知ヲ受ケタル日ノ翌日

マテニ償還請求ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

第四百八十九條 爲替手形ノ所持人ハ支拂拒絶證書ヲ作ラシメサリシトキト雖モ其作成ヲ免除シタル者ニ對シテハ手形上ノ權利ヲ失フコトナレ

所持人カ支拂拒絶證書ヲ作ラシメタルトキハ其作成ヲ免除シタル者ト雖モ其費用ヲ償還スル義務ヲ免ルルコトヲ得ス

第四百九十條 支拂地カ支拂人ノ住所地下異ナル場合ニ於テ所持人カ償還ノ請求ヲ爲サント欲スルトキハ支拂擔當者ニ若シ爲替手形ニ支拂擔當者ノ記載ナキトキハ支拂地ニ於テ支拂人ニ爲替手形ヲ呈示シテ其支拂ヲ求ムルコトヲ要ス此場合ニ於テ支拂擔當者又ハ支拂人カ支拂ヲ爲ササリシトキハ所持人ハ支拂地ニ於テ第四百八十七條第一項ノ規定ニ從ヒ支拂拒絶證書ヲ作ラシメ且償還請求ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

爲替手形ニ支拂擔當者ノ記載アル場合ニ於テ所持人カ前項ニ定メタル手續ヲ爲ササリシトキハ引受人ニ對シテモ手形上ノ權利ヲ失フ

第四百九十一條 爲替手形ノ所持人ハ左ノ金額ニ付キ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

一 支拂アラサリシ手形金額及ヒ満期日以後ノ法定利息

二 拒絶證書作成ノ手数料其他ノ費用

前項ノ金額ハ償還ノ請求ヲ受クル者ノ住所地下支拂地ト異ナル場合ニ於テハ支拂地ヨリ償還ノ請求ヲ受クル者ノ住所地下宛テ振出シタル一覽拂ノ爲替手形ノ相場ニ依リテ之ヲ計算ス若シ支拂地ニ於テ其相場ナキトキハ償還ノ請求ヲ受クル者ノ住所地下最モ近キ地ニ宛テ振出シタル一覽拂ノ爲替手形ノ相場ニ依ル

第四百九十二條 償還ノ請求ヲ受ケタル裏書人ハ左ノ金額ニ付キ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

一 其支拂ヒタル金額及ヒ支拂ノ日以後ノ法定利息

二 其支出シタル費用

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四百九十三條 爲替手形ノ所持人又ハ裏書人ハ償還ノ請求ヲ爲ス爲メ其前者ヲ支拂人トシテ更ニ爲替手形ヲ振出スコトヲ得

第四百九十四條 所持人又ハ裏書人カ前條ノ規定ニ依リテ振出ス爲替手形ハ償還ノ請求ヲ受クル者ノ住所ヲ以テ其支拂地ト定メタル一覽拂ノモノタルコトヲ要ス

所持人カ振出ス爲替手形ニハ本爲替手形ノ支拂地ヲ以テ振出地ト定メ裏書人カ振出ス爲替手形ニハ其住所ヲ以テ振出地ト定ムルコトヲ要ス

第四百九十五條 償還ハ爲替手形支拂拒絕證書及ヒ償還計算書ト引換ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ要セス

償還ヲ爲ス者ハ之ヲ受クル者ヲシテ償還計算書ニ償還ヲ受ケタル旨ヲ記載セシメ且之ニ署名セシムルコトヲ得

第四百九十六條 第四百七十八條第二項ノ規定ハ償還ノ請求ニ之ヲ準用ス

第七節 保證

第四百九十七條 爲替手形ヨリ生シタル債務ヲ保證スル爲メ爲替手形其附本又ハ補箋ニ署名シタル者ハ其債務カ無効ナルトキト雖モ主タル債務者ト同一ノ責任ヲ負フ

第四百九十八條 何人ノ爲メニ保證ヲ爲シタルカ分明ナラサルトキハ其保證ハ引受人ノ爲メニ之

ヲ爲シタルモノト看做ス但未タ引受アラサリシトキハ振出人ノ爲メニ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第四百九十九條 保證人カ其債務ヲ履行シタルトキハ所持人カ主タル債務者ニ對シテ有セシ權利及ヒ主タル債務者カ其前者ニ對シテ有スヘキ權利ヲ取得ス

第八節 參加

第一款 參加引受

第五百條 爲替手形ノ所持人カ引受拒絕證書ヲ作ラシメタル場合ニ於テ豫備支拂人アルトキハ其豫備支拂人ニ引受ヲ求メタル後ニ非サレハ其前者ニ對シテ擔保ヲ請求スルコトヲ得ス

豫備支拂人カ引受ヲ爲ササリシトキハ所持人ハ其旨ヲ引受拒絕證書ニ記載セシムルコトヲ要ス

第五百一條 爲替手形ノ所持人ハ豫備支拂人ニ非サル者ノ參加引受ヲ拒ムコトヲ得

第五百二條 參加引受ヲ爲サントスル者數人アルトキハ所持人ハ其選擇ニ從ヒ其一人ヲ引受ヲ爲サシムルコトヲ得

第五百三條 參加引受ハ爲替手形ニ其旨ヲ記載シ參加引受人署名スルニ依リテ之ヲ爲ス

參加引受人カ爲替手形ニ被參加人ヲ定メサリシトキハ其引受ハ振出人ノ爲メニ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第五百四條 所持人ハ引受拒絕證書ニ參加引受アリタル旨ヲ記載セシメ且其證書作成ノ費用ノ支拂ト引換ニ之ヲ參加引受人ニ交付スルコトヲ要ス參加引受人ハ遲滞ナク前項ノ拒絕證書ヲ被參加人ニ送付スルコトヲ要ス

第五百五條 參加引受人ハ支拂人カ手形金額ノ支拂ヲ爲ササル場合ニ於テ被參加人ノ後者ニ對シ

支拂アラサリシ手形金額及ヒ費用ヲ支拂フ義務ヲ負フ但所持人カ滿期日又ハ其後二日內ニ支拂
ヲ求ムル爲メ爲替手形ヲ參加引受人ニ呈示セサルトキハ參加引受人ハ其義務ヲ免ル
第五百六條 爲替手形ノ所持人其他被參加人ノ後者ハ參加引受人ニ因リテ擔保ヲ請求スル權利ヲ失
フ

第五百七條 被參加人ハ其前者ニ對シテ擔保ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ第四百七十五條
乃至第四百七十九條ノ規定ヲ準用ス

第二款 參加支拂

第五百八條 爲替手形ノ所持人カ支拂拒絕證書ヲ作ラレタル場合ニ於テ豫備支拂人又ハ參加引
受人アルトキハ所持人ハ滿期日又ハ其後二日內ニ參加引受人ニ若シ參加引受人ナキトキ又ハ
參加引受人カ支拂ヲ爲ササリシトキハ豫備支拂人ニ爲替手形ヲ呈示シテ其支拂ヲ求メタル後ニ
非サレハ其前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

參加引受人又ハ豫備支拂人カ支拂ヲ爲ササリシトキハ所持人ハ其旨ヲ支拂拒絕證書ニ記載セシ
ムルコトヲ要ス

所持人カ前二項ニ定メタル手續ヲ爲ササリシトキハ豫備支拂人ヲ指定シタル者又ハ被參加人及
ヒ其後者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

第五百九條 爲替手形ノ所持人ハ豫備支拂人又ハ參加引受人ニ非サル者ノ參加支拂ト雖モ之ヲ拒
ムコトヲ得ス若シ之ヲ拒ミタルトキハ被參加人及ヒ其後者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

第五百十條 參加支拂ヲ爲サントスル者數人アルトキハ所持人ハ最も多數ノ者ヲシテ債務ヲ免レ
シムル效力ヲ有スル支拂ヲ受クルコトヲ要ス

第五百十一條 豫備支拂人又ハ參加引受人ニ非サル參加支拂人カ被參加人ヲ示ササリシトキハ其
支拂ハ支拂人ノ爲メニ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第五百十二條 所持人ハ支拂拒絕證書ニ參加支拂アリタル旨ヲ記載セシメ且手形金額及ヒ費用ノ
支拂ト引換ニ其拒絕證書及ヒ爲替手形ヲ參加支拂人ニ交付スルコトヲ要ス

第五百十三條 參加支拂人カ支拂ヲ爲シタルトキハ引受人、被參加人及ヒ其前者ニ對スル所持人
ノ權利ヲ取得ス

第九節 拒絕證書

第五百十四條 拒絕證書ハ爲替手形ノ所持人ノ請求ニ因リ公證人又ハ執達吏之ヲ作ル

第五百十五條 拒絕證書ニハ左ノ事項ヲ記載シ公證人又ハ執達吏之ニ署名スルコトヲ要ス

- 一 爲替手形、其原本及ヒ補箋ニ記載シタル事項
- 二 拒絕者及ヒ被拒絕者ノ氏名又ハ商號
- 三 拒絕者ニ對シテ爲シタル請求ノ趣旨及ヒ拒絕者カ其請求ニ應セサリシコト又ハ拒絕者ニ
面會スルコト能ハサリシ理由
- 四 前號ノ請求ヲ爲シ又ハ之ヲ爲スコト能ハサリシ地及ヒ年月日
- 五 拒絕者ノ營業所、住所又ハ居所カ知レサル場合ニ於テ其地ノ官署又ハ公署ニ問合ヲ爲シ
タルコト
- 六 法定ノ場所外ニ於テ拒絕證書ヲ作ルトキハ拒絕者カ之ヲ承諾シタルコト
- 七 參加引受人又ハ參加支拂アルトキハ參加ノ種類及ヒ參加人並ニ被參加人ノ氏名又ハ商號

第五百十六條 數人ニ對シテ手形上ノ請求ヲ爲スヘキトキハ其請求ニ付キ一通ノ拒絕證書ヲ作ラ

シムルヲ以テ足ル

第五百十七條 公證人又ハ執達吏カ拒絕證書ヲ作リタルトキハ其帳簿ニ其證書ノ全文ヲ記載スルコトヲ要ス

拒絕證書カ滅失シタルトキハ利害關係人ハ其贖本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得此贖本ハ原本ト同一ノ效力ヲ有ス

第十節 爲替手形ノ複本及ヒ贖本

第五百十八條 爲替手形ノ所持人ハ振出人ニ對シテ其爲替手形ノ複本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得但所持人カ受取人ニ非サルトキハ順次ニ其前者ヲ經由シテ之ヲ請求スルコトヲ要ス

振出人カ爲替手形ノ複本ヲ作リタルトキハ各裏書人ハ各通ニ其裏書ヲ爲スコトヲ要ス

第五百十九條 爲替手形ノ複本ニ其複本タルコトヲ示ササルトキハ各通ハ獨立ノ爲替手形トシテ其效力ヲ有ス

第五百二十條 爲替手形ノ複本ヲ作リタル場合ニ於テ其一通ノ支拂アリタルトキハ他ノ各通ハ其效力ヲ失フ但引受アルモノハ此限ニ在ラス

二人以上ニ各別ニ敷通ノ爲替手形ノ裏書ヲ爲シタル者又ハ敷通ノ爲替手形ニ引受ヲ爲シタル者ハ支拂ノ時ニ於テ返還アラサリシ各通ニ付キ手形上ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ス

第五百二十一條 爲替手形ノ複本ノ所持人カ引受ヲ求ムル爲メ其一通ヲ送付シタルトキハ他ノ各通ニ其送付先ヲ記載スルコトヲ要ス

前項ノ記載アル爲替手形ノ所持人ハ引受ヲ求ムル爲メニ送付シタル一通ノ爲替手形ヲ受取リタル者ニ對シテ其返還ヲ請求スルコトヲ得若シ其者カ之ヲ返還セサルトキハ拒絕證書ニ依リ其事

實及ヒ他ノ一通又ハ敷通ノ爲替手形ヲ以テ引受又ハ支拂ヲ受クルコト能ハサリシコトヲ證明スルニ非サレハ其前者ニ對シテ擔保又ハ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第五百二十二條 爲替手形ノ所持人ハ其贖本ヲ作ルコトヲ得爲替手形ノ贖本ニ或事項ヲ記載シタルトキハ其事項ト原本ニ記載シタル事項トヲ區別スルコトヲ要ス

第五百二十三條 所持人カ爲替手形ノ引受ヲ求ムル爲メ其原本ヲ送付シタル場合ニ於テ其贖本ヲ作リタルトキハ之ニ其原本ノ送付先ヲ記載スルコトヲ要ス

前項ノ記載アル贖本ノ所持人ハ原本ヲ受取リタル者ニ對シテ其返還ヲ請求スルコトヲ得

第五百二十四條 引受ヲ求ムル爲メニ送付シタル爲替手形ヲ受取リタル者カ之ヲ返還セサル場合ニ於テ其贖本ノ所持人カ拒絕證書ニ依リテ其實事ヲ證明スルトキハ贖本ニ署名シタル者ニ對シテ擔保ノ請求ヲ爲シ又贖本ニ記載シタル満期日カ到來シタル後ハ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第三章 約束手形

第五百二十五條 約束手形ニハ左ノ事項ヲ記載シ振出人之ニ署名スルコトヲ要ス

- 一 其約束手形タルコトヲ示スヘキ文字
- 二 一定ノ金額
- 三 受取人ノ氏名又ハ商號
- 四 單純ナル支拂ノ約束
- 五 振出ノ年月日
- 六 一定ノ満期日

七 振出地

第五百二十六條 振出人カ約束手形ニ支拂地ヲ記載セサリシトキハ振出地ヲ以テ其支拂地トス

第五百二十七條 一覽後定期拂ノ約束手形ノ所持人ハ其日附ヨリ一年内ニ振出人ニ約束手形ヲ呈

示スルコトヲ要ス但振出人ハ之ヨリ短キ呈示期間ヲ定ムルコトヲ得

所持人カ拒絕證書ニ依リ前項ニ定メタル呈示ヲ爲シタルコトヲ證明セサルトキハ振出人以外ノ

前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

第五百二十八條 所持人カ一覽後定期拂ノ約束手形ヲ呈示シタル場合ニ於テ振出人カ呈示ヲ受ケ

タル旨又ハ其日附ヲ約束手形ニ記載セサリシトキハ所持人ハ呈示期間内ニ拒絕證書ヲ作ラシム

ルコトヲ要ス此場合ニ於テハ其拒絕證書作成ノ日ヲ以テ呈示ノ日ト看做ス

所持人カ拒絕證書ヲ作ラシメサリシトキハ振出人以外ノ前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

振出人カ呈示ノ日附ヲ記載セサリシ場合ニ於テ所持人カ拒絕證書ヲ作ラシメサリシトキハ呈示

期間ノ末日ヲ以テ呈示ノ日ト看做ス

第五百二十九條 第四百四十六條、第四百四十九條乃至第四百五十一條、第四百五十三條乃至第四

百五十七條、第四百五十九條乃至第四百六十四條、第四百七十一條、第四百八十條乃至第四百九十

九條、第五百八條乃至第五百十七條及ヒ第五百二十二條ノ規定ハ約束手形ニ之ヲ準用ス

第四章 小切手 第五百三十條 小切手ニハ左ノ事項ヲ記載シ振出人ノ署名スルコトヲ要ス

- 一 其小切手タルコトヲ示スヘキ文字
- 二 一定ノ金額

三 支拂人ノ氏名又ハ商號

四 受取人ノ氏名若クハ商號又ハ所持人ニ支拂フヘキコト

五 單純ナル支拂ノ委託

六 振出ノ年月日

七 支拂地

第五百三十一條 小切手ノ振出人ハ自己ヲ受取人ト定ムルコトヲ得

第五百三十二條 小切手ハ一覽拂ノモノトス

第五百三十三條 小切手ノ所持人ハ其日附ヨリ一週間内ニ小切手ヲ呈示シテ其支拂ヲ求ムルコト

ヲ要ス

所持人カ前項ニ定メタル呈示ヲ爲ササリシトキハ其前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第五百三十四條 小切手ノ所持人カ其前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スニハ支拂拒絕證書ノ作成ニ

代ヘ支拂人ヲシテ前條第一項ニ定メタル期間内ニ支拂拒絕ノ旨及ヒ其年月日ヲ小切手ニ記載セ

シメ且之ニ署名セシムルヲ以テ足ル

第五百三十五條 小切手ノ振出人又ハ所持人カ其表面ニ二條ノ平行線ヲ畫キ其線内ニ銀行又ハ之

ト同一ノ意義ヲ有スル文字ヲ記載シタルトキハ支拂人ハ銀行ニ對シテノミ支拂ヲ爲スコトヲ

得

振出人又ハ所持人カ平行線内ニ特定セル銀行ノ商號ヲ記載シタルトキハ支拂人ハ其銀行ニ對シ

テノミ支拂ヲ爲スコトヲ得但其銀行カ其商號ヲ抹消シテ他ノ銀行ノ商號ヲ記載シ之ニ取立ノ委

任ヲ爲スコトヲ妨ケス

第五百二十六條 左ノ場合ニ於テハ振出人ハ五圓以上千圓以下ノ過料ニ處セラル

一 資金ナク又ハ信用ヲ得スシテ小切手ヲ振出シタルトキ

二 小切手ニ虚偽ノ日附ヲ記載シタルトキ

第五百三十七條 第四百四十六條、第四百五十二條、第四百五十五條、第四百五十七條、第四百五十九條乃至第四百六十二條、第四百六十四條、第四百八十三條、第四百八十四條、第四百八十六條乃至第四百八十九條、第四百九十一條、第四百九十二條、第四百九十五條、第四百九十六條、第五百十四條、第五百十五條及ヒ第五百十七條ノ規定ハ小切手ニ之ヲ準用ス

第五編 海商

第一章 船舶及船舶所有者

第五百三十八條 本法ニ於テ船舶トハ商行為ヲ爲ス目的ヲ以テ航海ノ用ニ供スルモノヲ謂フ

本編ノ規定ハ端舟其他機體ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ機體ヲ以テ運轉スル舟ニハ之ヲ適用セズ

第五百三十九條 船舶ノ屬具目錄ニ記載シタル物ハ其從物ト推定ス

第五百四十條 船舶所有者ハ特別法ノ定ムル所ニ從ヒ登記ヲ爲シ且船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ總噸數二十噸未満又ハ積石數二百石未満ノ船舶ニハ之ヲ適用セズ

第五百四十一條 船舶所有者ノ讓渡ハ其登記ヲ爲シ且船舶國籍證書ニ之ヲ記載スルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第五百四十二條 航海中ニ在ル船舶ノ所有權ヲ讓渡シタル場合ニ於テ特約ナキトキハ其航海ニ因

リテ生スル損益ハ讓受人ニ歸スヘキモノトス

第五百四十三條 差押及ヒ假差押ハ發航ノ準備ヲ終ハリタル船舶ニ對シテハ之ヲ爲スコトヲ得ス

但其船舶カ發航ヲ爲ス爲メニ生シタル債務ニ付テハ此限ニ在ラス

第五百四十四條 船舶所有者ハ船長カ其法定ノ權限内ニ於テ爲シタル行為又ハ船長其他ノ船員カ其職務ヲ行フニ當リ他人ニ加ヘタル損害ニ付テハ航海ノ終ニ於テ船舶運送貨及ヒ船舶所有者カ其船舶ニ付キ有スル損害賠償又ハ報酬ノ請求權ヲ債權者ニ委付シテ其責ヲ免ルルコトヲ得但船舶所有者ニ過失アリタルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ハ雇傭契約ニ因リテ生シタル船員ノ權利ニ付テハ之ヲ適用セズ

第五百四十五條 船舶所有者カ債權者ノ同意ヲ得スシテ更ニ航海ヲ爲サシメタルトキハ前條ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ得ス

第五百四十六條 船舶共有者ノ間ニ在リテハ船舶ノ利用ニ關スル事項ハ各共有者ノ持分ノ價格ニ從ヒ其過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第五百四十七條 船舶共有者ハ其持分ノ價格ニ應シ船舶ノ利用ニ關スル費用ヲ負擔スルコトヲ要ス

第五百四十八條 船舶共有者カ新ニ航海ヲ爲シ又ハ船舶ノ大修繕ヲ爲スヘキコトヲ決議シタルトキハ其決議ニ對シテ異議アル者ハ他ノ共有者ニ對シ相當代價ヲ以テ自己ノ持分ヲ買取ルヘキコトヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ヲ爲サント欲スル者ハ決議ノ日ヨリ三日内ニ他ノ共有者又ハ船舶管理人ニ對シテ其

通知ヲ發スルコトヲ要ス但此期間ハ決議ニ加ハラサリシ者ニ付テハ其決議ノ通知ヲ受ケタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

第五百四十九條 船舶共有者ハ其持分ノ價格ニ應シ船舶ノ利用ニ付テ生シタル債務ヲ辨濟スル責ニ任ス

第五百五十條 損益ノ分配ハ每航海ノ終ニ於テ船舶共有者ノ持分ノ價格ニ應シテ之ヲ爲ス

第五百五十一條 船舶共有者間ニ組合關係アルトキト雖モ各共有者ハ他ノ共有者ノ承諾ヲ得スシテ其持分ノ全部又ハ一部ヲ他人ニ讓渡スコトヲ得但船舶管理人ハ此限ニ在ラス

第五百五十二條 船舶共有者ハ船舶管理人ヲ選任スルコトヲ要ス
船舶共有者ニ非サル者ヲ船舶管理人ト爲スニハ共有者全員ノ同意アルコトヲ要ス
船舶管理人ノ選任及ヒ其代理權ノ消滅ハ之ヲ登記スルコトヲ要ス

第五百五十三條 船舶管理人ハ左ニ掲ケタル行爲ヲ除ク外船舶共有者ニ代ハリテ船舶ノ利用ニ關スル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

- 一 船舶ノ讓渡ヲ委任若クハ賃貸ヲ爲シ又ハ之ヲ抵當ト爲スコト
- 二 船舶ヲ保險ニ付スルコト
- 三 新ニ航海ヲ爲スコト
- 四 船舶ノ大修繕ヲ爲スコト
- 五 借財ヲ爲スコト

船舶管理人ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五百五十四條 船舶管理人ハ特ニ帳簿ヲ備ヘ之ニ船舶ノ利用ニ關スル一切ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

トヲ要ス

船舶管理人ハ每航海ノ終ニ於テ遲滞ナク其航海ニ關スル計算ヲ爲シテ各船舶共有者ノ承認ヲ求ムルコトヲ要ス

第五百五十五條 船舶共有者ノ持分ノ移轉又ハ其國籍喪失ニ因リテ船舶カ日本ノ國籍ヲ喪失スヘキトキハ他ノ共有者ハ相當代價ヲ以テ其持分ヲ買取り又ハ其競賣ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

社員ノ持分ノ移轉ニ因リ會社ノ所有ニ屬スル船舶カ日本ノ國籍ヲ喪失スヘキトキハ合名會社ニ在テハ他ノ社員合資會社及ヒ株式合資會社ニ在テハ他ノ無限責任社員ハ相當代價ヲ以テ其持分ヲ買取ルコトヲ得

第五百五十六條 船舶ノ賃貸借ハ之ヲ登記シタルトキハ爾後其船舶ニ付キ物權ヲ取得シタル者ニ對シテモ其效力ヲ生ス

第五百五十七條 船舶ノ賃借人カ商行爲ヲ爲ス目的ヲ以テ其船舶ヲ航海ノ用ニ供シタルトキハ其利用ニ關スル事項ニ付テハ第三者ニ對シテ船舶所有者ト同一ノ權利義務ヲ有ス

前項ノ場合ニ於テ船舶ノ利用ニ付キ生シタル先取特權ハ船舶所有者ニ對シテモ其效力ヲ生ス但先取特權者カ其利用ノ契約ニ反スルコトヲ知レルトキハ此限ニ在ラス

第二章 船員

第一節 船長

第五百五十八條 船長ハ其職務ヲ行フニ付キ注意ヲ怠ラサリシコトヲ證明スルニ非サレハ船舶所有者備船者荷送人其他ノ利害關係人ニ對シテ損害賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

船長ハ船舶所有者ノ指圖ニ從ヒタルトキト雖モ船舶所有者以外ノ者ニ對シテハ前項ニ定メタル責任ヲ免ルルコトヲ得ス

第五百五十九條 海員カ其職務ヲ行フニ當テリ他人ニ損害ヲ加ヘタル場合ニ於テ船長ハ監督ヲ怠ラサリシコトヲ證明スルニ非サレハ損害賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

第五百六十條 船長カ已ムコトヲ得サル事由ニ因リテ自ラ船舶ヲ指揮スルコト能ハサルトキハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外他人ヲ選任シテ自己ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得此場合ニ於テハ船長ハ其選任ニ付キ船舶所有者ニ對シテ其責ニ任ス

第五百六十一條 船長ハ發航前船舶ノ航海ニ支障ナキヤ否ヤ其他航海ニ必要ナル準備ノ整頓セルヤ否ヤヲ検査スルコトヲ要ス

第五百六十二條 船長ハ左ニ掲ケタル書類ヲ船中ニ備ヘ置クコトヲ要ス

- 一 船舶國籍證書
 - 二 海員名簿
 - 三 屬具目錄
 - 四 航海日誌
 - 五 旅客名簿
 - 六 運送契約及ヒ積荷ニ關スル書類
 - 七 稅關ヨリ交付シタル書類
- 前項第三號乃至第五號ニ掲ケタル書類ハ外國ニ航行セサル船舶ニ限リ命令ヲ以テ之ヲ備フルコトヲ要セザルモノト定ムルコトヲ得

第五百六十三條 船長ハ已ムコトヲ得サル場合ヲ除ク外自己ニ代ハリテ船舶ヲ指揮スヘキ者ニ其職務ヲ委任シタル後ニ非サレハ積荷ノ船積及ヒ旅客ノ乗込ノ時ヨリ積荷ノ陸揚及ヒ旅客ノ上陸ノ時マテ其指揮スル船舶ヲ去ルコトヲ得ス

第五百六十四條 船長ハ航海ノ準備ガ終ハリタルトキハ遲滞ナク發航ヲ爲シ且必要アル場合ヲ除ク外豫定ノ航路ヲ變更セシテ到達港マテ航行スルコトヲ要ス

第五百六十五條 船長ハ航海中最モ利害關係人ノ利益ニ適スヘキ方法ニ依リテ積荷ノ處分ヲ爲スコトヲ要ス

利害關係人ハ船長ノ行爲ニ因リ其積荷ニ付テ生シタル債權ノ爲メ之ヲ債權者ニ委付シテ其實ヲ免ルルコトヲ得但利害關係人ニ過失アリタルトキハ此限ニ在ラズ

第五百六十六條 船籍港外ニ於テハ船長ハ航海ノ爲メニ必要ナル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

船籍港ニ於テハ船長ハ特ニ委任ヲ受ケタル場合ヲ除ク外海員ノ雇入及ヒ雇止ヲ爲ス權限ノミヲ有ス

第五百六十七條 船長ノ代理權ニ加ヘタル制限バ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五百六十八條 船長ハ船舶ノ修繕救接又ハ救助ノ費用其他航海ヲ繼續スルニ必要ナル費用ヲ支辨スル爲メニ非サレハ左ニ掲ケタル行爲ヲ爲スコトヲ得ス

- 一 船舶ヲ抵當ト爲スコト
- 二 借財ヲ爲スコト

三 積荷ノ全部又ハ一部ヲ賣却又ハ質入スルコト但第五百六十五條第一項ノ場合ハ此限ニ在ラス

船長カ積荷ヲ賣却又ハ質入シタル場合ニ於ケル損害賠償ノ額ハ其積荷ノ到達スヘカリシ時ニ於ケル陸揚港ノ價格ニ依リテ之ヲ定ム但其價格中ヨリ支拂フコトヲ要セサリシ費用ヲ控除スルコトヲ要ス

第五百六十九條 船長カ特ニ委任ヲ受ケシテ航海ノ爲メニ費用ヲ出タシ又ハ債務ヲ負擔シタルトキハ船舶所有者ハ船長ニ對シテ第五百四十四條ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ得

第五百七十條 船籍港外ニ於テ船舶カ修繕スルコト能ハサルニ至リタルトキハ船長ハ管海官廳ノ認可ヲ得テ之ヲ競賣スルコトヲ得

第五百七十一條 左ノ場合ニ於テハ船舶ハ修繕スルコト能ハサルニ至リタルモノト看做ス

一 船舶カ其現在地ニ於テ修繕ヲ受クルコト能ハス且其修繕ヲ爲スヘキ地ニ到ルコト能ハサルトキ

二 修繕費カ船舶ノ價額ノ四分ノ三ニ超ユルトキ

前項第二號ノ價額ハ船舶カ航海中毀損シタル場合ニ於テハ其發航ノ時ニ於ケル價額トシ其他ノ場合ニ於テハ其毀損前ニ有セシ價額トス

第五百七十二條 船長ハ航海ヲ繼續スル爲メ必要ナルトキハ積荷ヲ航海ノ用ニ供スルコトヲ得此場合ニ於テハ第五百六十八條第二項ノ規定ヲ準用ス

第五百七十三條 船長ハ遲滞ナク航海ニ關スル重要ナル事項ヲ船舶所有者ニ報告スルコトヲ要ス

船長ハ每航海ノ終ニ於テ遲滞ナク其航海ニ關スル計算ヲ爲シテ船舶所有者ノ承認ヲ求メ又船舶所有者ノ請求アルトキハ何時ニテモ計算ノ報告ヲ爲スコトヲ要ス

第五百七十四條 船舶所有者ハ何時ニテモ船長ヲ解任スルコトヲ得但正當ノ理由ナクシテ之ヲ解任シタルトキハ船長ハ船舶所有者ニ對シ解任ニ因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得

船長カ船舶共有者ナル場合ニ於テ其意ニ反シテ解任セラレタルトキハ他ノ共有者ニ對シ相當代價ヲ以テ自己ノ持分ヲ買取ルヘキコトヲ請求スルコトヲ得

船長カ前項ノ請求ヲ爲サント欲スルトキハ遲滞ナク他ノ共有者又ハ船舶管理人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

第五百七十五條 船長ノ船舶所有者ニ對スル債權ハ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第二節 海員

第五百七十六條 海員ハ其雇入ノ手續カ終ハリタルトキハ船長ノ指定シタル時ニ於テ船舶ニ乗込ムコトヲ要ス

海員ハ船長ノ許可ヲ得ルニ非サレハ其乗込ミタル船舶ヲ去ルコトヲ得ス

第五百七十七條 海員ノ服役中ノ食料ハ船舶所有者ノ負擔トス

第五百七十八條 海員カ服役中不行跡其他重大ナル過失ニ因ラスシテ疾病ニ罹リ又ハ傷痍ヲ受ケタルトキハ船舶所有者ハ三ヶ月ヲ超エサル期間内ノ治療及ヒ看護ノ費用ヲ負擔ス

前項ノ場合ニ於テ海員ハ其服役シタル期間ニ對スル給料ヲ請求スルコトヲ得但其職務ヲ行フニ

因リテ疾病ニ罹リ又ハ傷痍ヲ受ケタルトキハ其給料ノ全額ヲ請求スルコトヲ得

第五百七十九條 一航海ニ付キ給料ヲ定メタル場合ニ於テ航海ノ日數ヲ延長シ又ハ不可抗力ニ因ラスシテ其里程ヲ延長シタルトキハ海員ハ其割合ニ應ジテ給料ノ増加ヲ請求スルコトヲ得但航海ノ日數又ハ里程ヲ短縮シタルトキト雖モ給料ノ全額ヲ請求スルコトヲ得

第五百八十條 海員カ就役ノ後死亡シタルトキハ船舶所有者ハ死亡ノ日マテノ給料ヲ支拂フコトヲ要ス

海員カ其職務ヲ行フニ因リテ死亡シタルトキハ其葬式ノ費用ハ船舶所有者ノ負擔トス

第五百八十二條 左ノ場合ニ於テハ船長ハ海員ヲ雇止ムルコトヲ得

- 一 發航前海員カ其職務ニ不適任ナルコトヲ認メタルトキ
- 二 海員カ著シク其職務ヲ怠リ又ハ其職務ニ關シ之ニ重大ナル過失アリタルトキ
- 三 海員カ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
- 四 海員カ疾病ニ罹リ又ハ傷痍ヲ受ケ其職務ニ堪ヘサルニ至リタルトキ
- 五 不可抗力ニ因リ發航ヲ爲シ又ハ航海ヲ繼續スルコト能ハサルニ至リタルトキ

前項第一號乃至第三號ノ場合ニ於テハ海員ハ其服役シタル期間ニ對スル給料ヲ請求スルコトヲ得

第一項第四號及ヒ第五號ノ場合ニ於テハ海員ハ其雇止ノ日マテノ給料及ヒ雇入港マテノ送還ヲ請求スルコトヲ得但第四號ノ場合ニ於テ海員ニ過失アルトキハ前項ノ規定ヲ準用ス

第五百八十二條 海員カ前條第一項ニ掲ゲタル事由ニ因ラスシテ雇止メラレタルトキハ其服役シタル期間ニ對スル給料ノ外一個月分ノ給料ヲ請求スルコトヲ得若シ雇入港外ニ於テ雇止メラレタルトキハ雇入港マテ歸航スルニ必要ナル期間ニ對スル給料及ヒ雇入港マテノ送還ヲ請求スルコトヲ得

第五百八十三條 左ノ場合ニ於テハ海員ハ其雇止ヲ請求スルコトヲ得

- 一 船舶カ日本ノ國籍ヲ喪失シタルトキ
- 二 自己ノ過失ニ因ラスシテ疾病ニ罹リ又ハ傷痍ヲ受ケ其職務ニ堪ヘサルニ至リタルトキ
- 三 船長ヨリ虐待ヲ受ケタルトキ

前項ノ場合ニ於テハ海員ハ其雇止ノ日マテノ給料及ヒ雇入港マテノ送還ヲ請求スルコトヲ得

第五百八十四條 航海中船舶ノ所有者カ變更シタルトキハ海員ハ新所有者ニ對シ雇傭契約ニ因リテ生シタル權利義務ヲ有ス

第五百八十五條 海員ノ雇入期間ハ一年ヲ超ユルコトヲ得ス若シ之ヨリ長キ期間ヲ以テ海員ヲ雇入レタルトキハ其期間ハ之ヲ一年ニ短縮ス

海員ノ雇入ハ之ヲ更新スルコトヲ得但其期間ハ更新ノ時ヨリ一年ヲ超ユルコトヲ得ス

第五百八十六條 雇入期間ノ定ナキトキハ海員ハ特約アル場合ヲ除ク外船舶カ安全ニ碇泊シ且積荷ノ陸揚及ヒ旅客ノ上陸カ終ハリタル後ニ非サレハ其雇止ヲ請求スルコトヲ得ス

第五百八十七條 海員ノ雇入契約ハ左ノ事由ニ因リテ終了ス

- 一 船舶カ沈没シタルコト
- 二 船舶カ修繕スルコト能ハサルニ至リタルコト
- 三 船舶カ捕獲セラレタルコト

前項ノ場合ニ於テハ海員ハ契約終了ノ日マテノ給料及ヒ雇入港マテノ送還ヲ請求スルコトヲ得

第五百八十八條 海員カ雇入港マテノ送還ヲ請求スル權利ヲ有スル場合ニ於テハ送還ニ代ヘテ其費用ヲ請求スルコトヲ得

第五百八十九條 第五百七十五條ノ規定ハ海員ノ債權ニ之ヲ準用ス

第三章 運送

第一節 物品運送

第一款 總則

第五百九十條 船舶ノ全部又ハ一部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタルトキハ各當事者ハ相手方ノ請求ニ因リ運送契約書ヲ交付スルコトヲ要ス

第五百九十一條 船舶所有者ハ備船者又ハ荷送人ニ對シ發航ノ當時船舶カ安全ニ航海ヲ爲スニ堪フルコトヲ擔保ス

第五百九十二條 船舶所有者ハ特約ヲ爲シタルトキト雖モ 自己ノ過失船員其他ノ使用人ノ惡意若クハ重大ナル過失又ハ船舶カ航海ニ堪ヘサルニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スル責ヲ免ルルコトヲ得ス

第五百九十三條 法令ニ違反シ又ハ契約ニ依ラスシテ船積シタル運送品ハ船長ニ於テ何時ニテモ之ヲ陸揚シ若シ船舶又ハ積荷ニ危害ヲ及ボス虞アルトキハ之ヲ放棄スルコトヲ得但船長カ之ヲ運送スルトキハ其船積ノ地及ヒ時ニ於ケル同種ノ運送品ノ最高ノ運送賃ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ハ船舶所有者其他ノ利害關係人カ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス
第五百九十四條 船舶ノ全部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ運送品ヲ船積スルニ必

要ナル準備カ整頓シタルトキハ船舶所有者ハ遲滞ナク備船者ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

備船者カ運送品ヲ船積スヘキ期間ノ定アル場合ニ於テハ其期間ハ前項ノ通知アリタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス其期間經過ノ後運送品ヲ船積シタルトキハ船舶所有者ハ特約ナキトキト雖モ相當ノ報酬ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ期間中ニハ不可抗力ニ因リテ船積ヲ爲スコト能ハサル日ヲ算入セス
第五百九十五條 船長カ第三者ヨリ運送品ヲ受取ルヘキ場合ニ於テ其者ヲ確知スルコト能ハサルトキ又ハ其者カ運送品ヲ船積セサルトキハ船長ハ直チニ備船者ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス此場合ニ於テハ船積期間内ニ限り備船者ニ於テ運送品ヲ船積スルコトヲ得

第五百九十六條 備船者ハ運送品ノ全部ヲ船積セサルトキト雖モ船長ニ對シテ發航ノ請求ヲ爲スコトヲ得

備船者カ前項ノ請求ヲ爲シタルトキハ運送賃ノ全額ノ外運送品ノ全部ヲ船積セサルニ因リテ生シタル費用ヲ支拂ヒ尙ホ船舶所有者ノ請求アルトキハ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス

第五百九十七條 船積期間經過ノ後ハ備船者カ運送品ノ全部ヲ船積セサルトキト雖モ船長ハ直チニ發航ヲ爲スコトヲ得

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
第五百九十八條 發航前ニ於テハ備船者ハ運送賃ノ半額ヲ支拂ヒテ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得往復航海ヲ爲スヘキ場合ニ於テ備船者カ其歸航ノ發航前ニ契約ノ解除ヲ爲シタルトキハ運送賃ノ三分ノ二ヲ支拂フコトヲ要ス他港ヨリ船積港ニ航行スヘキ場合ニ於テ備船者カ其船積港ヲ發

スル前ニ契約ノ解除ヲ爲シタルトキ亦同シ
運送品ノ全部又ハ一部ヲ船積シタル後前二項ノ規定ニ從ヒテ契約ノ解除ヲ爲シタルトキハ其船積及ヒ陸揚ノ費用ハ備船者之ヲ負擔ス
備船者ハ船積期間内ニ運送品ノ船積ヲ爲ササリントキハ契約ノ解除ヲ爲シタルモノト看做ス
第五百九十九條 備船者カ前條ノ規定ニ從ヒテ契約ノ解除ヲ爲シタルトキト雖モ附隨ノ費用及ヒ立替金ヲ支拂フ責ヲ免ルルコトヲ得ス
前條第二項ノ場合ニ於テハ備船者ハ前項ニ掲ケタルモノノ外運送品ノ價格ニ應シ共同海損、救援又ハ救助ノ爲メ負擔スベキ金額ヲ支拂フコトヲ要ス
第六百條 發航後ニ於テハ備船者ハ運送品ノ全額ヲ支拂フ外第六百六條第一項ニ定メタル債務ヲ辨濟シ且陸揚ノ爲メニ生スベキ損害ヲ賠償シ又ハ相當ノ擔保ヲ供スルニ非サレハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得ス
第六百二條 船舶ノ一部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ備船者カ他ノ備船者及ヒ荷送人ト共同セシメテ發航前ニ契約ノ解除ヲ爲シタルトキハ運送品ノ全額ヲ支拂フコトヲ要ス但船舶所有者カ他ノ運送品ヨリ得タル運送品ハ之ヲ控除ス
發航前ト雖モ備船者カ既ニ運送品ノ全部又ハ一部ヲ船積シタルトキハ他ノ備船者及ヒ荷送人ノ同意ヲ得ルニ非サレハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得ス
前七條ノ規定ハ船舶ノ一部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ之ヲ準用ス
第六百二條 箇箇ノ運送品ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタルトキハ荷送人ハ船長ノ指圖ニ從ヒ運送品ノ運送品ヲ船積スルコトヲ要ス

荷送人カ運送品ノ船積ヲ怠リタルトキハ船長ハ直チニ發航ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ荷送人ハ運送品ノ全額ヲ支拂フコトヲ要ス但船舶所有者カ他ノ運送品ヨリ得タル運送品ハ之ヲ控除ス
第六百三條 第六百一條ノ規定ハ荷送人カ契約ノ解除ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス
第六百四條 備船者又ハ荷送人ハ船積期間内ニ運送ニ必要ナル書類ヲ船長ニ交付スルコトヲ要ス
第六百五條 船舶ノ全部又ハ一部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ運送品ヲ陸揚スルニ必要ナル準備カ整頓シタルトキハ船長ハ運送品ノ荷受人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス
運送品ヲ陸揚スベキ期間ノ定アル場合ニ於テハ其期間ハ前項ノ通知アリタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス其期間經過ノ後運送品ヲ陸揚シタルトキハ船舶所有者ハ特約ナキトキト雖モ相當ノ報酬ヲ請求スルコトヲ得
前項ノ期間中ニハ不可抗力ニ因リテ陸揚ヲ爲スコト能ハサル日ヲ算入セス
箇箇ノ運送品ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタルトキハ荷受人ハ船長ノ指圖ニ從ヒ運送品ノ運送品ヲ陸揚スルコトヲ要ス
第六百六條 荷受人カ運送品ヲ受取リタルトキハ運送契約又ハ船荷證券ノ趣旨ニ從ヒ運送品ノ附隨ノ費用立替金及ヒ運送品ノ價格ニ應シ共同海損、救援又ハ救助ノ爲メ負擔スベキ金額ヲ支拂フ義務ヲ負フ
船長ハ前項ニ定メタル金額ノ支拂ト引換ニ非サレハ運送品ヲ引渡スコトヲ要セス
第六百七條 荷受人カ運送品ヲ受取ルコトヲ怠リタルトキハ船長ハ之ヲ供託スルコトヲ得此場合ニ於テハ運送品ノ荷受人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

荷受人ヲ確知スルコト能ハサルトキ又ハ荷受人カ運送品ヲ受取ルコトヲ拒ミタルトキハ船長ハ運送品ヲ供託スルコトヲ要ス此場合ニ於テハ運滞ナク備船者又ハ荷送人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

第六百八條 運送品ノ重量又ハ容積ヲ以テ運送賃ヲ定メタルトキハ其額ハ運送品引渡ノ當時ニ於ケル重量又ハ容積ニ依リテ之ヲ定ム

第六百九條 期間ヲ以テ運送賃ヲ定メタルトキハ其額ハ運送品ノ船積著手ノ日ヨリ其陸揚終了ノ日マテノ期間ニ依リテ之ヲ定ム但船泊カ不可抗力ニ因リ發航港若クハ航海ノ途中ニ於テ碇泊ヲ爲スヘキトキ又ハ航海ノ途中ニ於テ船泊ヲ修繕スヘキトキハ其期間ハ之ヲ算入セス第五百九十四條第二項又ハ第六百五條第二項ノ場合ニ於テ船積期間又ハ陸揚期間經過ノ後運送品ノ船積又ハ陸揚ヲ爲シタル日數亦同シ

第六百十條 船舶所有者ハ第六百六條第一項ニ定メタル金額ノ支拂ヲ受クル爲メ裁判所ノ許可ヲ得テ運送品ヲ競賣スルコトヲ得

船長カ荷受人ニ運送品ヲ引渡シタル後ト雖モ船舶所有者ハ其運送品ノ上ニ權利ヲ行使スルコトヲ得但引渡ノ日ヨリ二週間ヲ經過シタルトキ又ハ第三者カ其占有ヲ取得シタルトキハ此限ニ在ラス

第六百十一條 船舶所有者カ前條ニ定メタル權利ヲ行ハサルトキハ備船者又ハ荷送人ニ對スル請求權ヲ失フ但備船者又ハ荷送人ハ其受ケタル利益ノ限度ニ於テ償還ヲ爲スコトヲ要ス

第六百十二條 船舶ノ全部又ハ一部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ備船者カ更ニ第三者ト運送契約ヲ爲シタルトキハ其契約ノ履行カ船長ノ職務ニ屬スル範圍内ニ於テハ船舶所有

者ノミ共第三者ニ對シテ履行ノ責ニ任ス但第五百四十四條ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ妨ケス第六百十三條 船舶ノ全部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テハ其契約ハ左ノ事由ニ因リテ終了ス

一 第五百八十七條第一項ニ掲ケタル事由

二 運送品カ不可抗力ニ因リテ滅失シタルコト

第五百八十七條第一項ニ掲ケタル事由カ航海中ニ生シタルトキハ備船者ハ運送ノ割合ニ應シ運送品ノ價格ヲ超エサル限度ニ於テ運送賃ヲ支拂フコトヲ要ス

第六百十四條 航海又ハ運送カ法令ニ反スルニ至リタルトキ其他不可抗力ニ因リテ契約ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサルニ至リタルトキハ各當事者ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

前項ニ掲ケタル事由カ發航後ニ生シタル場合ニ於テ契約ノ解除ヲ爲シタルトキハ備船者ハ運送ノ割合ニ應シテ運送賃ヲ支拂フコトヲ要ス

第六百十五條 第六百十三條第一項第二號及ヒ前條第一項ニ掲ケタル事由カ運送品ノ一部ニ付テ生シタルトキハ備船者ハ船舶所有者ノ負擔ヲ重カラシメサル範圍内ニ於テ他ノ運送品ヲ船積スルコトヲ得

備船者カ前項ニ定メタル權利ヲ行ハント欲スルトキハ運滞ナク運送品ノ陸揚又ハ船積ヲ爲スコトヲ要ス若シ其陸揚又ハ船積ヲ怠リタルトキハ運送賃ノ全額ヲ支拂フコトヲ要ス

第六百十六條 第六百十三條及ヒ第六百十四條ノ規定ハ船舶ノ一部又ハ箇箇ノ運送品ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

第六百十三條第一項第二號及ヒ第六百十四條第一項ニ掲ケタル事由カ運送品ノ一部ニ付テ生シ

タルトキト雖モ備船者又ハ荷送人ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但運送貨ノ全額ヲ支拂フコトヲ要ス

第六百十七條 船船所有者ハ左ノ場合ニ於テハ運送貨ノ全額ヲ請求スルコトヲ得

一 船長カ第五百六十八條第一項ノ規定ニ從ヒテ積荷ヲ賣却又ハ質入シタルトキ

二 船長カ第五百七十二條ノ規定ニ從ヒテ積荷ヲ航海ノ用ニ供シタルトキ

三 船長カ第六百四十一條ノ規定ニ從ヒテ積荷ヲ處分シタルトキ

第六百十八條 船船所有者ノ備船者荷送人又ハ荷受人ニ對スル債權ハ一年ヲ經過セタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第六百十九條 第三百二十八條第三百二十六條乃至第三百四十一條及ヒ第三百四十八條ノ規定ハ船船所有者ニ之ヲ準用ス

第二款 船荷證券

第六百二十條 船長ハ備船者又ハ荷送人ノ請求ニ因リ運送品ノ船積後遲滞ナク一通又ハ敷通ノ船荷證券ヲ交付スルコトヲ要ス

第六百二十一條 船船所有者ハ船長以外ノ者ニ船長ニ代ハリテ船荷證券ヲ交付スルコトヲ委任スルコトヲ得

第六百二十二條 船荷證券ニハ左ノ事項ヲ記載シ船長又ハ之ニ代ハル者署名スルコトヲ要ス

一 船船ノ名稱及ヒ國籍

二 船長カ船荷證券ヲ作ラサルトキハ船長ノ氏名

三 運送品ノ種類重量若クハ容積及ヒ其荷造ノ種類箇數並ニ記號

四 備船者又ハ荷送人ノ氏名又ハ商號

五 荷受人ノ氏名若クハ商號又ハ所持人ニ運送品ヲ引渡スヘキコト

六 船積港

七 陸揚港但發航後備船者又ハ荷送人カ陸揚港ヲ指定スヘキトキハ其之ヲ指定スヘキ港

八 運送貨

九 敷通ノ船荷證券ヲ作リタルトキハ其員數

十 船荷證券ノ作成地及ヒ其作成ノ年月日

第六百二十三條 備船者又ハ荷送人ハ船長又ハ之ニ代ハル者ノ請求ニ因リ船荷證券ノ謄本ニ署名シテ之ヲ交付スルコトヲ要ス

第六百二十四條 陸揚港ニ於テハ船長ハ敷通ノ船荷證券中ノ一通ノ所持人カ運送品ノ引渡ヲ請求シタルトキト雖モ其引渡ヲ拒ムコトヲ得ス

第六百二十五條 陸揚港外ニ於テハ船長ハ船荷證券ノ各通ノ返還ヲ受クルニ非サレハ運送品ヲ引渡スコトヲ得ス

第六百二十六條 二人以上ノ船荷證券所持人カ運送品ノ引渡ヲ請求シタルトキハ船長ハ遲滞ナク運送品ヲ供託シ且請求ヲ爲シタル各所持人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス船長カ第六百二十四條ノ規定ニ依リテ運送品ノ一部ヲ引渡シタル後他ノ所持人カ運送品ノ引渡ヲ請求シタル場合ニ於テ其殘部ニ付キ亦同シ

第六百二十七條 二人以上ノ船荷證券所持人アル場合ニ於テ共一人カ他ノ所持人ニ先チテ船長ヨリ運送品ノ引渡ヲ受ケタルトキハ他ノ所持人ノ船荷證券ハ其效力ヲ失フ

第六百二十八條 二人以上ノ船荷證券所持人アル場合ニ於テ船長カ未タ運送品ノ引渡ヲ爲ササル
トキハ原所持人カ最モ先ニ發送シ又ハ引渡シタル證券ヲ所持スル者他ノ所持人ニ先チテ其權利
ヲ行フ

第六百二十九條 第三百二十四條、第三百二十五條、第四百五十五條及ヒ第四百八十三條ノ規定ハ
船荷證券ニ之ヲ準用ス

第二節 旅客運送

第六百三十條 記名ノ乗船切符ハ之ヲ他人ニ讓渡スコトヲ得ス

第六百三十一條 旅客ノ航海中ノ食料ハ船舶所有者ノ負擔トス

第六百三十二條 旅客カ契約ニ依リ船中ニ攜帶スルコトヲ得ル手荷物ニ付テハ船舶所有者ハ特約
アルニ非サレハ別ニ運送賃ヲ請求スルコトヲ得ス

第六百三十三條 旅客カ乘船時期マテニ船舶ニ乘込マサルトキハ船長ハ發航ヲ爲シ又ハ航海ヲ繼
續スルコトヲ得此場合ニ於テハ旅客ハ運送賃ノ全額ヲ支拂フコトヲ要ス

第六百三十四條 發航前ニ於テハ旅客ハ運送賃ノ半額ヲ支拂ヒテ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得
發航後ニ於テハ旅客ハ運送賃ノ全額ヲ支拂フニ非サレハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得ス

第六百三十五條 旅客カ發航前ニ死亡、疾病其他一身ニ關スル不可抗力ニ因リテ航海ヲ爲スコト
能ハサルニ至リタルトキハ船舶所有者ハ運送賃ノ四分ノ一ヲ請求スルコトヲ得

前項ニ掲ケタル事由カ發航後ニ生シタルトキハ船舶所有者ハ其選擇ニ從ヒ運送賃ノ四分ノ一ヲ
請求シ又ハ運送ノ割合ニ應シテ運送賃ヲ請求スルコトヲ得

第六百三十六條 航海ノ途中ニ於テ船舶ヲ修繕スヘキトキハ船舶所有者ハ其修繕中旅客ニ相當ノ
住居及ヒ食料ヲ供スルコトヲ要ス但旅客ノ權利ヲ害セサル範圍内ニ於テ他ノ船舶ヲ以テ上陸港

マテ旅客ヲ運送スルコトヲ提供シタルトキハ此限ニ在ラス

第六百三十七條 旅客運送契約ハ第五百八十七條第一項ニ掲ケタル事由ニ因リテ終了ス若シ其事
由カ航海中ニ生シタルトキハ旅客ハ運送ノ割合ニ應シテ運送賃ヲ支拂フコトヲ要ス

第六百三十八條 旅客カ死亡シタルトキハ船長ハ最モ其相續人ノ利益ニ適スヘキ方法ニ依リテ其
船中ニ在ル手荷物ノ處分ヲ爲スコトヲ要ス

第六百三十九條 第三百五十二條第一項、第三百五十二條、第五百九十一條、第五百九
十二條、第六百十四條及ヒ第六百十八條ノ規定ハ海上ノ旅客運送ニ之ヲ準用ス

第五百九十三條及ヒ第六百十七條ノ規定ハ旅客ノ手荷物ニ之ヲ準用ス

第六百四十條 旅客運送ヲ爲ス爲メ船舶ノ全部又ハ一部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合
ニ於テハ船舶所有者ト備船者トノ關係ニ付テハ前節第一款ノ規定ヲ準用ス

第四章 海損

第六百四十一條 船長カ船舶及ヒ積荷ヲシテ共同ノ危險ヲ免レシムル爲メ船舶又ハ積荷ニ付キ爲
シタル處分ニ因リテ生シタル損害及ヒ費用ハ之ヲ共同海損トス

前項ノ規定ハ危險カ過失ニ因リテ生シタル場合ニ於テ利害關係人ノ過失者ニ對スル求償ヲ妨ケ
ス

第六百四十二條 共同海損ハ之ニ因リテ保存スルコトヲ得タル船舶又ハ積荷ノ價格ト運送賃ノ半
額ト共同海損タル損害ノ額トノ割合ニ應シテ各利害關係人ノ之ヲ分擔ス

第六百四十三條 共同海損ノ分擔額ニ付テハ船舶ノ價格ハ到達ノ地及ヒ時ニ於ケル價格トシ積荷
ノ價格ハ陸揚ノ地及ヒ時ニ於ケル價格トス但積荷ニ付テハ其價格中ヨリ減失ノ場合ニ於テ支拂
フコトヲ要セサル運送賃其他ノ費用ヲ控除スルコトヲ要ス

第六百四十四條 前二條ノ規定ニ依リ共同海損ヲ分擔スヘキ者ハ船舶ノ到達又ハ積荷ノ引渡ノ時

ニ於テ現存スル價額ノ限度ニ於テノミ其責ニ任ス

第六百四十五條 船舶ニ備附ケタル武器船員ノ給料船員及ヒ旅客ノ食料並ニ衣類ハ共同海損ノ分擔ニ付キ其價額ヲ算入セス但此等ノ物ニ加ヘタル損害ハ他ノ利害關係人ノヲ分擔ス

第六百四十六條 船荷證券其他積荷ノ價格ヲ評定スルニ足ルヘキ書類ナクシテ船積シタル荷物又ハ屬具目錄ニ記載セサル屬具ニ加ヘタル損害ハ利害關係人ニ於テ之ヲ分擔スルコトヲ要セス

甲板ニ積込ミタル荷物ニ加ヘタル損害亦同シ但沿岸ノ小航海ニ在リテハ此限ニ在ラス

前二項ニ掲ケタル積荷ノ利害關係人ト雖モ共同海損ヲ分擔スル責ヲ免ルルコトヲ得ス

第六百四十七條 共同海損タル損害ノ額ハ到達ノ地及ヒ時ニ於ケル船舶ノ價格又ハ陸揚ノ地及ヒ時ニ於ケル積荷ノ價格ニ依リテ之ヲ定ム但積荷ニ付テハ其滅失又ハ毀損ノ爲メ支拂フコトヲ要セサリシ一切ノ費用ヲ控除スルコトヲ要ス

第三百二十八條ノ規定ニ共同海損ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六百四十八條 船荷證券其他積荷ノ價格ヲ評定スルニ足ルヘキ書類ニ積荷ノ實價ヨリ低キ價額ヲ記載シタルトキハ其積荷ニ加ヘタル損害ノ額ハ其記載シタル價額ニ依リテ之ヲ定ム

積荷ノ實價ヨリ高キ價額ヲ記載シタルトキハ其積荷ノ利害關係人ハ其記載シタル價額ニ應シテ共同海損ヲ分擔ス

前二項ノ規定ハ積荷ノ價格ニ影響ヲ及ボスヘキ事項ニ付キ虛偽ノ記載ヲ爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

第六百四十九條 第六百四十二條ノ規定ニ依リテ利害關係人カ共同海損ヲ分擔シタル後船舶共ニ關具若クハ積荷ノ全部又ハ一部カ其所有者ニ復シタルトキハ其所有者ハ償金中ヨリ救助ノ費用

及ヒ一部滅失又ハ毀損ニ因リテ生シタル損害ノ額ヲ控除シタルモノヲ返還スルコトヲ要ス

第六百五十條 船舶カ雙方ノ船員ノ過失ニ因リテ衝突シタル場合ニ於テ雙方ノ過失ノ輕重ヲ判定スルコト能ハサルトキハ其衝突ニ因リテ生シタル損害ハ各船舶ノ所有者平分シテ之ヲ負擔ス

第六百五十一條 共同海損又ハ船舶ノ衝突ニ因リテ生シタル債權ハ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

前項ノ期間ハ共同海損ニ付テハ其計算終了ノ時ヨリ之ヲ起算ス

第六百五十二條 本章ノ規定ハ船舶カ不可抗力ニ因リ發航港又ハ航海ノ途中ニ於テ碇泊ヲ爲ス爲メニ要スル費用ニ之ヲ準用ス

第五章 保險

第六百五十三條 海上保險契約ハ航海ニ關スル事故ニ因リテ生スルコトアルヘキ損害ノ填補ヲ以テ其目的トス

海上保險契約ニハ本章ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外第三編第十章第一節第一款ノ規定ヲ適用ス

第六百五十四條 保險者ハ本章又ハ保險契約ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外保險期間中保險ノ目的ニ付キ航海ニ關スル事故ニ因リテ生シタル一切ノ損害ヲ填補スル責ニ任ス

第六百五十五條 保險者ハ被保險者カ支拂フヘキ共同海損ノ分擔額ヲ填補スル責ニ任ス但保險價額ノ一部ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ保險者ノ負擔ハ保險金額ノ保險價額ニ對スル割合ニ依リテ之ヲ定ム

第六百五十六條 船舶ノ保險ニ付テハ保險者ノ責任カ始マル時ニ於ケル其價額ヲ以テ保險價額トス

第六百五十七條 積荷ノ保險ニ付テハ其船積ノ地及ヒ時ニ於ケル其價額及ヒ船積並ニ保險ニ關ス

明治三十三年三月 法律 第四十八號 商法第五編海商 (第五章保險)

ル費用ヲ以テ保險價額トス

第六百五十八條 積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益又ハ報酬ノ保險ニ付テハ契約ヲ以テ保險價額ヲ定メサリシトキハ保險金額ヲ以テ保險價額トシタルモノト推定ス

第六百五十九條 一航海ニ付キ船舶ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ保險者ノ責任ハ荷物又ハ底荷ノ積積ニ著手シタル時ヲ以テ始マル

荷物又ハ底荷ノ積積ヲ爲シタル後船舶ヲ保險ニ付シタルトキハ保險者ノ責任ハ契約成立ノ時ヲ以テ始マル

前二項ノ場合ニ於テ保險者ノ責任ハ到達港ニ於テ荷物又ハ底荷ノ陸揚カ終了シタル時ヲ以テ終ハル但其陸揚カ不可抗力ニ因ラスシテ遅延シタルトキハ其終了スヘカリシ時ヲ以テ終ハル

第六百六十條 積荷ヲ保險ニ付シ又ハ積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益若クハ報酬ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ保險者ノ責任ハ其積荷カ陸地ヲ離レタル時ヲ以テ始マリ陸揚港ニ於テ其陸揚カ終了シタル時ヲ以テ終ハル

前條第三項但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六百六十一條 海上保險證券ニハ第四百二條第二項ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 船舶ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ其船舶ノ名稱 國籍並ニ種類 船長ノ氏名及ヒ發航港 到達港又ハ寄航港ノ定アルトキハ其港名

二 積荷ヲ保險ニ付シ又ハ積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益若クハ報酬ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ船舶ノ名稱 國籍並ニ種類 船積港及ヒ陸揚港

第六百六十二條 保險者ノ責任カ始マル前ニ於テ航海ヲ變更シタルトキハ保險契約ハ其效力ヲ失

保險者ノ責任カ始マル後航海ヲ變更シタルトキハ保險者ハ其變更後ノ事故ニ付キ責任ヲ負フコトナシ但其變更カ保險契約者又ハ被保險者ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リタルトキハ此限ニ在ラス

到達港ヲ變更シ其實行ニ著手シタルトキハ保險シタル航路ヲ離レサルトキト雖モ航海ヲ變更シタルモノト看做ス

第六百六十三條 被保險者カ發航ヲ爲シ若クハ航海ヲ繼續スルコトヲ怠リ又ハ航路ヲ變更シ其他著シク危険ヲ變更若クハ増加シタルトキハ保險者ハ其變更又ハ増加以後ノ事故ニ付キ責任ヲ負フコトナシ但其變更又ハ増加カ事故ノ發生ニ影響ヲ及ボササリシトキ又ハ保險者ノ負擔ニ歸スヘキ不可抗力若クハ正當ノ理由ニ因リテ生シタルトキハ此限ニ在ラス

第六百六十四條 保險契約中ニ船長ヲ指定シタルトキト雖モ船長ノ變更ハ契約ノ效力ニ影響ヲ及ボサス

第六百六十五條 積荷ヲ保險ニ付シ又ハ積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益若クハ報酬ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テ船舶ヲ變更シタルトキハ保險者ハ其變更以後ノ事故ニ付キ責任ヲ負フコトナシ但其變更カ保險契約者又ハ被保險者ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リタルトキハ此限ニ在ラス

第六百六十六條 保險契約ヲ爲スニ當タリ荷物ヲ積込ムヘキ船舶ヲ定メサリシ場合ニ於テ保險契約者又ハ被保險者カ其荷物ヲ積積シタルコトヲ知リタルトキハ遲滞ナク保險者ニ對シテ船舶ノ名稱及ヒ國籍ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

保險契約者又ハ被保險者カ前項ノ通知ヲ怠リタルトキハ保險契約ハ其效力ヲ失フ

第六百六十七條 保險者ハ左ニ掲ケタル損害又ハ費用ヲ填補スル責ニ任セス

一 保險ノ目的ノ性質若クハ瑕疵其自然ノ消耗又ハ保險契約者若クハ被保險者ノ惡意若クハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル損害

二 船舶又ハ運送貨ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テ發航ノ當時安全ニ航海ヲ爲スニ必要ナル準備ヲ爲サス又ハ必要ナル書類ヲ備ヘサルニ因リテ生シタル損害

三 積荷ヲ保險ニ付シ又ハ積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益若クハ報酬ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テ備船者荷送人又ハ荷受人ノ惡意若クハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル損害

四 水先案内料入港料燈臺料檢疫料其他船舶又ハ積荷ニ付キ航海ノ爲メニ出タシタル通常ノ費用

第六百六十八條 共同海損ニ非サル損害又ハ費用カ共計算ニ關スル費用ヲ算入セスシテ保險價額ノ百分ノ二ヲ超エサルトキハ保險者ハ之ヲ填補スル責ニ任セス

右ノ損害又ハ費用カ保險價額ノ百分ノ二ヲ超エタルトキハ保險者ハ其全額ヲ支拂フコトヲ要ス

前二項ノ規定ハ當事者カ契約ヲ以テ保險者ノ負擔セサル損害又ハ費用ノ割合ヲ定メタル場合ニ之ヲ準用ス

前三項ニ定メタル割合ハ各航海ニ付キ之ヲ計算ス

第六百六十九條 保險ノ目的タル積荷カ毀損シテ陸揚港ニ到達シタルトキハ保險者ハ其積荷カ毀損シタル狀況ニ於ケル價額ノ毀損セサル狀況ニ於テ有スヘカリシ價額ニ對スル割合ヲ以テ保險價額ノ一部ヲ填補スル責ニ任セス

第六百七十條 航海ノ途中ニ於テ不可抗力ニ因リ保險ノ目的タル積荷ヲ賣却シタルトキハ其賣却ニ依リテ得タル代價ノ中ヨリ運送貨其他ノ費用ヲ控除シタルモノト保險價額トノ差ヲ以テ保險者ノ負擔トス

險者ノ負擔トス但保險價額ノ一部ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テ第三百九十一條ノ適用ヲ妨ケス

前項ノ場合ニ於テ買主カ代價ヲ支拂ハサルトキハ保險者ハ其支拂ヲ爲スコトヲ要ス但其支拂ヲ爲シタルトキハ被保險者ノ買主ニ對シテ有セル權利ヲ取得ス

第六百七十一條 左ノ場合ニ於テハ被保險者ハ保險ノ目的ヲ保險者ニ委付シテ保險金額ノ全部ヲ請求スルコトヲ得

- 一 船舶カ沈没シタルトキ
- 二 船舶ノ行方カ知レサルトキ
- 三 船舶カ修繕スルコト能ハサルニ至リタルトキ
- 四 船舶又ハ積荷カ捕獲セラレタルトキ
- 五 船舶又ハ積荷カ官ノ處分ニ依リテ押收セラレ六ヶ月間解放セラレサルトキ

第六百七十二條 船舶ノ存否カ六ヶ月間分明ナラサルトキハ其船舶ハ行方ノ知レサルモノトス

保險期間ノ定アル場合ニ於テ其期間カ前項ノ期間内ニ經過シタルトキト雖モ被保險者ハ委付ヲ爲スコトヲ得但船舶カ保險期間内ニ滅失セサリシコトノ證明アリタルトキハ其委付ハ無効トス

第六百七十三條 第六百七十一條第三號ノ場合ニ於テ船長カ遲滞ナク他ノ船舶ヲ以テ積荷ノ運送ヲ繼續シタルトキハ被保險者ハ其積荷ヲ委付スルコトヲ得ス

第六百七十四條 被保險者カ委付ヲ爲サント欲スルトキハ三ヶ月内ニ保險者ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

前項ノ期間ハ第六百七十一條第一號第二號及ヒ第四號ノ場合ニ於テハ被保險者カ其事由ヲ知

リタル時ヨリ之ヲ起算ス
再保險ノ場合ニ於テハ第一項ノ期間ハ其被保險者カ自己ノ被保險者ヨリ委付ノ通知ヲ受ケタル時ヨリ之ヲ起算ス

第六百七十五條 委付ハ單純ナルコトヲ要ス

委付ハ保險ノ目的ノ全部ニ付テ之ヲ爲スコトヲ要ス但委付ノ原因カ其一部ニ付テ生シタルトキハ其部分ニ付テ之ヲ爲スコトヲ得

保險價額ノ一部ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ委付ハ保險金額ノ保險價額ニ對スル割合ニ應シテ之ヲ爲スコトヲ得

第六百七十六條 保險者カ委付ヲ承認シタルトキハ後日其委付ニ對シテ異議ヲ述フルコトヲ得ス

第六百七十七條 保險者ハ委付ニ因リ被保險者カ保險ノ目的ニ付キ有セル一切ノ權利ヲ取得ス被保險者カ委付ヲ爲シタルトキハ保險ノ目的ニ關スル證書ヲ保險者ニ交付スルコトヲ要ス

第六百七十八條 被保險者ハ委付ヲ爲スニ當タリ保險者ニ對シ保險ノ目的ニ關スル他ノ保險契約竝ニ其負擔ニ關スル債務ノ有無及ヒ其種類ヲ通知スルコトヲ要ス

保險者ハ前項ノ通知ヲ受クルマテハ保險金額ノ支拂ヲ爲スコトヲ要セス
保險金額ノ支拂ニ付キ期間ノ定アルトキハ其期間ハ保險者カ第一項ノ通知ヲ受ケタル時ヨリ之ヲ起算ス

第六百七十九條 保險者カ委付ヲ承認セサルトキハ被保險者ハ委付ノ原因ヲ證明シタル後ニ非サレハ保險金額ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得ス

第六章 船舶債權者

第六百八十條 左ニ掲ケタル債權ヲ有スル者ハ船舶、其屬具及ヒ未ダ受取ラサル運送貨ノ上ニ先取特權ヲ有ス

- 一 船舶竝ニ其屬具ノ競賣ニ關スル費用及ヒ競賣手續開始後ノ保存費
 - 二 最後ノ港ニ於ケル船舶及ヒ其屬具ノ保存費
 - 三 航海ニ關シ船舶ニ課シタル諸稅
 - 四 水先案内料及ヒ挽船料
 - 五 救援竝ニ救助ノ費用及ヒ船舶ノ負擔ニ關スル共同海損
 - 六 航海繼續ノ必要ニ因リテ生シタル債權
 - 七 雇傭契約ニ因リテ生シタル船長其他ノ船員ノ債權
 - 八 船舶カ其賣買又ハ製造ノ後未ダ航海ヲ爲ササル場合ニ於テ其賣買又ハ製造竝ニ機裝ニ因リテ生シタル債權及ヒ最後ノ航海ノ爲メニスル船舶ノ機裝、食料竝ニ燃料ニ關スル債權
 - 九 第二號第四號乃至第六號及ヒ前號ニ掲ケタルモノヲ除ク外第五百四十四條ノ規定ニ依リ委付ヲ許シタル債權
- 第六百八十一條 船舶債權者ノ先取特權ハ運送貨ニ付テハ其先取特權ノ生シタル航海ニ於ケル運送貨ノ上ニノミ存在ス
- 第六百八十二條 船舶債權者ノ先取特權カ互ニ競合スル場合ニ於テハ其優先權ノ順位ハ第六百八十條ニ掲ケタル順序ニ從フ但同條第四號乃至第六號ノ債權間ニ在リテハ後ニ生シタルモノ前ニ生シタルモノニ先ツ
- 同一順位ノ先取特權者數人アルトキハ各其債權額ノ割合ニ應シテ辨濟ヲ受ク但第六百八十條第四號乃至第六號ノ債權カ同時ニ生セザリシ場合ニ於テハ後ニ生シタルモノ前ニ生シタルモノニ

先取特權者ニ對シテ一定ノ期間内ニ其債權ノ申出ヲ爲スヘキ旨ヲ公告スルコトヲ要ス但其期間ハ
 先取特權者カ前項ノ期間内ニ其債權ノ申出ヲ爲サザリシトキハ其先取特權ハ消滅ス
 第六百八十五條 船舶債權者ノ先取特權ハ其發生後一年ヲ經過シタルトキハ消滅ス
 第六百八十六條 登記シタル船舶ハ之ヲ以テ抵當權ノ目的ト爲スコトヲ得
 船舶ノ抵當權ハ其屬具ニ及ブ
 第六百八十七條 船舶ノ先取特權ハ抵當權ニ先チテ之ヲ行フコトヲ得
 第六百八十八條 登記シタル船舶ハ之ヲ以テ質權ノ目的ト爲スコトヲ得
 第六百八十九條 本章ノ規定ハ製造中ノ船舶ニ之ヲ準用ス

(參照)

明治三十三年四月二十日法律第三十二號商法第三編ハ破産ニ關スル條章ナリ

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル商法施行法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十三年三月七日

- 內閣總理大臣 侯爵 山縣有朋
- 大藏大臣 伯爵 松方正義
- 內務大臣 侯爵 西鄉從道
- 陸軍大臣 子爵 桂 太郎
- 文部大臣 伯爵 樺山資紀
- 外務大臣 子爵 青木周藏
- 逓信大臣 子爵 芳川顯正
- 海軍大臣 山本權兵衛
- 司法大臣 清浦奎吾
- 農商務大臣 曾禰荒助

法律第四十九號 (官報 三月九日)

商法施行法

第一條 商法施行前ニ生シタル事項ニ付テハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外舊法ノ規定ヲ適用ス
 第二條 商事ニ關スル特別ノ法令ハ商法施行ノ後ト雖モ仍ホ其效力ヲ存ス

第三條 特別ノ法令中舊商法ノ規定ニ依ルヘキモノト定メタル場合ニ付テハ舊商法ハ商法施行ノ後ト雖モ仍ホ其效力ヲ存ス

第四條 商法施行前ヨリ商業ヲ營ム未成年者、妻及ヒ後見人ハ商法ノ規定ニ從ヒテ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第五條 商法施行前ニ會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ許サレタル未成年者又ハ妻ハ商法施行ノ日ヨリ其會社ノ業務ニ關シ之ヲ能力者ト看做ス

第六條 商法第七條第二項ノ規定ハ商法施行ノ日ヨリ其施行前ニ定メタル制限ニモ亦之ヲ適用ス

第七條 商法第八條ニ定メタル小商人ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條 商法施行前ニ舊法ノ規定ニ依リテ爲シタル登記ハ商法ノ規定ニ從ヒテ爲シタルモノト同一ノ效力ヲ有ス

第九條 商法施行前ニ登記シタル事項ニ變更ヲ生シ又ハ其事項カ消滅シタル場合ニ於テ商法施行前ニ登記ヲ爲サリシトキハ當事者ハ其施行ノ後遲滞ナク登記ヲ爲スコトヲ要ス

第十條 商法施行前ニ設立ノ登記ヲ爲シタル會社ノ社名ハ商法ノ規定ニ從ヒテ登記シタル商號ト同一ノ效力ヲ有ス

第十一條 商法施行前ニ設立シタル合名會社ニシテ其社名中ニ合名會社ナル文字ヲ用井サルモノハ其施行ノ日ヨリ三個月内ニ商法第十七條ノ規定ニ從ヒテ其社名ヲ改メ且其登記ヲ爲スコトヲ要ス

會社ノ業務ヲ執行スル社員カ前項ノ規定ニ違反シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處セ

第十二條 商法第十八條ノ規定ハ商法施行前ヨリ使用スル商號ニハ之ヲ適用セス

第十三條 商法第十九條ノ規定ハ舊商法施行前ヨリ使用スル商號ニハ之ヲ適用セス

商法施行後ニ商號ノ登記ヲ爲シタル者ト雖モ舊商法施行前ヨリ同一又ハ類似ノ商號ヲ使用スル者ニ對シテハ商法第二十條ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ得ス

第十四條 商法第十九條、第二十條第二項、第二十二條第一項及ヒ第二百八十九條第三項ニ掲ケタル市町村ハ市制又ハ町村制ヲ施行セサル地方ニ在リテハ從來ノ町村其他之ニ類スル區域トシ東京市、京都市及ヒ大阪市ニ在リテハ其各區トス

第十五條 商法施行前ニ東京市又ハ大阪市ニ於テ商號ノ登記ヲ爲シタル者ハ商法施行ノ日ヨリ六個月内ニ其市ニ存スル他ノ登記所ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

前項ニ定メタル登記ヲ爲サリシ者ハ其登記ヲ爲サリシ登記所ノ管轄區域内ニ於テハ商法第二十條ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ得ス

第十六條 商法第二十二條第二項ノ適用ニ付テハ北海道ハ之ヲ一府縣ト看做ス

第十七條 商法第二十八條ノ規定ハ商法施行前ニ作リタル商業帳簿ニモ亦之ヲ適用ス

第十八條 代務人ニハ商法施行ノ日ヨリ支配人ニ關スル規定ヲ適用ス

第十九條 商法施行前ヨリ支配人又ハ支配役ト稱スル者カ商法第三十條ニ定メタル權限ヲ有セサルトキハ主人ハ商法施行ノ日ヨリ三個月内ニ其名稱ヲ改ムルコトヲ要ス

主人カ前項ノ期間内ニ支配人又ハ支配役ノ名稱ヲ改メサリシトキハ其者ハ商法第三十條ニ定メタル權限ヲ有スルモノト看做ス

第二十條 商法第三十二條第三項ノ規定ハ舊商法第五十條ノ規定ニ反シテ爲シタル行爲ニ之ヲ準用ス但一年ノ期間ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第二十一條 商人カ商法施行前ニ前項ノ行爲ヲ知リタルトキハ二週間ノ期間モ亦其施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス
第二十二條 商法中會社ニ關スル規定ハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外商法施行ノ日ヨリ其施行前ニ設立シタル會社ニモ亦之ヲ適用ス

第二十三條 商法第四十七條ニ定メタル期間ハ商法施行前ニ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタル會社ニ付テハ其施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第二十四條 商法施行前ニ設立シタル合名會社ニシテ未タ設立ノ登記ヲ爲ササルモノハ商法施行ノ日ヨリ一ヶ月内ニ商法ノ規定ニ從ヒテ定款ヲ作り且商法第五十一條第一項ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ要ス

第二十五條 商法施行前ニ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタル合名會社ハ商法施行ノ日ヨリ一ヶ月内ニ本店ノ所在地ニ於テハ支店、支店ノ所在地ニ於テハ本店並ニ他ノ支店及ヒ社員ノ出資ノ種類並ニ財産ノ目的トスル出資ノ價格ヲ登記スルコトヲ要ス

第二十六條 商法第五十一條第二項、第三項及ヒ第五十二條ノ規定ハ合名會社カ設立ノ登記ヲ爲シタル後商法施行前ニ支店ヲ設ケ又ハ其本店若クハ支店ヲ移轉シタル場合ニ之ヲ準用ス但登記ノ期間ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第二十七條 會社ノ業務ヲ執行スル社員カ前二條ノ規定ニ依リ爲スヘキ登記ヲ怠リタルトキハ五

圓以上五十圓以下ノ過料ニ處セラル

第二十八條 商法第六十條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ舊商法第四百四條ノ規定ニ反シテ爲シタル行爲ニ之ヲ準用ス

第二十九條 商法第七十一條ノ規定ハ商法施行前ニ設立シタル合名會社ニハ之ヲ適用セス

第三十條 合名會社ノ目的タル事業ノ成功カ商法施行前ニ不能ト爲リタルトキハ裁判所カ解散ヲ命シタル場合ヲ除ク外其會社ハ商法ノ施行ト同時ニ解散シタルモノト看做ス

第三十一條 合名會社カ商法施行前ニ解散シタル場合ニ於テ未タ清算人ヲ選任セサルトキハ其施行ノ日ヨリ二週間内ニ商法第七十六條ノ規定ニ從ヒテ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第三十二條 合名會社カ商法施行前ニ解散シタル場合ニ於テ既ニ清算人ヲ選任シタルトキハ其施行ノ日ヨリ二週間内ニ商法第七十六條及ヒ第九十條ノ規定ニ從ヒテ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第三十三條 商法第七十八條第二項ノ規定ニ依リ爲スヘキ公告ハ裁判所カ爲スヘキ登記事項ノ公告ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三十四條 合名會社カ商法施行前ニ解散シタル場合ニ於テ未タ清算人ヲ選任セサルトキハ總社員ノ同意ヲ以テ會社財產ノ處分方法ヲ定ムルコトヲ得此場合ニ於テハ商法施行ノ日ヨリ二週間内ニ財産目錄及ヒ貸借對照表ヲ作ルコトヲ要ス

商法第七十八條第二項、第七十九條及ヒ第八十條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十五條 合名會社カ商法施行前ニ解散ノ登記ヲ爲シタル場合ニ於テハ清算ハ舊商法ノ規定ニ依リテ之ヲ爲ス

第二十六條 合名會社ニ於テ商法施行前ニ清算人ノ解任又ハ變更アリタルトキハ其施行ノ日ヨリ

二週間内ニ商法第九十七條ノ規定ニ從ヒテ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第二十七條 商法第三百三條ノ規定ハ商法施行前ニ解散シタル合名會社ニモ亦之ヲ適用ス

第二十八條 商法施行前ニ設立シタル合資會社ニハ舊商法ノ規定ヲ適用ス

第二十九條 第二十五條乃至第三十二條及ヒ前二條ノ規定ハ前項ノ會社ニ之ヲ準用ス

第三十條 商法施行前ニ設立シタル合資會社ハ其取引ニ關スル一切ノ書類ニ商法施行前ニ設立

シタル會社タルコトヲ示スコトヲ要ス

業務擔當社員カ前項ノ規定ニ違反シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處セラレ

第四十條 商法施行前ニ設立シタル合資會社ハ舊商法第五百十一條第二項ノ規定ニ從ヒ其組織

ヲ變更シテ之ヲ商法ニ定メタル合資會社、株式會社又ハ株式合資會社ト爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ總會ハ直ニ新會社ノ組織ニ必要ナル事項ヲ決議スルコトヲ要ス

第四十一條 商法第七十八條、第七十九條第一項、第二項及ヒ第二百五十四條ノ規定ハ前條ノ場合

ニ之ヲ準用ス

第四十二條 商法施行前ニ設立シタル合資會社ハ商法ノ規定ニ從ヒテ合併ヲ爲スコトヲ得但合併

後存續シ又ハ合併ニ因リテ設立スル會社ハ商法ニ定メタル種類ノ一タルコトヲ要ス

合併ノ決議ハ舊商法第五百十一條第二項ノ規定ニ依リ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第四十三條 商法施行前ニ發起ノ認可ヲ得タル株式會社ニ於テハ其發起人ハ七人以上ナルコトヲ

要セス

第四十四條 商法施行前ニ發起ノ認可ヲ得タル株式會社ト雖モ其發起人カ未タ株主ノ募集ニ著手

セサルトキハ之ニ商法ノ規定ヲ適用ス

第四十五條 株式會社ノ發起人カ商法施行前ニ株主ノ募集ニ著手シタルトキハ舊商法ノ規定ニ從

ヒテ會社ノ設立ヲ爲スコトヲ得但商法ノ規定ニ從ヒテ定款ヲ作ルコトヲ要ス

第四十六條 商法施行前ニ創業總會ニ於テ定款ヲ確定シタル場合ニ於テハ商法ノ規定ニ從ヒテ其

定款ヲ變更スルコトヲ要ス

第四十七條 商法第三百十條ノ規定ハ前二條ノ場合ニモ亦之ヲ適用ス

第四十八條 商法第六十三條第一項及ヒ第二項ノ規定ハ舊商法ノ規定ニ依リテ招集シタル創業

總會ノ決議ニ之ヲ準用ス但前條第二項ノ期間ハ商法施行前ニ決議ヲ爲シタル場合ニ於テハ其施

行ノ日ヨリ之ヲ起

第四十九條 第四十五條ノ場合ニ於テ商法施行前ニ株式總數ノ引受アリタルトキハ其施行ノ日ヨ

リ商法施行後ニ株式總數ノ引受アリタルトキハ其日ヨリ六個月内ニ發起人カ創業總會ヲ招集セ

サルトキハ株式申込人ハ其申込ヲ取消スコトヲ得

第五十條 第四十五條及ヒ第四十六條ノ場合ニ於テハ株式會社ハ各株ニ付キ株金ノ四分ノ一ノ

拂込アリタル後二週間内ニ商法第四百十一條第一項ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ要ス

第五十一條 商法施行前ニ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタル株式會社ニシテ其定款ニ商

法第二百十條第一號乃至第七號ニ掲ケタル事項ヲ定メサルモノハ商法施行ノ日ヨリ三個月内ニ

其定款ヲ變更スルコトヲ要ス

第五十二條 商法施行前ニ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタル株式會社ハ商法施行ノ日ヨ

リ三個月内ニ本店ノ所在地ニ於テハ支店、支店ノ所在地ニ於テハ本店並ニ他ノ支店及ヒ會社カ

公告ヲ爲ス方法並ニ監査役ノ氏名、住所ヲ登記スルコトヲ要ス

第五十三條 商法施行前ニ設立シタル株式會社カ登記シタル事項中ニ變更ヲ生シタル場合ニ於テ商法施行前ニ登記ヲ爲サザリシトキハ其施行ノ日ヨリ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

舊商法ノ規定ニ依リ登記スヘキ事項カ商法施行前ニ生シタル場合ニ於テハ舊商法ニ登記期間ノ定ナキトキニ限り前項ノ規定ヲ準用ス

第五十四條 取締役カ前三條ノ規定ニ違反シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處セラレ

第五十五條 商法施行前ニ設立シタル株式會社ニ於テ株式ノ金額カ商法第四百十五條第二項ノ規定ニ反スルモ舊商法及ヒ舊商法施行條例ノ規定ニ反セサル場合ニ於テハ定款ノ定ムル所ニ依ルコトヲ得、云施行後ニ新株ヲ發行スルトキ亦同シ

前項ノ規定ハ商法 三株式ノ金額ヲ變更スル場合ニハ之ヲ適用セス

第五十六條 商法中株券ニ關スル規定ハ商法施行前ニ發行シタル假株券ニモ亦之ヲ適用ス

第五十七條 商法施行前ニ發行シタル株券及ヒ假株券ハ商法第四百四十八條又ハ第二百十八條ノ規定ニ違フモ之ヲ改ムルコトヲ要セス但商法施行後ニ株金ノ拂込ヲ爲シタル場合ニ於テハ前ニ拂込ミタル金額及ヒ新ニ拂込ミタル金額ヲ假株券ニ記載スルコトヲ要ス

第五十八條 舊商法第二百十二條乃至第二百五十五條ノ規定ハ商法施行前ニ株金拂込ノ催告アリタル場合ニ限り之ヲ適用ス

第五十九條 商法第五百二十三條第二項乃至第四項ノ規定ハ商法施行前ニ株式ヲ讓渡シタル者ニシテ舊商法第八十二條ノ規定ニ依リ擔保義務ナキ者ニハ之ヲ適用セス

第六十條 法令ノ規定ニ依リ日本人ノミヲ以テ組織スヘキ株式會社及ヒ日本人ノミヲ以テ組織スルコトヲ條件トシテ特別ノ權利ヲ有スル株式會社ハ無記名式ノ株券ヲ發行スルコトヲ得ス若シ之ニ違反シタルトキハ其株券ハ無効トシ最後ノ記名株主ヲ以テ株主トス

取締役カ前項ノ規定ニ反シテ無記名式ノ株券ヲ發行シタルトキハ百圓以上千圓以下ノ過料ニ處セラレ

第六十一條 舊商法施行前ニ設立シタル株式會社ニ於テハ株主ノ議決權ノ制限カ商法第六十二條ノ規定ニ反スルモ定款ノ定ムル所ニ依ルコトヲ得但商法施行後ニ其制限ヲ變更スル場合ハ此限ニ在ラス

第六十二條 商法第六十三條ノ規定ハ株主總會カ商法施行前ニ決議ヲ爲シタル場合ニモ亦之ヲ適用ス但同條第二項ノ期間ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第六十三條 商法第六十七條但書ノ規定ハ商法施行前ニ選任シタル取締役及ヒ監査役ニハ之ヲ適用セス

第六十四條 商法施行前ニ選任シタル取締役又ハ監査役ト雖モ其禁治産ニ因リテ退任ス

第六十五條 商法施行前ニ選任シタル取締役ハ其施行ノ後遲滞ナク定款ニ定メタル員數ノ株券ヲ監査役ニ供託スルコトヲ要ス

第六十六條 商法施行前ニ設立シタル株式會社ニ於テ其施行後ニ株金ノ拂込アリタルトキハ取締役ハ其拂込ノ年月日ヲ株主名簿ニ記載スルコトヲ要ス

第六十七條 商法施行前ニ設立シタル株式會社ノ取締役ハ其施行ノ後遲滞ナク社債ノ總額及ヒ其償還ノ方法ヲ社債原簿ニ記載スルコトヲ要ス

第六十八條 株式會社カ商法施行前ニ其資本ノ半額ヲ失ヒタル場合ニ於テハ取締役ハ商法施行ノ後遲滞ナク株主總會ヲ召集シテ之ヲ報告スルコトヲ要ス

商法施行前ニ會社財産ヲ以テ會社ノ債務ヲ完済スルコト能ハサルニ至リタル場合ニ於テハ取締役ハ商法施行ノ後遲滞ナク破産宣告ノ請求ヲ爲スコトヲ要ス

第六十九條 取締役カ前三條ノ規定ニ違反シタルトキハ五圓以上百圓以下ノ過料ニ處セラレ

第七十條 商法第七十五條ノ規定ハ商法施行前ニ選任シタル取締役ニハ之ヲ適用セス

第七十一條 舊商法第八十九條ノ規定ハ商法施行前ニ選任シタル取締役ニノミ之ヲ適用ス

第七十二條 商法施行前ニ舊商法第二百二十八條又ハ第二百二十九條ノ規定ニ依リテ提起シタル訴ニハ商法ノ規定ヲ適用セス

第七十三條 商法施行前ニ選任シタル監査役ハ其任期カ一年ヨリ長キトキト雖モ其任期間在任ス

第七十四條 商法第九十條ニ掲ケタル書類ハ商法施行前ニ總會召集ノ通知ヲ發シタル場合ニ限リ會日マテニ之ヲ提出スルヲ以テ足ル

第七十五條 商法第九十六條ノ規定ハ商法施行前ニ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタル株式會社カ其登記後二年以上開業ヲ爲スコト能ハサルモノト認ムル場合ニモ亦之ヲ適用ス

裁判所カ定款ノ規定ヲ認可シタルトキハ取締役ハ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

取締役カ前項ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處セラレ

第七十六條 明治二十三年法律第六十號ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第七十七條 株式會社カ商法施行前ニ債券發行ノ認許ヲ得タル場合ニ於テハ舊法ノ規定ニ依リテ其募集ヲ完了スルコトヲ得

第七十八條 商法第二百四條第一項ノ規定ハ株式會社カ商法施行前ニ債券發行ノ認許ヲ得タル場合ニハ之ヲ適用セス

第七十九條 株式會社カ商法施行前ニ債券發行ノ認許ヲ得タル場合ニ於テ一時ニ全額ノ拂込ヲ爲サシメサルトキハ第一回ノ拂込アリタル後二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ拂込ミタル金額及ヒ商法第七十三條第三號乃至第六號ニ掲ケタル事項ヲ登記スルコトヲ要ス

第八十條 商法施行前ニ社債ノ全額又ハ一部ノ拂込アリタルトキハ其施行ノ日ヨリ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ拂込ミタル金額及ヒ商法第七十三條第三號乃至第六號ニ掲ケタル事項ヲ登記スルコトヲ要ス

第八十一條 商法施行前ニ發行シタル債券ハ商法第二百五條ノ規定ニ違フモ之ヲ改ムルコトヲ要セス

第五十七條但書ノ規定ハ債券ニ之ヲ準用ス

第八十二條 商法第二百九條第二項ノ規定ハ商法施行前ニ假決議ヲ爲シテ未タ其通知ヲ發セサル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第八十三條 商法第二百九條第四項ノ規定ハ株式會社カ商法施行前ニ定款變更ノ決議又ハ假決議ヲ爲シタル場合ニハ之ヲ適用セス

第八十四條 株式會社カ商法施行前ニ資本ノ増加若クハ減少ノ決議又ハ假決議ヲ爲シタル場合ニ於テハ舊商法ノ規定ニ依リテ其増加又ハ減少ヲ爲スコトヲ得

商法第二百二十八條乃至第三百十條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八十五條 商法施行前ニ爲シタル決議又ハ假決議ニ依リテ資本ヲ増加シタル場合ニ於テ商法施行前ニ新株ニ付キ拂込ミタル株金額ノ登記ヲ爲ササリシトキハ其施行ノ日ヨリ商法施行後ニ拂込アリタルトキハ其日ヨリ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

第八十六條 株式會社カ商法施行前ニ解散シタル場合ニ於テ未タ解散ノ決議ヲ爲ササルトキハ取締役ハ商法施行ノ後遲滞ナク株主ニ對シテ解散ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

第八十七條 取締役カ前二條ノ規定ニ違反シタルトキハ五十圓以上五十圓以下ノ過料ニ處セラル

第八十八條 株式會社ノ清算人ハ株主總會又ハ裁判所カ商法施行前ニ與ヘタル訓示ヲ遵守スルコトヲ要ス

第八十九條 商法施行前ニ舊商法第二百四十二條ノ規定ニ依リテ選任シタル代人ハ商法施行ノ後ト雖モ其權限ヲ保有ス

第九十條 第三十三條ノ規定ハ商法施行前ニ解散シタル株式會社ノ清算人カ爲スヘキ公告ニ之ヲ準用ス

第九十一條 第二十六條、第三十條乃至第三十二條、第三十五條及ヒ第三十六條ノ規定ハ株式會社ニ之ヲ準用ス

第九十二條 商法施行前ニ日本ニ支店ヲ設ケタル外國會社ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規程ヲ設ケルコトヲ得商法施行前ニ外國人カ日本ニ於テ設立シタル會社及ヒ組合ニ付キ亦同シ

第九十三條 商法施行前ニ舊法中會社ニ關スル罰則ヲ適用スヘキ行爲アリタルトキハ商法施行ノ後ト雖モ其罰則ヲ適用ス

第九十四條 私設鐵道株式會社ニハ明治二十年勅令第十三號私設鐵道條例ノ改正ニ至ルマテ舊商法及ヒ其附屬法令中株式會社ニ關スル規定ヲ適用ス

第九十五條 保險事業ハ政府ノ免許ヲ得ルニ非サレハ之ヲ營ムコトヲ得ス
政府ノ免許ヲ得スシテ保險事業ヲ營ム者アルトキハ裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其營業ヲ禁止スルコトヲ得

前項ノ禁止ニ拘ハラズ保險事業ヲ營ム者又ハ之ヲ營ム會社ノ業務ヲ執行スル社員若クハ取締役ハ十圓以上十圓以下ノ過料ニ處セラル

第九十六條 保險事業ハ株式會社ニ非サレハ之ヲ營ムコトヲ得ス

第九十七條 保險會社ハ他ノ營業ヲ兼ムルコトヲ得ス
同一ノ會社ニシテ生命保險ト損害保險トヲ併セテ營業トスルコトヲ得ス

第九十八條 保險會社ノ發起人カ營業ノ免許ヲ請フニハ定款及ヒ左ニ掲ケタル事項ヲ記載シタル書面ヲ差出タスコトヲ要ス

一 保險ノ種類及ヒ營業ノ範圍

二 普通保險約款

三 保險料及ヒ責任準備金算出ノ基礎及ヒ方法

四 責任準備金利用ノ方法

第九十九條 保險會社カ前條ニ掲ケタル書類ヲ變更スルニハ政府ノ認可ヲ得ルコトヲ要ス

第一百條 政府カ第九十八條ニ掲ケタル書類ノ變更ヲ必要ト認ムルトキハ其變更ヲ命スルコトヲ得

第一百一條 政府ハ何時ニテモ保險會社ヲシテ其營業ノ報告ヲ爲サシメ又ハ會社ノ業務及ヒ會社財產ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

第一百二條 政府カ保險會社ノ業務又ハ會社財產ノ狀況ニ依リ其營業ノ繼續ヲ困難ナリト認ムルトキ又ハ保險會社カ政府ノ命令ニ違反シタルトキハ政府ハ其營業ノ停止又ハ取締役ノ改選ヲ命スルコトヲ得

前項ニ掲ケタル事由アリト認ムルトキハ裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ會社ノ解散ヲ命スルコトヲ得

第一百三條 保險會社ハ總會終結ノ後遲滞ナク商法第九十條ニ掲ケタル書類及ヒ總會ノ決議録ヲ政府ニ差出タスコトヲ要ス

第一百四條 保險契約者、被保險者及ヒ保險金額ヲ受取ルヘキ者ハ保險會社ノ定時總會終結ノ後營業報告書、財産目錄若クハ貸借對照表ノ閱覽ヲ求メ又ハ其謄本若クハ抄本ノ交付ヲ請求スルトコトヲ得但保險會社ハ定款又ハ保險契約ノ定ムル所ニ依リ其謄本又ハ抄本ノ交付ニ付キ手数料ヲ拂ハシムルコトヲ妨ケス

第一百五條 保險會社ハ他ノ事業ヲ目的トスル會社ト合併ヲ爲スコトヲ得ス

生命保險ヲ營業トスル會社ト損害保險ヲ營業トスル會社トハ合併ヲ爲スコトヲ得ス

第一百六條 保險會社カ合併ヲ爲スニハ特ニ財産目錄及ヒ貸借對照表ヲ作り合併契約書ト共ニ之ヲ政府ニ差出タシ其認可ヲ得ルコトヲ要ス

第一百七條 保險會社カ任意ノ解散ヲ爲スニハ政府ノ認可ヲ得ルコトヲ要ス

第一百八條 生命保險ヲ營業トスル會社ニ在リテハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ハ會社財產ニ對シ他ノ

債權者ニ先チテ其權利ヲ行フコトヲ得

第九九條 生命保險ヲ營業トスル會社カ解散シタル場合ニ於テハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ハ被保險者ノ爲メニ積立テタル金額ノ割合ニ應ジテ其權利ヲ行フコトヲ得但會社ノ解散前ニ保險金額ヲ受取ルヘカリシ場合ハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ハ損害保險ヲ營業トスル會社ニ之ヲ準用ス

第一百十條 第九十七條及ヒ前十一條ノ規定ハ商法施行前ニ設立シタル合資會社又ハ株式會社ニシテ保險ヲ營業トスルモノニ之ヲ準用ス

商法施行前ニ設立シタル會社ニシテ第九十七條ニ禁止シタル兼業ヲ爲スモノハ商法施行ノ日ヨリ六个月内ニ其兼業ヲ廢止スルコトヲ要ス若シ之ニ違反シタルトキハ裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其保險營業ヲ禁止スルコトヲ得

第一百十一條 第九十七條、第九十九條乃至第一百二條、第一百五條乃至第一百九條及ヒ前條第二項ノ規定ハ商法施行前ニ設立シタル合名會社ニシテ保險ヲ營業トスルモノニ之ヲ準用ス

第一百十二條 商法施行前ニ設立シタル合名會社ニシテ保險ヲ營業トスルモノハ財産目錄及ヒ貸借對照表ヲ作ル毎ニ遲滞ナク營業報告書、損益計算書及ヒ利益ノ配當ニ關スル案ト共ニ之ヲ政府ニ差出タスコトヲ要ス

第一百十三條 商法施行前ニ設立シタル合名會社ニシテ保險ヲ營業トスルモノカ財産目錄及ヒ貸借對照表ヲ作ル毎ニ保險契約者、被保險者及ヒ保險金額ヲ受取ルヘキ者ハ第四百四條ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ得

第一百十四條 第九十七條、第九十九條乃至第一百二條及ヒ第一百十條第二項ノ規定ハ商法施行前ヨリ

保險事業ヲ營ム者ニ之ヲ準用ス

第百十五條 外國會社カ日本ニ支店又ハ代理店ヲ設ケテ保險事業ヲ營ム場合ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規程ヲ設クルコトヲ得

第百十六條 保險會社ニ關スル細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第百十七條 明治十年第六十六號布告利息制限法第五條ノ規定ハ商事ニハ之ヲ適用セス

第百十八條 商法施行前ニ設定シタル質權ノ實行ニ付テハ別段ノ意思表示アリタル場合ヲ除ク外競賣法ノ規定ヲ適用ス但取引所ノ相場アル有價證券其他ノ商品ニ在リテハ執達吏ハ取引所ニ於テ之ヲ賣却スルコトヲ得

前項ノ規定ハ留置權者カ其留置物ヲ賣却スル場合ニ之ヲ準用ス

第百十九條 商法施行前ニ發行シタル指圖證券及ヒ無記名證券ニハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外舊商法ノ規定ヲ適用ス但民法施行法第三十條第三十二條及ヒ第三十三條ノ準用ヲ妨ケズ

第百二十條 商法第二百八十一條ノ規定ハ商法施行前ニ發行シタル指圖證券及ヒ無記名證券ニモ亦之ヲ適用ス

第百二十一條 商法第二百九十九條ノ規定ハ商法施行前ニ約シタル匿名組合ニモ亦之ヲ適用ス

第百二十二條 湖川 港灣及ヒ沿岸小航海ノ範圍ハ逕信大臣之ヲ定ム

第百二十三條 手形ノ所持人ノ其前者ニ對スル償還請求權ハ支拂拒絕證書ノ作成カ商法施行前ニ在リタル場合ニ於テハ其施行ノ日ヨリ支拂拒絕證書ノ作成カ商法施行後ニ在リタル場合ニ於テハ其作成ノ日ヨリ六個月ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

裏書人ノ其前者ニ對スル償還請求權ハ商法施行前ニ償還ヲ爲シタル場合ニ於テハ其施行ノ日ヨリ消滅ス

リ商法施行後ニ償還ヲ爲シタル場合ニ於テハ其日ヨリ六個月ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

商法施行前ニ進行ヲ始メタル時効ノ殘期カ商法施行ノ日ヨリ起算シテ六個月ヨリ短キトキハ時効ハ其殘期ヲ經過スルニ因リテ完成ス

第百二十四條 明治十九年法律第二號公證人規則第二十八條ノ規定ハ公證人カ拒絕證書ヲ作ル場合ニハ之ヲ適用セス

第百二十五條 外國ニ於テ爲シタル手形行爲ノ要件ハ行爲地ノ法律ニ依ル

前項ノ規定ニ拘ハラズ外國ニ於テ爲シタル手形行爲カ日本ノ法律ニ定メタル要件ヲ具備スルトキハ外國ノ法律ニ依レハ要件ヲ具備セザルトキト雖モ爾後日本ニ於テ爲シタル手形行爲ハ有效トス日本人カ外國ニ於テ日本人ニ對シテ爲シタル手形行爲カ日本ノ法律ニ定メタル要件ヲ具備スルトキ亦同シ

第百二十六條 外國ニ於テ手形上ノ權利ヲ行使又ハ保全スル爲メニ爲ス行爲ノ方式ハ行爲地ノ法律ニ依ル

第百二十七條 商法第五百五十二條第三項ノ規定ハ商法施行前ニ選任シタル船舶管理人ニモ亦之ヲ適用ス

商法第五百五十三條ノ規定ハ商法施行ノ日ヨリ其施行前ニ選任シタル船舶管理人ニモ亦之ヲ適用ス

第百二十八條 商法第五百五十六條ノ規定ハ商法施行前ニ爲シタル船舶ノ賃貸借ニモ亦之ヲ適用ス

第二百二十九條 商法第五百五十八條乃至第五百六十八條及第五百七十條乃至第五百七十四條ノ規定ハ商法施行ノ日ヨリ其施行前ニ選任シタル船長ニモ亦之ヲ適用ス
第二百三十條 商法第五百六十二條第一項第二號乃至第五號ニ掲ケタル書類ノ書式ハ逓信大臣之ヲ定ム

第二百三十一條 委付ノ原因カ商法施行後ニ生シタルトキハ其施行前ニ爲シタル保險契約ニ付テモ被保險者ハ商法ノ規定ニ從ヒテ委付ヲ爲スコトヲ得

第二百三十二條 船舶ノ存否カ商法施行ノ日ヨリ六ヶ月間分明ナラサルトキハ未ダ舊商法第九百六十六條第一項ノ期間ヲ經過セサルトキト雖モ其船舶ハ行方ノ知レサルモノト看做ス

第二百三十三條 商法施行ノ際舊商法第九百六十九條第一項ニ定メタル三日ノ期間カ未ダ滿了ニ至ラサルトキハ商法施行ノ日ヨリ三ヶ月内ニ商法第六百七十四條ニ定メタル通知ヲ發シテ委付ヲ爲スコトヲ得

第二百三十四條 船舶ノ先取特權ニ關スル商法ノ規定ハ其施行前ニ發生シタル債權ニ付テモ亦之ヲ適用ス

第二百三十五條 第三十三條ノ規定ハ商法第六百八十四條第一項ノ規定ニ依リ爲スヘキ公告ニ之ヲ準用ス

第二百三十六條 船舶ノ抵當權ニ關スル商法ノ規定ハ商法施行前ニ設定シタル抵當權ニモ亦之ヲ適用ス

第二百三十七條 民法施行法第二條第三條第三十條第三十一條第三十三條第三十四條第五十三條及ヒ第五十六條ノ規定ハ商事ニ之ヲ準用ス

第二百三十八條 明治二十三年法律第三十二號商法第九百七十八條ヲ左ノ如ク改ム

商人カ支拂ヲ停止シタルトキハ裁判所ハ本人又ハ債權者ノ申立ニ因リ決定ヲ以テ破産ヲ宣告ス

裁判所ハ口頭辯論ヲ經シテ裁判ヲ爲スコトヲ得此裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
第二百二十九條 破産宣告ノ申立ヲ爲ス債權者ハ裁判所ノ定ムル所ニ從ヒ破産手續ニ必要ナル費用ヲ豫納スルコトヲ要ス

債權者カ前項ノ費用ヲ豫納セサルトキハ裁判所ハ破産宣告ノ申立ヲ棄却スルコトヲ得
第二百四十條 本人カ破産宣告ノ申立ヲ爲シタルトキハ破産手續ニ必要ナル費用ハ假ニ國庫ヨリ之ヲ支辨スルコトヲ要ス債權者カ破産宣告ノ申立ヲ爲シタル場合ニ於テ裁判所カ前條第二項ノ規定ニ依リテ其申立ヲ棄却セサルトキ亦同シ

第二百四十一條 裁判所ハ破産事件ニ付キ地方裁判所又ハ區裁判所ニ法律上ノ補助ヲ求ムルコトヲ得

第二百四十二條 明治二十三年法律第三十二號商法第九百五十一條第五號ヲ左ノ如ク改ム

第五 財産目錄、貸借對照表ノ作成若クハ支拂停止届出ノ義務ヲ怠リタルトキ又ハ裁判所ノ許可ヲ得ズシテ其住地ヲ離レタルトキ

第二百四十三條 明治二十三年法律第三十二號商法第九百五十四條ヲ左ノ如ク改ム

破産宣告ヲ受ケタル債務者ハ復權ヲ得ルニ非サレハ會社ノ無限責任社員、舊商法ノ規定ニ從ヒテ設立シタル合資會社ノ業務擔當社員、株式會社ノ取締役若クハ監査役、清算人、破産管財人又ハ商業會議所ノ會員ト爲ルコトヲ得ス

第四百四十四條 明治二十三年法律第三十二號商法第五十五條第三項ハ之ヲ削除ス
第四百四十五條 明治二十三年法律第三十二號商法第五十九條ヲ左ノ如ク改ム

商人カ商行爲ニ因リテ生シタル債務ニ付キ自己ノ過失ナクシテ支拂ヲ中止セサルコトヲ得サルニ至リタル場合ニ於テ其債權者ノ過半數以上ノ承諾ヲ得タルトキハ營業所ノ所在地又ハ住所地方管轄スル裁判所ハ一年ヲ超エサル範圍内ニ於テ支拂猶豫ヲ與フルコトヲ得

附則

第四百四十六條 本法ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四百四十七條 明治二十三年法律第五十九號商法施行條例ハ第二十條、第二十四條、第二十五條、第三十五條乃至第四十五條及ヒ第四十八條乃至第五十條ヲ除ク外本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス但第二十二條乃至第二十三條及ヒ第五十一條ノ規定ハ舊商法ノ規定ニ依ルヘキ場合ニ於テハ仍ホ其效力ヲ存ス

〔參照〕

第六十六號布告利息制限法(明治十年九月十一日)抄錄
第五條 返還期限ヲ違フルトキハ債主ヨリ債主ニ對シ若干ノ償金罰金違約金料等ヲ差出スヘキコトヲ約定スルコトアルトモ概シテ損害ノ補償ト看做シ裁判官ニ於テ該債主ノ事實受クタル損害ノ補償ニ不當ナリト思量スルトキハ之ニ相當ノ減少ヲ爲スコトヲ得

法律第二號公證人規則(明治十九年八月十三日官報)抄錄
第二十八條 公證人證書ヲ作ルニハ其囑託人ノ氏名ヲ知り而シテ必要トシ且丁年者一名ノ立會人ヲ要ス之ニ違ヒタルトキハ其證書ハ公正ノ效ヲ有セス

公證人囑託人ノ氏名ヲ知ラス而シテ其本籍或ハ寄留地ノ郡區長若クハ戶長ノ證明書又ハ公證人氏名ヲ知り而シテアル丁年者二人以上ヲ以テ其人ヲ證セシム可シ之ニ違ヒタルトキハ其證書ハ公正ノ效ヲ有セス

明治二十三年 八月九日 法律第六十號 商法第二百六條ニ依リ發行スヘキ債券ニ關スル件ナリ

欠

MISSING

明治三十三年三月九日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋
大藏大臣伯爵松方正義

法律第五十二號(官報 三月十日)

銀行條例中左ノ通改正ス

第九條 第二條ノ規定ニ違反シ大藏大臣ノ認可ヲ受ケスシテ銀行ノ事業ヲ營ミタルトキハ其營業主、會社ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、外國會社ノ代表者ヲ十圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

第十條 銀行ニ於テ第三條ノ報告若ハ第四條ノ公告ヲ爲サス又ハ其報告中若ハ公告中ニ詐偽ノ陳述ヲ爲シ若ハ事實ヲ隱蔽シタルトキハ其營業主、會社ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、外國會社ノ代表者ヲ五圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

第八條ノ検査ヲ受クルコトヲ拒ミタルトキハ其營業主、會社ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、外國會社ノ代表者ヲ十圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

〔參照〕

法律第七十二號銀行條例(明治三十三年八月二十五日官報)抄録

第九條 第二條ノ規定ニ違反シ大藏大臣ノ認可ヲ受ケスシテ銀行ノ事業ヲ營ミタル者ハ商法第二百五十六條ノ例ニ依テ處分ス

第十條 銀行ニ於テ第三條ノ報告若ハ第四條ノ公告ヲ爲サス又ハ其報告中若ハ公告中ニ詐偽ノ陳述ヲ爲シ若ハ事實ヲ隱蔽シタルトキハ商法第二百六十二條ノ例ニ依テ處分ス

第八條ノ検査ヲ受ルコトヲ拒ミタルトキハ商法第二百五十八條ノ例ニ依テ處分ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル銀行ニ關スル法律ニ定メタル過料ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十二年三月九日

内閣總理大臣 侯爵 山縣有朋
大藏大臣 伯爵 松方正義

法律第五十三號 (官報 三月十日)

銀行ニ關スル法律ニ於テ定メタル過料ニ付テハ非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ヲ準用ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル印紙稅法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十二年三月九日

内閣總理大臣 侯爵 山縣有朋
大藏大臣 伯爵 松方正義

法律第五十四號 (官報 三月十日)

印紙稅法

第一條 財産權ノ創設移轉變更若ハ消滅ヲ證明スヘキ證書、帳簿及財産權ニ關スル追認若ハ承認ヲ證明スヘキ證書ヲ作成スル者ハ此ノ法律ニ依リ印紙稅ヲ納ムヘシ

第二條 證書ニ關シテハ一通毎ニ其ノ記載金高五圓以上ノモノニ限リ記載金高一萬分ノ五ノ割合ヲ以テ印紙稅ヲ納ムヘシ但シ印紙稅額五十圓トナルトキハ五十圓ニ止メ一錢未滿トナリ又ハ一

錢未滿ノ端數ヲ生スルトキハ一錢ニ切上クルモノトス

金高記載ナキモ證書面ニ標記シアル價額ノ單位又ハ其ノ他ノ記載事項ニ依リ其ノ金高ヲ算出スルコトヲ得ルモノハ其ノ總金額ヲ以テ記載金高ト看做ス

第三條 爲替手形、約束手形ハ一通毎ニ其ノ記載金高五圓以上ノモノニ限リ左ノ割合ヲ以テ印紙稅ヲ納ムヘシ

金高二千圓未滿

印紙稅二錢

金高二千圓以上

印紙稅十錢

第四條 左ニ掲クル證書、帳簿ニ關シテハ證書ハ一通毎ニ帳簿ハ一冊一年以内ノ附込ニ對シテ定ムル所ノ印紙稅ヲ納ムヘシ

印紙稅一錢

一委任狀

印紙稅二錢

一銀行預金證書

印紙稅二錢

一船荷證券

印紙稅二錢

一運送貨物引換證

印紙稅二錢

一倉荷預證券

印紙稅二錢

一倉荷質入證券

印紙稅二錢

一保險證券

印紙稅二錢

一株券

印紙稅二錢

一 債券	印紙税二錢
一 株式申込證	印紙税二錢
一 地上權、永小作權、地役權ニ關スル證書	印紙税二錢
一 使用貸借、質貸借、雇傭、寄託、定期金ニ關スル契約證書	印紙税二錢
一 定款及組合契約書	印紙税二錢
一 權利ノ變更ニ關スル證書	印紙税二錢
一 追認、承認ニ關スル證書	印紙税二錢
一 物品切手	印紙税二錢
一 買賣仕切書	印紙税二錢
一 送狀	印紙税二錢
一 受取書	印紙税二錢
一 金高記載ナキ證書	印紙税二錢
一 擔保品差入證書、擔保品預證書	印紙税二錢
一 通帳	印紙税二錢
一 判取帳	印紙税二十錢
第五條 左ニ掲グル證書、帳簿ニ關シテハ印紙税ヲ納ムルコトヲ要セス	
一 官廳又ハ公署ヨリ發スル證書、帳簿	
一 官廳又ハ公署ニ職ヲ奉スル者ノ職務上發スル證書、帳簿	

一 國庫金ノ取扱ニ關シ發スル證書	
一 慈善又ハ公共事業ノ爲ニスル金買物件ノ寄附ニ關シ人民ヨリ官廳若ハ公署ニ提出スル證書	
一 俸給、給料、歳費、手當金、賞與金、年金、恩給金、扶助料、旅費及救恤金ノ受取書	
一 小切手	
一 金高五圓未満ノ爲替手形、約束手形	
一 營業ニ關セサル受取書	
一 金高五圓未満若ハ金高記載ナキ送狀、受取書又ハ買賣仕切書	
一 主タル債務ノ證書ニ併記シタル擔保契約	
一 證券ノ裏書及手形ノ裏面ニ記載シタル受取書	
一 株券、債券ノ讓渡ヲ證明スヘキ裏面記載	
一 手形ノ引受、保證	
一 手形及證券ノ拒絕證書	
一 手形及證券ノ原本、謄本	
第六條 印紙税ハ證書、帳簿ニ印紙ヲ貼用シテ納ムルモノトス但シ爲替手形、約束手形、船荷證券、運送貨物引換證、倉荷預證券、倉荷質入證券、保險證券、株券、債券ハ印紙税額ニ相當スル現金ヲ政府ニ納付シテ税印ノ捺捺ヲ受ケ印紙貼用ニ代フルコトヲ得	
第七條 一册ノ帳簿ヲ一年以上使用スルトキハ別帳簿ヲ編製シタルモノト看做ス	
第八條 證書ニ外國貨幣ヲ以テ員數ヲ記載スルトキハ內國貨幣ニ換算シタル金高ニ相當スル印紙ヲ貼用スヘシ	

第九條 印紙ヲ貼用スルトキハ證書又ハ帳簿ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニカケテ證書又ハ帳簿作成者ノ印章又ハ署名ヲ以テ判明ニ之ヲ消スヘシ

第十條 印紙ヲ貼用スヘキ帳簿、賣買仕切書、送狀ハ當該官吏之ヲ検査スルコトアルヘシ

第十一條 證書、帳簿ニ相當印紙ヲ貼用セス又ハ第六條但書ニ依リ稅印ノ押捺ヲ受ケサル者ハ脫稅高二十倍ノ科料又ハ罰金ニ處ス

第十二條 第十條ノ検査ヲ拒ミタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條 第九條ニ違背シタル者ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十四條 此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不倫罪、滅聲再犯加重、欺罪俱發ノ例ヲ用井ス

附則

第十五條 此ノ法律ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

第十六條 明治十七年第十一號布告證券印稅規則ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

第十七條 明治十七年第十一號布告證券印稅規則ニ依ル手形用紙ニシテ此ノ法律施行ノ際自用者ノ所持ニ係ルモノハ此ノ法律施行後ニ於テモ仍之ヲ使用スルコトヲ得但シ手形用紙記載ノ稅金高以上ニ之ヲ使用セムトスルトキハ其ノ不足額ハ印紙ヲ貼用シテ之ヲ補足スヘシ

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル兌換銀行券條例中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十二年三月九日

内閣總理大臣 侯爵山縣有朋
大藏大臣 伯爵松方正義

法律第五十五號 (官報 三月十日)

兌換銀行券條例第二條第二項中「八千五百萬圓」ヲ「壹億貳千萬圓」ニ改ム

〔參照〕

第十八號布告兌換銀行券條例(明治十七年五月二十六日)抄錄

第二條第二項

日本銀行ハ前項ノ外特ニ八千五百萬圓ヲ限リ政府發行ノ公債證券大藏省證券其他確實ナル證券又ハ商業手形ヲ保證トシ兌換銀行券ヲ發行スルコトヲ得但本項八千五百萬圓ノ内貳千七百萬圓ハ明治二十二年一月一日以降ニ係ル國立銀行紙幣ノ消却高ヲ限トシ漸次發行スルモノトス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル日本銀行納稅ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十二年三月九日

内閣總理大臣 侯爵山縣有朋
大藏大臣 伯爵松方正義

法律第五十六號 (官報 三月十日)

日本銀行ハ兌換銀行券條例第二條第二項ニ該當セル保證ニ據リ發行スル兌換券ノ每一箇月ノ平均發行高ニ對シ其ノ發行稅トシテ一箇年千分ノ十二半ノ割合ヲ以テ政府ヘ納稅スヘシ但シ政府ノ特命ニ依リ一箇年千分ノ十若ハ其ノ以內ノ利息又ハ無利息ヲ以テ政府又ハ其ノ他ヘ貸付ケタル兌換券ニ對シテハ其ノ納稅義務ヲ免除ス

本法納稅ノ義務ハ日本銀行カ既ニ負擔シ及將來ニ於テ負擔スヘキ他ノ義務ト關係ナキモノトス

納稅期限ハ一箇年ヲ兩度ニ區分シ前半季分ヲ八月三十一日後半季分ヲ翌年二月二十八日限り納ムルモノトス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル地價地租ニ錢位未滿ノ端數ヲ生スルトキ計算ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十二年三月九日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋
大藏大臣伯爵松方正義

法律第五十七號 (官報 三月十日)

地價ヲ定メ又ハ之ヲ修正シ若ハ土地ヲ分合スルトキ地價及地租ノ算出上一錢未滿ノ端數ヲ生シタル場合ニ於テ五厘未滿ハ切捨テ五厘以上ハ切上ケ一錢トシテ計算スルモノトス但シ一筆ノ地租ニシテ一錢未滿ナルモノハ此ノ限ニ在ラス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル取引所法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十二年三月九日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋
農商務大臣 曾禰荒助

法律第五十八號 (官報 三月十日)

取引所法中左ノ通改正ス

第十一條第一項中「株主」ヲ削ル

附則

此ノ法律ハ明治三十二年七月十七日ヨリ施行ス

〔參照〕

法律第五號取引所法(明治二十六年三月四日官報)抄録

第十一條第一項

帝國臣民ニ非サレハ取引所ノ會員株主又ハ仲買人トナルコトヲ得ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル沖繩縣土地整理法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十二年三月十日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋
大藏大臣伯爵松方正義
內務大臣侯爵西鄉從道

法律第五十九號 (官報 三月十一日)

沖繩縣土地整理法

第一條 沖繩縣ニ於ケル土地ハ此ノ法律ノ定ムル所ニ依テ之ヲ整理ス

第二條 村ノ百姓地、地頭地、「オエカ」地、「ノログモイ」地、「上納田」、「キナワ」畑ニシテ其ノ村ニ於テ地割セル土地ハ地割ニ依リ其ノ配當ヲ受ケタル者又ハ其ノ權利ヲ承繼シタル者ノ所有トス但シ其ノ配當ヲ受クヘキ者多數ノ協議ニ依リ此ノ法律施行ノ日ヨリ一箇年以内ニ地割替ヲ爲スコトヲ得

村カ浮掛又ハ叶掛ヲ受ケテ之ヲ地割シタル土地ニシテ第六條第一項但書ニ依リ村ノ所有トナルヘキモノ及間切ノ仕明地ヲ間切内各村ニ分配地割シ又ハ村ノ仕明地ヲ其ノ村ニ於テ地割シタル土地ニ付テモ亦前項ニ同シ

第三條 地割配當ノ統竝ノ爲現ニ叶米若ハ之ニ代ハルヘキ報償ヲ受クヘキ者ニハ其ノ叶米若ハ之ニ代ハルヘキ報償ヲ負擔スヘキ者ヨリ相當ノ土地ヲ交付シ又ハ代償ヲ爲スコトヲ要ス

村カ浮掛又ハ叶掛ヲ受ケテ之ヲ地割シタル土地ニシテ村ノ所有トナラサルモノノ配當ヲ受ケタル者又ハ其ノ權利ヲ承繼シタル者ニハ其ノ村持地ノ配當ヲ受ケタル者又ハ其ノ權利ヲ承繼シタル者ヨリ相當ノ土地ヲ交付シ又ハ代償ヲ爲スコトヲ要ス

第四條 村ノ百姓地、地頭地、「オエカ」地、「ノログモイ」地ヲ其ノ村ニ於テ屋敷地トシテ配當シタルモノハ其ノ配當ヲ受ケタル者又ハ其ノ權利ヲ承繼シタル者ノ所有トス

村カ浮掛又ハ叶掛ヲ受ケテ之ヲ屋敷地トシテ配當シタル土地ニシテ第六條第一項但書ニ依リ村ノ所有トナルヘキモノニ付テモ亦前項ニ同シ

第五條 屋敷地配當ノ統竝ノ爲現ニ叶米若ハ之ニ代ハルヘキ報償ヲ受クル者及村カ浮掛又ハ叶掛ヲ受ケテ之ヲ屋敷地トシテ配當シタル土地ニシテ村ノ所有トナラサルモノノ配當ヲ受ケタル者又ハ其ノ權利ヲ承繼シタル者ニ付テハ第三條ノ例ニ依ル

第六條 村ノ百姓地、地頭地、「オエカ」地、「ノログモイ」地、「キナワ」畑ニシテ村又ハ與ヨリ浮掛又ハ叶掛ヲ爲シタルモノハ其ノ浮掛又ハ叶掛ヲ爲シタル村又ハ與ニ於ケル地割ノ配當ヲ受クヘキ者ノ所有トス但シ叶米若ハ之ニ代ハルヘキ報償不納ノ場合ノ外取戻スコトヲ得サル浮掛又ハ叶掛ノ土地ハ村又ハ與ヨリ浮掛又ハ叶掛ヲ受ケテ占有ヲ得タル者又ハ其ノ權利ヲ承繼シタル者ノ所有トス

前項ニ依リ共有トナルヘキ土地ニ付此ノ法律施行前ニ成立セル浮掛又ハ叶掛ノ關係ハ此ノ法律施行後ニ於テモ仍存續ス

第一項ニ於ケル共有者ノ持分ハ第二條ニ於ケル地割ノ率ニ依リ第一項但書ニ依リ所有ヲ得タル者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ浮掛又ハ叶掛ヲ爲シタル村又ハ與ニ對シ報償ヲ爲シ且第二十三條ニ依リ地租ヲ徴收セラルル迄従前ノ叶米又ハ之ニ代ハルヘキ報償ヲ浮掛又ハ叶掛ヲ爲シタル村又ハ與ニ交付スルコトヲ要ス

第七條 藩制ノトキ地頭ノ自作シ若ハ拾掛ヲ爲シタル地頭地ニシテ村持トナラサルモノハ其ノ自作者若ハ拾掛ニ依リ占有ヲ得タル者又ハ其ノ權利ヲ承繼シタル者ノ所有トス

第八條 藩制ノトキ地頭ノ質入シタル地頭地ニシテ村持トナラサルモノハ質取主又ハ其ノ權利ヲ承繼シタル者ノ所有トス

前項ニ依リ所有ヲ得タル者ハ質入主ニ對シ其ノ債權ヲ主張スルコトヲ得サルモノトス

第九條 「ノログモイ」地ニシテ村持トナラサルモノハ「ノログモイ」トシテ占有ヲ得タル者又ハ其ノ權利ヲ承繼シタル者ノ所有トス

第十條 墓地及其ノ附屬地ハ朱引等ヲ有スヘキ者ノ所有トス

第十一條 仕明請地、仕明知行地、請地、拂請地、拜領地及那霸、首里兩區内ノ屋敷地ハ手形、差出等ヲ有スヘキ者ノ所有トス

第十二條 埋立地及濱山野ニシテ此ノ法律施行前埋立又ハ開墾ノ成功シタルモノハ其ノ埋立又ハ開墾ヲ爲シタル者又ハ其ノ權利ヲ承繼シタル者ノ所有トス

第十三條 間切山野、村山野、浮得地、保管地、馬場、牧場及間切役場ノ敷地等ハ其ノ區區ノ字間切、村又ハ其ノ權利ヲ承繼シタル者ノ所有トス

第十四條 村持地ニシテ村ヨリ讓渡シタル事實アルモノハ讓受人又ハ其ノ權利ヲ承繼シタル者ノ所有トス

第十五條 期限ヲ定メスシテ開墾ヲ許可シタル山、川、第十八條ノ規定ニ拘ハラズ其ノ許可ヲ受ケタル者又ハ其ノ權利ヲ承繼シタル者ノ所有トス

第十六條 永久ニ交換シタル土地ハ其ノ引渡シタル土地ノ名義ニ依テ前各條ヲ適用ス

第十七條 前各條ニ該當セサル土地ニシテ民有ト認ムヘキ事實アルモノハ第二條以下ノ規定ニ準シ處分ス

第十八條 山、川、床、堤防、敷、道路敷及其ノ餘地其ノ他民有ト認ムヘキ事實ナキモノハ總テ官有トス

山ノ保護管理ニ關シテハ勅令ヲ以テ規定スルモノノ外從來ノ慣行ニ依ル

第十九條 此ノ法律ニ依リ協議シタル事項ハ當該官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第二十條 此ノ法律ニ依リ民有トナリタル土地ハ便宜區畫シテ地盤ヲ丈量シ每筆其ノ品位等級ヲ詮定シ所得ヲ審査シ其ノ土地ノ情況ニ應シテ地價ヲ定ム

第二十一條 土地整理ニ關スル處分ニ付不服アル者ハ處分ヲ受ケタル後九十日以内ニ當該官廳ニ申立ツルコトヲ得但シ第十九條ノ場合ハ此ノ限ニアラス

第二十二條 前條ノ申立ニ對スル處分ニ付不服アル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第二十三條 地租條例及國稅徵收法ハ勅令ヲ以テ期日ヲ定メ漸次沖繩縣ニ施行ス但シ社寺地、拜所ハ地租ヲ免除ス

第二十四條 沖繩縣ニ於ケル地租ノ納期ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十五條 此ノ法律ノ施行ニ關シテハ伊江島、伊平屋島、粟國島、渡名喜島、鳥島ハ間切ニ準シ與那國島ハ村ニ準ス

附則
第二十六條 沖繩縣ニ於テ土地ニ關シ舊慣ニ據リ徵收スル國稅ハ第二十三條ニ依リ地租ヲ徵收スル年ヨリ之ヲ廢止ス

第二十七條 此ノ法律ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

御名 御璽

明治三十二年三月十三日

内閣總理大臣 侯爵 山縣有朋
大藏大臣 伯爵 松方正義

登録税法中左ノ通改正ス

- 第十一條 特許ニ關シ登録ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ
 - 一 讓渡又ハ共有 每一件金十圓
 - 二 質入 每一件金五圓
- 第十二條 意匠ニ關シ登録ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ
 - 一 讓渡又ハ共有 物品一類毎ニ金二圓
 - 二 質入 物品一類毎ニ金一圓
- 第十三條 商標ニ關シ左ノ事項ノ登録ヲ受クル者ハ左ノ登録稅ヲ納ムヘシ
 - 一 讓渡又ハ共有 商品一類毎ニ金十圓

附則

此ノ法律ハ明治三十三年七月一日ヨリ施行ス

〔參照〕

- 法律第二十七號登録税法(明治二十九年三月二十八日官報)抄録
- 第十一條 特許ニ關シ登録ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ
 - 一 新規登録
 - 五年ノ特許 金二十圓
 - 十年ノ特許 金三十圓
 - 十五年ノ特許 金四十圓
 - 二 賣與、讓與又ハ共有 每一件金十圓
 - 三 書入契約 每一件金五圓
- 第十二條 意匠ニ關シ登録ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ
 - 一 新規登録

- 三年ノ專用 物品一類毎ニ金三圓
- 五年ノ專用 物品一類毎ニ金五圓
- 七年ノ專用 物品一類毎ニ金七圓
- 十年ノ專用 物品一類毎ニ金十圓
- 二 賣與、讓與又ハ共有 物品一類毎ニ金二圓
- 三 書入契約 物品一類毎ニ金一圓
- 第十三條 商標ニ關シ登録ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ
 - 一 新規登録用登録 商品一類毎ニ金二十圓
 - 二 賣與、讓與又ハ共有 商品一類毎ニ金十圓

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル關稅法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十三年二月十三日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋
大藏大臣伯爵松方正義

法律第六十一號(官報 三月十四日)

關稅法

- 第一章 關稅ノ賦課及徵收
- 第二章 船舶
- 第三章 貨物
- 第一節 總則
- 第二節 輸出輸入及積戻

- 第三節 回漕
- 第四節 郵便物
- 第五節 收容
- 第四章 税關官吏ノ職權
- 第五章 異議及訴願
- 第六章 罰則
- 第七章 犯則事件ノ調査及處分
- 第八章 補則

關稅法

第一章 關稅ノ賦課及徵收

第一條 輸入貨物ニハ關稅定率法ニ依リ關稅ヲ課ス但シ條約ニ於テ特別ノ協定アル貨物ハ其ノ協定ニ依ル

通過ノ爲輸入スル貨物ニハ關稅ヲ課セス但シ輸入ノ際擔保トシテ税金ニ相當スル金錢其ノ他ノ有價物ヲ提供スヘシ

第二條 輸入貨物損傷シタル爲減稅ヲ請フ者アルトキハ輸入免許前ニ限り相當ノ減稅ヲ爲スコトヲ得

第三條 關稅ハ輸入申告ノ日ニ於テ行ハルル法規ニ從ヒ徵收ス但シ保税倉庫ニ庫入シタル貨物ノ關稅ハ庫入申告ノ日、收容貨物ニシテ公賣ニ付スルモノノ關稅ハ公賣ノ日ニ於テ行ハルル法規ニ從ヒ徵收ス

第四條 關稅ハ輸入申告者ヨリ之ヲ徵收ス但シ連脫ヲ圖リ又ハ連脫シタル關稅ハ犯則者ヨリ之ヲ徵收ス

第五條 關稅未納ノ貨物ハ其ノ關稅ノ擔保トス

關稅ノ徵收ハ總テ他ノ公課及債權ニ先ツモノトス

第六條 擔保ヲ提供シタル場合ニ於テ徵收スヘキ關稅ヲ納付セサルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但シ金錢以外ノ擔保ハ之ヲ公賣ニ付シ關稅及公賣ノ費用ニ充テ殘金アルトキハ之ヲ擔保提供者ニ還付ス

第七條 關稅ノ徵收權ハ貨物輸入ノ日ヨリ滿二箇年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因テ消滅ス但シ連脫ヲ圖リ又ハ連脫シタル關稅ノ徵收權ハ此ノ限ニ在ラス

第八條 關稅ノ過誤納ニ因テ生スル請求權ハ關稅納付ノ日ヨリ滿二箇年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因テ消滅ス

第九條 前二條ノ期限内ニ爲シタル納稅告知若ハ仕拂請求ハ時効ヲ中斷ス

第二章 船舶

第十條 外國貿易船開港ニ入港シタルトキハ船長ハ入港ノ時ヨリ二十四時以内ニ稅關ニ入港届ヲ爲シ積荷目録、船口申告書、船用品目録及旅客氏名表ヲ提出スルト同時ニ船舶國籍證書及仕出港ノ出港免狀若ハ之ニ代ルヘキ書類ヲ預クヘシ

第十一條 沿海通航船外國貨物船卸ノ爲開港ニ入港シタルトキハ船長ハ入港ノ時ヨリ二十四時以内ニ其ノ貨物ノ積荷目録ヲ稅關ニ提出スヘシ

第十二條 外國貨物ヲ積載セル船舶ハ稅關長ノ認許ヲ得タル場合ノ外積荷目録ヲ提出シタル後ニ

非サレハ貨物ノ積卸ヲ爲スコトヲ得ス但シ旅客ノ携帶品及郵便物ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 外國貿易船開港ヲ出港セントスルトキハ船長ハ稅關ニ出港届ヲ爲シ出港免許ヲ受クヘシ

第十四條 外國貿易船貨物ノ積卸ヲ爲サスシテ入港ノ時ヨリ二十四時以内ニ出港スルトキハ第十條及第十三條ノ規定ヲ適用セス

第十五條 沿海通航船外國貨物ヲ積載シテ開港ヲ出港セントスルトキハ船長ハ其ノ貨物ノ積荷目録ヲ稅關ニ提出スヘシ

前項ノ積荷目録ハ貨物ノ船卸ヲ爲スヘキ地ヲ異ニスル毎ニ之ヲ調製スヘシ

第十六條 積荷目録ハ其ノ提出ノ時ヨリ二十四時以内ニ限リ稅關ノ認許ヲ得テ之ヲ訂正補足スルコトヲ得

第十七條 外國貨物ヲ積載セル船舶ハ日没ヨリ日出迄ノ間及稅關ノ休日ニハ稅關長ノ特許ヲ受クルニ非サレハ貨物ノ積卸ヲ爲スコトヲ得ス但シ旅客ノ携帶品及郵便物ハ此ノ限ニ在ラス

第十八條 外國貿易船ハ不開港ニ出入スルコトヲ得ス但シ海難其ノ他已ムヲ得サル事故アルトキハ此ノ限ニ在ラス

外國貿易船前項但書ノ事故ニ因リ不開港ニ入港シタルトキハ船長ハ直ニ其ノ事由ヲ稅關官吏、稅關官吏在ラサルトキハ警察官吏ニ届出ツヘシ

第十九條 左ニ掲クル外國貨物ヲ不開港ヨリ開港ニ回漕セントスル船舶ノ船長ハ稅關官吏、稅關官吏在ラサルトキハ警察官吏ノ認許ヲ受クヘシ

一 假ニ陸揚シタル貨物

二 運航ノ自由ヲ得サル船舶ニ積載セル貨物

三 難破貨物

第二十條 前條ノ貨物ヲ積載シ來リタル船舶開港ニ入港シタルトキハ船長ハ入港ノ時ヨリ二十四時以内ニ認許證ヲ稅關ニ提出スヘシ

第二十一條 外國貿易船用品ヲ積入レントスルトキハ船長ハ稅關、稅關ノ設置ナキ地ニ於テハ稅關官吏、稅關官吏在ラサルトキハ警察官吏ニ申告スヘシ

第二十二條 稅關官吏職務ノ爲船舶ニ乗込ムトキハ船長ハ相當ノ便宜ヲ與フヘシ

第二十三條 本法ニ於テ外國貿易船ト稱スルハ外國貿易ノ爲外國ニ往來スル船舶ヲ謂フ

第三章 貨物

第一節 總則

第二十四條 貨物ハ開港ニ由ルノ外輸出若ハ輸入ヲ爲スコトヲ得ス但シ左ニ掲クル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 遭難船舶ノ修繕救援若ハ救助ノ費用其ノ他航海ヲ繼續スルニ必要ナル費用ヲ支辨スル爲貨物ヲ賣却スルトキ

二 遭難船舶ニ積載セル損傷貨物若ハ腐敗シ易キ貨物ヲ讓渡スルトキ

三 遭難船舶若ハ難破貨物ヲ輸入スルトキ

四 遭難船舶ヨリ上陸シタル旅客ノ携帶品ヲ輸入スルトキ

第二十五條 貨物ノ検査ヲ開始シタル後ハ貨物ニ關スル申告書ノ訂正補足ヲ爲スコトヲ得ス

第二十六條 日没ヨリ日出迄ノ間及稅關ノ休日ニハ稅關長ノ特許ヲ受クルニ非サレハ貨物ヲ稅關

ニ送致シ又ハ貨物ノ引取、發送ヲ爲スコトヲ得ス但シ旅客ノ攜帶品ハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條 稅關ニ送致シ若ハ陸揚シタル貨物ノ取扱ハ總テ稅關長ノ指揮ニ從フヘシ

第二十八條 貨物ノ陸揚、船積其ノ他船舶ト陸地トノ交通ハ稅關長ノ特許ヲ得タル場合ノ外稅關ニ於テ定メタル場所ニ由ルヘシ

第二十九條 輸出シタル貨物ハ外國貨物トシ輸入シタル貨物ハ內國貨物トス

第三十條 貨物ニ關スル本法ノ規定ハ船用品ニ之ヲ適用セス

第二節 輸出、輸入及積戻

第三十一條 貨物ノ輸出若ハ輸入ヲ爲サントスル者ハ稅關ニ申告シ貨物ノ検査ヲ經テ其ノ免許ヲ受クヘシ但シ第二十四條但書ノ場合ニ於テハ稅關官吏、稅關官吏現場ニ在ラサルトキハ收稅官吏ニ申告シ其ノ検査及免許ヲ受クルコトヲ得

第三十二條 輸入申告書ニハ仕入書ヲ添付スヘシ但シ當該官吏ニ於テ仕入書ヲ添付スルコト能ハサル理由アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ場合ノ外輸入申告書ニ仕入書ヲ添付セサルトキハ關稅ノ賦課ニ關シ異議ヲ申立テ若ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得ス

第三十三條 通過ノ爲貨物ノ輸入ヲ爲サントスルトキハ之ヲ輸出スヘキ地ヲ異ニスル毎ニ其ノ目錄ヲ提出スヘシ

第三十四條 輸入貨物ハ輸入免許ヲ受ケタル後ニ非サレハ之ヲ引取リ若ハ通過ノ爲發送スルコトヲ得ス但シ當該官吏ノ認許ヲ得税金ノ擔保トシテ金錢ヲ提供シタルトキハ輸入貨物ノ引取ヲ爲スコトヲ得

第三十五條 通過ノ爲輸入シタル貨物ノ運送ハ關稅通路ニ由ルヘシ關稅通路ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十六條 運送人ハ通過貨物ニ關シ職務ヲ執行スル官吏ニ對シ相當ノ便宜ヲ與フヘシ

第三十七條 輸出貨物ハ輸出免許ヲ受ケタル後ニ非サレハ之ヲ船積スルコトヲ得ス

第三十八條 外國貨物ノ積戻ニハ總テ輸出ニ關スル規定ヲ準用ス但シ假ニ陸揚シタル貨物ノ積戻ハ此ノ限ニ在ラス

第三節 回漕

第三十九條 内外國貨物ヲ外國貿易船ニ又ハ外國貨物ヲ沿海通航船ニ積載シ開港間ニ回漕セントスル者ハ稅關ニ申告シ貨物ノ検査ヲ經テ回漕免許ヲ受クヘシ

第四十條 前條ノ回漕貨物ハ回漕免許ヲ受ケタル後ニ非サレハ之ヲ船積スルコトヲ得ス

第四十一條 第三十九條ノ回漕貨物船卸ヲ爲スヘキ地ニ到達シタルトキハ貨物ノ検査ヲ受クヘシ

第四節 郵便物

第四十二條 郵便物中關稅ヲ課スヘキ物品アルトキハ稅關ハ其ノ税金額ヲ郵便局ヘ通知スヘシ

第四十三條 關稅ヲ課スヘキ郵便物ヲ受取ラントスル者ハ郵便局ニ申出テ其ノ關稅ヲ納付スヘシ

前項ノ關稅ハ印紙ヲ以テ納付スヘシ

第四十四條 郵便物ノ關稅ハ郵便物ヲ名宛人ニ交付スル場合ノ外之ヲ課セス

第四十五條 第一條第二項但書、第二十四條、第二十六條、第三十一條乃至第三十五條及第三十七條乃至第四十一條ノ規定ハ郵便物ニ之ヲ適用セス

第五節 收容

第四十六條 船積ノ爲稅關ニ送致シ若ハ陸揚シタル貨物ハ其ノ送致若ハ陸揚ノ時ヨリ七十二時以
内ニ引取、船積、發送又ハ保稅倉庫ニ庫入ヲ爲ササルトキハ稅關ハ利害關係者ノ費用及危險ノ負
擔ヲ以テ之ヲ收容スルコトヲ得

第四十七條 貨物ヲ收容シタルトキハ三日以内ニ其ノ旨ヲ揭示スヘシ

第四十八條 貨物收容ノ解除ヲ得ントスル者ハ稅關ニ申告シ其ノ貨物ニ關スル一切ノ費用及敷料
ヲ納メ免許ヲ受クヘシ

第四十九條 前條ノ免許ヲ受ケタル時ヨリ四十八時以内ニ貨物ノ引取、船積、發送又ハ保稅倉庫ニ
庫入ヲ爲ササルトキハ前條ノ申告及免許ハ無効トス

第五十條 貨物收容ノ日ヨリ六箇月以内ニ第四十八條ノ申告ヲ爲ス者ナキトキハ稅關ハ其ノ記
號、番號、種類、箇數ヲ公告スヘシ

前項公告ノ日ヨリ一箇月以内ニ仍第四十八條ノ申告ヲ爲ス者ナキトキハ貨物ヲ競賣ニ付シ關
稅、敷料其ノ他其ノ貨物ニ關スル一切ノ費用ニ充テ殘金アルトキハ之ヲ供託スヘシ

第五十一條 收容貨物腐敗ノ虞アルトキ又ハ倉庫若ハ他ノ貨物ヲ害スルノ虞アルトキハ前條ノ期
限ニ拘ラス公告シテ之ヲ競賣ニ付スルコトヲ得但シ公告スルノ暇ナキトキハ競賣シタル後之ヲ
公告スヘシ

第五十二條 收容貨物ヲ競賣ニ付スルモ買受人ナキトキハ適宜之ヲ處分スルコトヲ得

第四章 稅關官吏ノ職權

第五十三條 稅關長ハ其ノ職權ノ執行ニ必要ト認ムルトキハ船車ノ出發ヲ差止メ又ハ進行ヲ停止
スルコトヲ得

第五十四條 稅關長ハ必要ト認ムルトキハ船舶若ハ貨物ニ關スル書類ヲ提出セシムルコトヲ得

第五十五條 稅關長ハ運送貨物ニ對シ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第五十六條 稅關長ハ必要ト認ムルトキハ輸出入貨物ノ見本ヲ納付セシムルコトヲ得

第五十七條 稅關官吏ハ船車ニ乗込ニ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第五十八條 稅關官吏ハ必要ト認ムルトキハ貨物ヲ検査若ハ封鎖シ又ハ船車倉庫其ノ他貨物ノ藏
置場ヲ封鎖スルコトヲ得

第五十九條 稅關長ハ職權ノ執行ニ必要ト認ムルトキハ海軍ノ援助ヲ求ムルコトヲ得

第六十條 前條ノ請求アリタルトキハ海軍艦船長ハ船舶ニ對シ進行停止ノ命令ヲ爲スコトヲ得
前項ノ命令ヲ受ケタル船舶進行ヲ停止セサルトキハ海軍艦船長ハ其ノ船舶ニ對シ兵力ヲ用ウル
コトヲ得

第五章 異議及訴願

第六十一條 關稅ノ賦課ニ關スル稅關長ノ處分ニ對シ不服アル者ハ其ノ處分ヲ受ケタル日ヨリ十
日以内ニ文書ヲ以テ稅關長ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得但シ貨物ヲ引取リタル後ハ此ノ限ニ在
ラス

第六十二條 前條ノ規定ニ依リ異議ノ申立アリタルトキハ稅關長ハ文書ヲ以テ之ヲ判定シ異議申
立人ニ之ヲ交付スヘシ但シ第六十三條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第六十三條 從價稅ヲ課スヘキ貨物ノ課稅價格ニ關スル異議ヲ不當ト認ムルトキハ稅關長ハ申告
價格ニ其ノ百分ノ五ヲ加ヘタル價格ヲ以テ其ノ貨物ヲ買上ルカ若ハ評價入ヲシテ評價セシムヘ
シ

評價人ノ評價額一致セサルトキハ其ノ平均ヲ以テ評價價格トス
第六十四條 評價人ハ四人トシ三人ハ稅關長之ヲ命シ二人ハ異議者之ヲ選定ス但シ左ニ掲クル者ハ評價人タルコトヲ得ス

一 身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者及家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定レタルトキヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル迄ノ者

二 第七十四條乃至第七十六條ノ處罰ヲ受ケ滿三年ヲ經過セサル者

三 剝奪公權者及停止公權者

四 當該事件ニ利害ノ關係ヲ有スル者

異議者ニ於テ評價人ヲ選定シタルトキハ稅關長ノ認可ヲ受クヘシ

第六十五條 評價人ヲシテ評價セシメタルトキハ其ノ評價價格ヲ以テ課稅價格トス但シ評價價格申告價格ヨリ少ナキトキハ申告價格ヲ以テ課稅價格トス

第六十六條 異議者ノ選定シタル評價人ニ關スル費用ハ異議者ノ負擔トス

第六十七條 異議ノ申立ハ處分ノ執行ヲ停止セス但シ稅關長ハ必要ト認ムルトキハ其ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

第六十八條 稅關長ノ處分ニ對シ不服アル者ハ大藏大臣ニ訴願スルコトヲ得

第六十九條 訴願ヲ審査セシムル爲メ委員會ヲ設ク

第七十條 委員會ハ委員過半数出席スルニ非サレハ決議ヲ爲スコトヲ得ス決議ハ出席委員ノ過半数ニ依リ之ヲ爲ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第七十一條 委員ハ自己ノ利害ニ關スル議事ニ參與スルコトヲ得ス

第七十二條 委員會ニ於テ審査ヲ了シタルトキハ其ノ結果ヲ大藏大臣ニ具申スヘシ
第七十三條 委員會ノ組織ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六章 罰則

第七十四條 輸入禁制品ノ輸入ヲ圖リ又ハ其ノ輸入ヲ爲シタル者ハ犯罪ニ係ル貨物ノ原價ニ相當スル罰金若ハ科料ニ處シ其ノ貨物ヲ沒收ス但シ他ノ法律ニ於テ別ニ刑ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第七十五條 關稅ノ遺脱ヲ圖リ又ハ關稅ヲ遺脱シタル者ハ其ノ遺脱ヲ圖リ又ハ遺脱シタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金若ハ科料ニ處シ犯罪ニ係ル貨物ヲ沒收ス

第七十六條 免許ヲ受ケズシテ貨物ノ輸出若ハ輸入ヲ爲シ又ハ爲サントシタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス但シ前二條ニ該當スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第七十七條 貨物ト符合セサル積荷目録ヲ提出シタルトキハ船長ヲ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十八條 第十八條第三項ノ規定ニ違反シタルトキハ船長ヲ二千圓以下ノ罰金ニ處ス但シ他ノ法律ニ於テ別ニ刑ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第七十九條 第十二條若ハ第十七條ノ規定ニ違反シタルトキハ船長ヲ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十條 第十條第十二條第十三條第十五條第十八條第二項第十九條第二十條若ハ第二十一條ノ規定ニ違反シタルトキハ船長ヲ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十一條 第二十六條乃至第二十八條第四十條若ハ第四十一條ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十二條 第七十七條乃至第八十一條ノ規定ニ該當スル者ハ不注意ニ出テタルノ故ヲ以テ處罰

ヲ免ルルコトヲ得ス

第八十三條 本法ニ依リ沒收スヘキ貨物ハ犯則當時ノ所有者ノ所有ニ屬スル間ハ之ヲ沒收シ既ニ之ヲ讓渡若ハ消費シタルトキハ其ノ價格ニ相當スル金額ヲ犯則者ヨリ徵收ス

第七章 犯則事件ノ調査及處分

第八十四條 税關官吏ハ犯則ノ事實發見ノ爲必要ト認ムルトキハ船車倉庫其ノ他ノ場所ニ臨檢シ搜索ヲ爲スコトヲ得

第八十五條 税關官吏ハ犯則ノ事實ヲ證明スルニ足ルヘキ物件ヲ身邊ニ藏匿スル者アリト思料シタルトキハ其ノ開示ヲ求メ若之ニ從ハサルトキハ身邊ノ搜索ヲ爲スコトヲ得

第八十六條 税關官吏ハ犯則事件ノ調査ヲ爲スニ當リ必要ト認ムルトキハ犯則者證人參考人ヲ訊問スルコトヲ得

第八十七條 税關官吏臨檢、搜索、訊問ヲ爲ストキハ制服ヲ着用シ又ハ其ノ資格ヲ證明スル證票ヲ携帯スヘシ

第八十八條 税關官吏ハ臨檢、搜索ヲ爲スニ當リ必要ト認ムルトキハ警察官吏ノ援助ヲ求ムルコトヲ得

第八十九條 税關官吏搜索ヲ爲ストキハ搜索スヘキ船車倉庫其ノ他ノ場所ノ所持人又ハ其ノ同居ノ親族、傭人、鄰佑若其ノ在ラサルトキハ其ノ地ノ警察官吏若ハ市町村吏員ヲシテ立會ハシムヘシ但シ船車ニ在テハ其ノ役員ヲシテ立會ハシムルコトヲ得
前項ノ親族、傭人若ハ鄰佑ハ成年者ナルヲ要ス

第九十條 税關官吏犯則事件ノ調査ニ依リ發見シタル物件犯則ノ事實ヲ證明スルニ足ルヘシト

思料シタルトキハ之ヲ差押ヘ差押目録ヲ作ルヘシ

差押物件ハ便宜ニ依リ所持者若ハ市町村役場ニ保管セシムルコトヲ得

第九十一條 臨檢搜索及物件差押ハ日没ヨリ日出迄ノ間之ヲ爲スコトヲ得ス但シ現行犯ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第九十二條 税關官吏ハ前條ニ記載シタル處分中何人ニ限ラス許可ヲ得シテ其ノ場所ニ出入スルヲ禁スルコトヲ得

第九十三條 税關官吏臨檢、搜索、訊問ヲ爲シタルトキハ其ノ調書ヲ作り立會人若ハ訊問ヲ受ケタル者ニ示シ共ニ署名スヘシ

立會人若ハ訊問ヲ受ケタル者署名セス又ハ署名スルコト能ハサルトキハ其ノ旨ヲ附記スヘシ

第九十四條 税關長ハ犯則事件ノ調査ニ依リ犯則ノ心證ヲ得タルトキハ其ノ理由ヲ明示シ罰金若ハ科料ニ相當スル金額、沒收ニ該當スル物品若ハ徵收金ニ相當スル金額ヲ税關ニ納付スヘキ旨ヲ通告スヘシ

第九十五條 犯則者前條ノ通告ヲ受ケタルトキハ其ノ日ヨリ五日以内ニ之ヲ履行スヘシ此ノ期間内ニ履行セサルトキハ税關長ハ直ニ告發スヘシ

第九十六條 犯則者通告ノ旨ヲ履行シタルトキハ同一事件ニ付訴ヲ受クルコトナシ

第九十七條 税關長ハ通告ヲ爲シ難シト認ムルトキ若ハ通告ノ旨ヲ履行スル資力ナシト認ムルトキハ直ニ告發スヘシ

第八章 補則

第九十八條 船舶修繕ノ爲又ハ巨大重量ノ貨物ニシテ開港ニ於テ積卸シ難キ貨物ヲ陸揚スル爲必
要ト認メラルトキハ當分ノ内稅關長ハ外國貿易船ノ不開港ニ出入スル特許ヲ與フルコトヲ得
第九十九條 從來ノ開港ノ外開港トナスヘキ場所及其ノ開港ニ於テ輸出若ハ輸入スヘキ貨物ノ種
類ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第一百條 本法ノ期間ヲ定ムルニ日時ヲ以テシタルモノハ其ノ期間中ニ稅關ノ休日ヲ算入セス
日ト稱スルハ二十四時ヲ謂ヒ月ト稱スルハ三十日ヲ謂ヒ年ト稱スルハ曆ニ從フ

第一百一條 本法ノ規定中船長ニ適用スヘキモノハ船長ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ニモ亦之ヲ適用
ス

第一百二條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第一百三條 明治十六年布告第四十號特別輸出港規則、同二十三年勅令第五十四號稅關法、稅關規
則、同二十六年法律第十三號、同二十七年法律第二號、同年法律第三號、同二十九年法律第十八號
其ノ他本法ニ抵觸スル法令ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

〔參照〕

明治十六年七月第四十號布告ハ韓國トノ貿易ハ他ノ外國貿易ノ手續ニ依ラシム但シ當分ノ内各開港場ノ外對馬國殿原
長門國下ノ關稅前國博多ノ三港ニ限リ韓國貿易ニ關スル日本人所有ノ船舶出入及貨物積卸許可ノ件、同二十三年八月二十
勅令第五十四號ハ對馬國佐須奈鹿見ノ二港ニ於テ韓國貿易ニ關スル帝國臣民所有ノ船舶ノ出入及貨物積卸許可ノ件、同二十
六年三月十五 法律第十三號ハ丹後國宮津港ニ於テ露領浦戶港及韓國貿易ニ關スル同上ノ件、同二十七年五月二十
法律第二號ハ越中國伏木港及後志國小樽港ニ於テ露領浦戶港及韓國貿易ニ關スル同上ノ件、同年四月法律
第三號ハ琉球國那覇港ニ於テ露領浦戶港及韓國貿易ニ關スル同上ノ件、同二十九年七月二十法律第十八號ハ開港外ニ於テ外國貿易ノ
船舶出入及貨物積卸出入ノ件ナリ

○ 朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル宅地組換法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十三年三月十三日

内閣總理大臣 侯爵山縣有朋
大藏大臣 伯爵松方正義

○ 法律第六十二號 (官報 三月十四日)

宅地組換法

第一條 郡村宅地ヲ市街宅地ニ、市街宅地ヲ郡村宅地ニ組換ヲ要スルトキハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
第二條 前條ニ依リ地目ヲ組換ヘタル土地ハ其ノ年ヨリ組換地目ノ地租定率ニ依リ其ノ地租ヲ徵
收ス

○ 朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル水先法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十三年三月十三日

内閣總理大臣 侯爵山縣有朋
遞信大臣 子爵芳川顯正

○ 法律第六十三號 (官報 三月十四日)

水先法

- 第一條 水先人ハ水先免狀ヲ有スルコトヲ要ス
水先人ニアラサル者ハ水先區ニ於テ船舶ノ水路ヲ嚮導スルコトヲ得ス
- 第二條 水先免狀ハ左ノ條件ヲ具備スル者ニ授與ス
 - 一 帝國臣民ナルコト
 - 二 主務大臣ノ定ムル試験規定ニ依リ試験ニ合格シタルコト
 - 三 水先人名簿ニ登録セラレタルコト
- 第三條 左ノ各號ニ該當スル者ハ水先人タルコトヲ得ス
 - 一 滿二十三年ニ達セサル者及滿六十年以上ノ者
 - 二 剝奪公權者
 - 三 家資分散者及破産者
 - 四 瘋癲白痴者及身體不具又ハ羸弱ニシテ業務ヲ營ムニ不適當ナル者
 - 五 水先免狀ノ行使ヲ禁止セラレタル者
- 第四條 水先人ハ左ノ各號ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ業務ヲ營ムコトヲ得ス
 - 一 公權ヲ行フコトヲ停止セラレタルトキ
 - 二 水先免狀ノ行使ヲ停止若ハ假停止セラレ又ハ之ヲ差押ヘラレタルトキ
- 第五條 水先人其ノ業務ニ従事スルトキハ水先免狀及水先法令書ヲ携帯スヘシ
水先人ハ當該官吏若ハ公吏ノ命令ニ依リ又ハ水先人ヲ要招シタル船長ノ要求ニ依リ水先免狀又ハ水先法令書ヲ開示スヘシ
- 第六條 水先人其ノ業務ニ従事スル爲水先船ニ乗込ミタルトキハ晝間ニ在リテハ水先旗ヲ掲揚シ

- 夜間ニ在リテハ海上衝突豫防法第八條ノ規定ニ依ルヘシ
- 第七條 水先人ヲ要招セントスルトキハ船長ハ水先信號ヲ爲スヘシ
- 第八條 水先人水先信號ヲ認メタルトキハ直ニ要招ニ應スヘシ
二艘以上ノ船舶ニ於テ同時ニ水先信號ヲ爲シタルトキハ水先人ハ自己ニ最モ近キ船舶ノ要招ニ應スヘシ
- 第九條 二人以上ノ水先人同時ニ要招ニ應シタルトキハ其ノ何レヲシテ水路ヲ嚮導セシムヘキカハ船長ノ選擇スル所ニ依ル
- 第十條 水先人水先船ヲ去リタルトキハ水先旗ヲ撤去スヘシ
- 第十一條 水先人水路ヲ嚮導スヘキ船舶ニ乗込ミタルトキハ其ノ氏名及水先人タルコトヲ船長ニ告知スヘシ
- 第十二條 水先人水路ヲ嚮導スヘキ船舶ニ乗込ミタルトキハ船長ハ水先信號ヲ撤去シ船舶ノ名稱、船舶所有者ノ氏名、船籍港、積量及喫水ヲ水先人ニ告知シ且水先人ノ要求アルトキハ其ノ證明書類ヲ開示スヘシ
- 第十三條 水先人ハ同時ニ二艘以上ノ船舶ノ水路ヲ嚮導スルコトヲ得ス但シ船舶運航ノ自由ヲ得ス又ハ水先人ヲ得ル能ハサル爲其ノ船舶ト水路ヲ嚮導スヘキ船舶ト曳綱ヲ以テ聯結セラレタルトキハ此ノ限ニアラス
- 第十四條 水先人水路ヲ嚮導シタルトキハ船長ニ對シ水先案内料ヲ請求スル權利ヲ有ス

前條但書ノ場合ニ於テハ水先人各艘ノ船舶ニ付前項ノ權利ヲ有ス

第十五條 水先案内料ノ命令ヲ以テ定ムル額ヲ超過スルコトヲ得ス

第十六條 水先人ハ水先修業生一名ニ限リ水路ヲ嚮導スルハ船舶ニ之ヲ伴フコトヲ得但シ二名以上ヲ伴ハントスルトキハ船長ノ承諾ヲ經ベシ

第十七條 水先區、水先旗ノ様式及水先信號ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條 主務大臣ハ水先區ヲ指定シテ水先人ノ員數ヲ制限シ水先人組合ヲ設ケシメ又ハ水先船ノ免狀及機裝ニ關シ必要ナル規定ヲ設ケルコトヲ得

水先人組合ハ規約ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十九條 水先人其ノ業務ニ從事スルニ當リ左ノ各號ニ該當スル場合ニ於テハ海員審判所ハ裁決ヲ以テ之ヲ懲戒ス

一 過失、懈怠又ハ不當ノ行爲ニ因リ船舶ニ損害ヲ加ヘ又ハ之ヲ沈没セシメタルトキ

二 過失、懈怠又ハ不當ノ行爲ニ因リ人ヲ死傷ニ致シタルトキ

三 業務ヲ怠リ又ハ業務上ノ義務ニ違反シタルトキ

四 亂醉、粗暴其ノ他ノ失行アリタルトキ

水先人組合ニ屬スル水先人其ノ組合規約中命令ノ規定ニ依リ懲戒ニ付スヘキ事項ニ違反シタルトキ亦前項ニ同シ

第二十條 前條ニ依リ審判ニ付スヘキ事件ノ管轄ハ其ノ水先人ノ住所ヲ管轄スル地方海員審判所ニ屬ス

前項ノ事件海員懲戒法ノ規定ニ依リ審判ニ付スヘキ事件ト關聯スルトキハ前項ノ管轄ハ海員懲

戒法ニ依リ事件ヲ管轄スル地方海員審判所ニ屬ス

第二十一條 水先人ノ懲戒ニ關シ此ノ法律ニ規定セキモノニ付テハ海員懲戒法ノ規定ヲ準用ス

第二十二條 水先人其ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈没セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタルトキハ一月以上三年以下ノ重懲罰ニ處ス又ハ五百圓以上六百圓以下ノ罰金ニ處ス

水先人ニアラサル者水先區ニ於テ水路ヲ嚮導シ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈没セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタルトキ亦前項ニ同シ

第二十三條 左ノ各號ニ該當スル者ハ二百五十圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第四條ノ規定ニ違反シテ水先人ノ業務ヲ營ミタル者及之ヲシテ水路ヲ嚮導セシメタル者

二 第八條第三項第三項又ハ第十三條ノ規定ニ違反シタル者

三 第十五條ノ規定ニ違反シテ水先案内料ヲ授受シタル者

四 水先免狀ヲ貸付シ之ヲ行使セシメタル者

五 詐偽ノ目的ヲ以テ船舶ノ喫水若ハ積量ニ付水先人ニ對シ不實ノ告知ヲ爲シ又ハ喫水ノ標識ヲ變更シタル者

六 水路ノ嚮導ヲ要求セシメタル場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ之ニ應セサル者又ハ之ニ應シタルモ正當ノ理由ナクシテ水路ヲ嚮導セサル者

七 水路ノ嚮導ヲ要求シタル場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ水先人ヲシテ水路ヲ嚮導セシメス又ハ正當ノ理由ナクシテ水先人ヲ水先區外ニ伴ヒタル者

八 水先人ニアラスシテ水先區ニ於テ水路ヲ嚮導シタル者

第二十四條 左ノ各號ニ該當スル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第四條ノ規定ニ違反シタル者

二 第八條第三項第三項又ハ第十三條ノ規定ニ違反シタル者

三 第十五條ノ規定ニ違反シテ水先案内料ヲ授受シタル者

四 水先免狀ヲ貸付シ之ヲ行使セシメタル者

五 詐偽ノ目的ヲ以テ船舶ノ喫水若ハ積量ニ付水先人ニ對シ不實ノ告知ヲ爲シ又ハ喫水ノ標識ヲ變更シタル者

六 水路ノ嚮導ヲ要求セシメタル場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ之ニ應セサル者又ハ之ニ應シタルモ正當ノ理由ナクシテ水路ヲ嚮導セサル者

七 水路ノ嚮導ヲ要求シタル場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ水先人ヲシテ水路ヲ嚮導セシメス又ハ正當ノ理由ナクシテ水先人ヲ水先區外ニ伴ヒタル者

八 水先人ニアラスシテ水先區ニ於テ水路ヲ嚮導シタル者

第二十四條 左ノ各號ニ該當スル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第四條ノ規定ニ違反シタル者

二 第八條第三項第三項又ハ第十三條ノ規定ニ違反シタル者

三 第十五條ノ規定ニ違反シテ水先案内料ヲ授受シタル者

四 水先免狀ヲ貸付シ之ヲ行使セシメタル者

五 詐偽ノ目的ヲ以テ船舶ノ喫水若ハ積量ニ付水先人ニ對シ不實ノ告知ヲ爲シ又ハ喫水ノ標識ヲ變更シタル者

六 水路ノ嚮導ヲ要求セシメタル場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ之ニ應セサル者又ハ之ニ應シタルモ正當ノ理由ナクシテ水路ヲ嚮導セサル者

七 水路ノ嚮導ヲ要求シタル場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ水先人ヲシテ水路ヲ嚮導セシメス又ハ正當ノ理由ナクシテ水先人ヲ水先區外ニ伴ヒタル者

八 水先人ニアラスシテ水先區ニ於テ水路ヲ嚮導シタル者

- 一 第五條第六條第十條第十一條又ハ第十二條ノ規定ニ違反シタル者
- 二 水先人ヲ要招スル爲ニアラスシテ水先信號又ハ之ト誤認シ易キ信號ヲ爲シタル者
- 三 水先人第十六條ノ規定ニ依リ水先修業生ヲ伴ヒタル場合ニ於テ之ヲ拒ミタル者又ハ同條但書ノ規定ニ違反シテ水先修業生ヲ伴ヒタル者
- 四 第十八條第一項ニ依リ定ムル規定ニ從ヒテ水先船ヲ艦装セス又ハ水先船免狀ヲ有セスモテ水先船ヲ使用シタル者
- 五 水先人ニアラスシテ水先旗若ハ之ト誤認シ易キ旗ヲ船舶ニ掲揚シ又ハ海上衝突豫防法第八條ノ點燈及信號ヲ爲シタル者
- 六 水先人ニアラスシテ第十八條第一項ニ依リ定ムル規定ニ從ヒテ艦装シタル水先船又ハ之ト誤認シ易キ船舶ヲ使用シタル者
- 第二十五條 船長水先區ニ於テ水先人ニアラサル者ヲシテ水路ヲ嚮導セシメタルトキハ命令ヲ以テ定メタル當該水先區ノ水先案内料ト同額以上二倍以下ノ罰金ニ處ス
- 第二十六條 水路ヲ嚮導セシメサレハ航行危險ナル場合ニ於テ水先人ヲ得ル能ハサルカ爲水先人ニアラサル者ヲシテ水路ヲ嚮導セシメタルモノナルトキハ前條及第二十三條第八號ノ規定ヲ適用セス
- 第二十七條 此ノ法律中船長ニ關スル規定ハ船長ニ代ハリテ其ノ職務ヲ行フ者ニ亦之ヲ適用ス
- 附則
- 第二十八條 此ノ法律施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第二十九條 明治十一年第三十七號布告ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

- 第三十條 明治十一年第三十七號布告ニ依リテ授與シタル水先免狀ハ主務大臣ノ定ムル所ニ從ヒ此ノ法律ニ依リテ授與スル水先免狀ト交換ス
- 前項ノ交換ヲ了スルマテハ舊水先免狀ハ該免狀ニ記載スル水先區中此ノ法律ニ依リテ定メタル水先區ニ該當スル部分ニ限り之ヲ代用スルコトヲ得
- 舊水先免狀ヲ有スル者第三條ノ各號ニ該當スルトキハ前二項ノ規定ヲ適用セス
- 第三十一條 此ノ法律施行前ヨリ其ノ施行後マテ引續キ水路ヲ嚮導スル場合ニ於テハ水先案内料ハ明治十一年第三十七號布告ニ依リテ之ヲ算定スヘシ
- 第三十二條 第十九條第二十條及第二十一條ノ規定ハ左ノ各號ニ該當スル場合ニ於テ亦之ヲ適用ス
 - 一 明治十一年第三十七號布告ニ依リテ審問ヲ要スルモノニシテ此ノ法律ニ依リ懲戒スヘキ行爲此ノ法律施行前ニ發生シ其ノ施行後ニ至リテ發覺シタルトキ
 - 二 前號ノ行爲此ノ法律施行ノ際審問中ナルトキ
- 第三十三條 此ノ法律施行後五年間ヲ限り主務大臣ハ第二條第一號ノ規定ニ拘ラス水先免狀ヲ授與スルコトヲ得
- 前項ニ依リ授與シタル水先免狀ハ前項ノ期間滿了ノ後ト雖其ノ效力ヲ失フコトナシ

〔參照〕

明治十一年第三十七號布告ハ西洋形船水先免狀規則ナリ

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル府縣制改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十二年三月十五日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋
内務大臣侯爵西鄉從道

法律第六十四號(官報 三月十六日)

府縣制

第一章 總則

第二章 府縣會

第一款 組織及選舉

第二款 職務權限及處務規程

第三章 府縣參事會

第一款 組織及選舉

第二款 職務權限及處務規程

第四章 府縣行政

第一款 府縣吏員ノ組織及任免

第二款 府縣官吏府縣吏員ノ職務權限及處務規程

第三款 給料及給與

第五章 府縣ノ財務

第一款 財產營造物及府縣稅

第二款 歲入出豫算及決算

第六章 府縣行政ノ監督

第七章 附則

府縣制

第一章 總則

第一條 府縣ハ從來ノ區域ニ依リ郡市及島嶼ヲ包括ス

第二條 府縣ハ法人トシ官ノ監督ヲ承ケ法律命令ノ範圍内ニ於テ其ノ公共事務竝從來法律命令又ハ慣例ニ依リ及將來法律勅令ニ依リ府縣ニ屬スル事務ヲ處理ス

第三條 府縣ノ廢置分合又ハ境界變更ヲ要スルトキハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

府縣ノ境界ニ涉リテ郡市町村境界ノ變更アリタルトキハ府縣ノ境界モ亦自ラ變更ス所屬未定地

ヲ市町村ノ區域ニ編入シタルトキ亦同シ

本條ノ處分ニ付財產處分ヲ要スルトキハ内務大臣ハ關係アル府縣郡市參事會及町村會ノ意見ヲ

徵シテ之ヲ定ム但シ特ニ法律ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二章 府縣會

第一款 組織及選舉

第四條 府縣會議員ハ各選舉區ニ於テ之ヲ選舉ス

選舉區ハ郡市ノ區域ニ依ル但シ東京市京都市大阪市其ノ他勅令ヲ以テ指定シタル市ニ於テハ區

ノ區域ニ依ル

第五條 府縣會議員ハ府縣ノ人口七十萬未滿ハ議員二十人ヲ以テ定員トシ七十萬以上百萬未滿ハ五萬ヲ加フル毎ニ一人ヲ増シ百萬以上ハ七萬ヲ加フル毎ニ一人ヲ増ス
各選舉區ニ於テ選舉スヘキ府縣會議員ノ數ハ府縣會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ム

前項議員ノ配當方法ニ關スル必要ナル事項ハ内務大臣之ヲ定ム

第六條 府縣内ノ市町村公民ニシテ市町村會議員ノ選舉權ヲ有シ且其ノ府縣内ニ於テ一年以來直接接國稅年額三圓以上ヲ納ムル者ハ府縣會議員ノ選舉權ヲ有ス

府縣内ノ市町村公民ニシテ市町村會議員ノ選舉權ヲ有シ且其ノ府縣内ニ於テ一年以來直接國稅年額十圓以上ヲ納ムル者ハ府縣會議員ノ被選舉權ヲ有ス

家督相續ニ依リ財產ヲ取得シタル者ハ其ノ財產ニ付被相續人ノ爲シタル納稅ヲ以テ其ノ者ノ納稅シタルモノト看做ス

府縣會議員ハ住所ヲ移シタル爲市町村ノ公民權ヲ失フコトアルモ其ノ住所同府縣内ニ在ルトキハ之カ爲其ノ職ヲ失フコトナシ

府縣會議員ノ選舉權及被選舉權ノ要件中其ノ年限ニ關スルモノハ府縣郡市町村ノ廢置分合若ハ境界變更ノ爲中斷セララルコトナシ

左ニ掲クル者ハ府縣會議員ノ被選舉權ヲ有セス其ノ之ヲ罷メタル後一箇月ヲ經過セサル者亦同

- 一 其ノ府縣ノ官吏及有給吏員
- 二 檢事警察官吏及收稅官吏

三 神官僧侶其ノ他諸宗教師

四 小學校教員

前項ノ外ノ官吏ニシテ當選シ之ニ應セントスルトキハ所屬長官ノ許可ヲ受クヘシ

選舉事務ニ關係アル官吏吏員ハ其ノ關係區域内ニ於テ被選舉權ヲ有セス其ノ之ヲ罷メタル後一箇月ヲ經過セサル者亦同シ

府縣ノ爲請負ヲ爲ス者又ハ府縣ノ爲請負ヲ爲ス法人ノ役員ハ其ノ府縣ノ府縣會議員ノ被選舉權ヲ有セス

府縣會議員ハ衆議院議員ト相兼ムルコトヲ得ス

第七條 府縣會議員ハ名譽職トス

府縣會議員ノ任期ハ四年トス

議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲又ハ議員ノ配當ヲ更正シタル爲解任ヲ要スル者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第八條 府縣會議員中副員アルトキ及府縣會議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲又ハ議員ノ配當ヲ更正シタル爲議員ノ選舉ヲ要スルトキハ三箇月以内ニ之ヲ行フヘシ

補闕議員ハ其ノ前任者ノ殘任期間在任ス

補闕議員ヲ除ク外本條第一項ニ依リ選舉セラレタル議員ハ次ノ改選期マテ在任ス

第九條 町村長ハ毎年九月十五日ヲ期トシ其ノ日ノ現在ニ依リ其ノ町村内ノ選舉人名簿二本ヲ調製シ其ノ一本ヲ十月一日マテニ郡長ニ送付スヘシ

郡長ハ町村長ヨリ送付シタル名簿ヲ合シ毎年十月十五日マテニ其ノ選舉區ノ選舉人名簿ヲ調製

スヘシ

第十條 市長ハ毎年九月十五日ヲ期トシ其ノ日ノ現在ニ依リ十月十五日マテニ其ノ選舉區ノ選舉人名簿ヲ調製スヘシ

第十一條 選舉人其ノ住所ヲ有スル市町村外ニ於テ直接國稅ヲ納ムルトキハ九月十五日マテニ當該行政廳ノ證明ヲ得テ其ノ住所地ノ市町村長ニ届出ツヘシ其ノ期限内ニ届出ヲ爲ササルトキハ其ノ納稅ハ選舉人名簿ニ記載セララルヘキ要件ニ算入セス

第十二條 郡市長ハ十月二十日ヨリ十五日間其ノ郡市役所ニ於テ選舉人名簿ヲ關係者ノ縦覽ニ供スヘシ若關係者ニ於テ異議アルトキ又ハ正當ノ事故ニ依リ前條ノ手續ヲ爲スコト能ハスシテ名簿ニ登錄セラレサルトキハ縦覽期限内ニ之ヲ郡市長ニ申立ルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ郡市長ハ其ノ申立ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ決定スヘシ

前項郡市長ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ關シテハ府縣知事郡市長ヨリモ亦訴願ヲ提起スルコトヲ得
選舉人名簿ハ十二月十五日ヲ以テ確定期限トシ確定名簿ハ次年ノ十二月十四日マテ之ヲ据置クヘシ

府縣參事會ノ裁決確定シ又ハ訴訟ノ判決ニ依リ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ郡市長ニ於テ直ニ之ヲ修正スヘシ

本條ニ依リ郡市長ニ於テ名簿ヲ修正シタルトキハ其ノ要領ヲ告示シ郡長ハ本人住所地ノ町村長ニ通知シ町村長ハ之ヲ告示スヘシ

確定名簿ニ登錄セラレサル者ハ選舉ニ參與スルコトヲ得ス但シ選舉人名簿ニ記載セララルヘキ確定裁決書若ハ判決書ヲ所持シ選舉ノ當日投票所ニ到ル者ハ此ノ限ニ在ラス

確定名簿ニ登錄セラレタル者選舉權ヲ有セサルトキハ選舉ニ參與スルコトヲ得ス但シ名簿ハ之ヲ修正スル限ニ在ラス

異議ノ決定若ハ訴願ノ裁決確定シ又ハ訴訟ノ判決アリタルニ依リ名簿無効トナリタルトキハ九月十五日ノ現在ニ依リ更ニ名簿ヲ調製スヘシ但シ名簿調製ノ期日マテニ選舉權ヲ失ヒタル者ハ名簿ニ登錄スル限ニ在ラス

前項名簿調製ノ期日縦覽修正及確定ニ關スル期限等ハ府縣知事ノ定ムル所ニ依ル

第十三條 府縣會議員ノ選舉ハ府縣知事ノ告示ニ依リ之ヲ行フ其ノ告示ニハ選舉ヲ行フヘキ選舉區投票ヲ行フヘキ日時及選舉スヘキ議員ノ員數ヲ記載シ選舉ノ日ヨリ少クとも二十日前ニ之ヲ發スヘシ

第十四條 府縣會議員ノ選舉ハ郡市長之ヲ管理ス

第十五條 投票所ハ市役所町村役場又ハ市町村長ノ指定シタル場所ニ於テ之ヲ設ケ市町村長其ノ事務ヲ管理ス

前項投票所ハ市町村長ニ於テ選舉ノ日ヨリ少クとも五日前ニ之ヲ告示スヘシ
特別ノ事情アル地ニ於テハ命令ヲ以テ二箇以上ノ投票所ヲ設ケ其ノ投票ニ關シ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第十六條 市町村長ハ臨時ニ其ノ管理スル投票區域内ニ於ケル選舉人中ヨリ投票立會人二名乃至四名ヲ選任スヘシ

投票立會人ハ名譽職トス

第十七條 選舉人ノ外投票所ニ入ルコトヲ得ス但シ投票所ノ事務ニ從事スル者投票所ヲ監視スル職權ヲ有スル者ハ此ノ限ニ在ラス

選舉人ハ投票所ニ於テ協議又ハ勸誘ヲ爲スコトヲ得ス

第十八條 選舉ハ投票ニ依リ之ヲ行フ
投票ハ一八一票ニ限ル

選舉人ハ選舉ノ當日自ラ投票所ニ到リ選舉人名簿ノ對照ヲ經投票簿ニ捺印シ投票スヘシ
選舉人ハ投票所ニ於テ投票用紙ニ自ラ被選舉人一名ノ氏名ヲ記載シテ投函スヘシ

投票用紙ニハ選舉人ノ氏名ヲ記載スルコトヲ得ス

自ラ被選舉人ノ氏名ヲ書スルコト能ハサル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス

投票用紙ハ府縣知事ノ定ムル所ニ依リ一定ノ式ヲ用ウヘシ

第十九條 投票ノ拒否ハ投票立會人之ヲ議決ス可否同數ナルトキハ市町村長之ヲ決スヘシ

第二十條 市町村長ハ投票録ヲ製シ投票ニ關スル顛末ヲ記載シ投票立會人ト共ニ之ニ署名スヘシ

第二十一條 投票ヲ終リタルトキハ町村長ハ其ノ指定シタル投票立會人ト共ニ直ニ投票函及投票録ヲ選舉會場ニ送致スヘシ

第二十二條 島嶼其ノ他交通不便ノ地ニ對シテハ府縣知事ハ適宜ニ其ノ投票期日ヲ定メ選舉會ノ期日マテニ其ノ投票函ヲ送致セシムルコトヲ得

第二十三條 選舉會ハ郡役所市役所又ハ郡市長ノ指定シタル場所ニ於テ之ヲ開クヘシ
前項選舉會ノ場所ハ郡市長豫メ之ヲ告示スヘシ

第二十四條 郡長ハ各投票所ヨリ參會シタル投票立會人ノ中ヨリ抽籤ヲ以テ選舉立會人二名乃至六名ヲ定ムヘシ

市長ハ選舉人中ヨリ選舉立會人二名乃至六名ヲ選任スヘシ

選舉立會人ハ名譽職トス

第二十五條 郡市長ハ選舉長ト爲リ郡ニ於テハ投票函ノ總テ到達シタル翌日市ニ於テハ投票ノ翌日選舉立會人立會ノ上投票函ヲ開キ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算スヘシ若投票ト投票人トノ總數ニ差異ヲ生シタルトキハ其ノ由ヲ選舉録ニ記載スヘシ但シ場合ニ依リ選舉會ハ郡ニ於テハ投票函到達ノ日市ニ於テハ投票ノ日之ヲ開クコトヲ得

前項ノ計算終リタルトキハ選舉長ハ選舉立會人ト共ニ投票ヲ點檢スヘシ

第二十六條 選舉人ハ其ノ選舉會ニ參觀ヲ求ムルコトヲ得

第二十七條 左ノ投票ハ之ヲ無効トス

- 一 成規ノ用紙ヲ用井サルモノ
- 二 一投票中二人以上ノ被選舉人ヲ記載シタルモノ
- 三 被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ
- 四 被選舉權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ
- 五 被選舉人ノ氏名ノ外他事ヲ記入シタルモノ但シ舊位職業身分住所又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十八條 投票ノ效力ハ選舉立會人之ヲ議決ス可否同數ナルトキハ選舉長之ヲ決スヘシ

第二十九條 府縣會議員ノ選舉ハ有效投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス投票ノ數相同キト

キハ年長者ヲ取り同年月ナルトキハ選舉長抽籤シテ其ノ當選者ヲ定ム

同時ニ補闕員數名ヲ選舉スルトキハ投票ノ數多キ者 投票ノ數相同キトキハ年長者ヲ以テ殘任期ノ長キ前任者ノ補闕ト爲シ同年月ナルトキハ選舉長抽籤シテ之ヲ定ム

第三十條 選舉長ハ選舉録ヲ製シテ選舉ノ顛末ヲ記載シ選舉ヲ終リタル後之ヲ朗讀シ選舉立會人二名以上ト共ニ之ニ署名シ投票選舉人名簿其ノ他關係書類ト共ニ選舉ノ效力確定スルニ至ルマテ之ヲ保存スヘシ

第三十一條 選舉ヲ終リタルトキハ選舉長ハ直ニ當選者ニ當選ノ旨ヲ告知シ同時ニ選舉録ノ寫ヲ添ヘ當選者ノ住所氏名ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

當選者當選ノ告知ヲ受ケタルトキハ十日以内ニ其ノ當選ヲ承諾スルヤ否ヲ府縣知事ニ申立ツヘシ

一人ニシテ數選舉區ノ選舉ニ當リタルトキハ最終ニ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ何レノ選舉ニ應スヘキカヲ府縣知事ニ申立ツヘシ

定期改選増員選舉補闕選舉等ヲ同時ニ行ヒタル場合ニ於テ一人ニシテ其ノ數選舉ニ當リタルトキハ前項ノ例ニ依ル

前三項ノ申立ヲ其ノ期限内ニ爲ササルトキハ當選ヲ辭シタルモノト看做ス

第六條第七項ノ官吏ニシテ當選シタル者ニ關シテハ本條ニ定ムル期間ヲ二十日以内トス

第三十二條 府縣會議員ノ當選ヲ辭シタル者アルトキハ更ニ選舉ヲ行フヘシ
二人以上投票同數ニシテ年長ニ由テ當選シタル者其ノ當選ヲ辭シタルトキハ年少ニ由テ當選セサリシ者ヲ以テ當選トス但シ年少ニ由テ當選セサリシ者二人以上アルトキハ年長者ヲ取り同年

月ナルトキハ選舉長抽籤シテ其ノ當選者ヲ定ム

二人以上投票同數ニシテ抽籤ニ依テ當選シタル者其ノ當選ヲ辭シタルトキハ抽籤ノ爲當選セサリシ者ヲ以テ當選トス但シ抽籤ノ爲當選セサリシ者二人以上アルトキハ選舉長抽籤シテ其ノ當選者ヲ定ム

第三十三條 當選者其ノ當選ヲ承諾シタルトキハ府縣知事ハ直ニ當選證書ヲ付與シ及其ノ住所氏名ヲ告示スヘシ

第三十四條 選舉人選舉若ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選舉ノ日ヨリ十四日以内ニ之ヲ府縣知事ニ申立ツルコトヲ得

前項ノ異議ハ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スヘシ

府縣知事ニ於テ選舉若ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ第一項申立ノ有無ニ拘ラス第三十一條第二項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ府縣參事會ノ決定ニ付スルコトヲ得

本條府縣參事會ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三十五條 選舉ノ規定ニ違背スルコトアルトキハ其ノ選舉ヲ無効トス但シ選舉ノ結果ニ異動ヲ生スルノ虞ナキモノハ此ノ限ニ在ラス

當選者ニシテ被選舉權ヲ有セサルトキハ其ノ當選ヲ無効トス

第三十六條 選舉若ハ當選無効ト確定シタルトキハ更ニ選舉ヲ行フヘシ但シ得票數ノ査定ニ錯誤アリタル爲又ハ選舉ノ際被選舉權ヲ有セサル爲當選無効ト確定シタルトキハ第二十九條及第三十一條ノ例ニ依ル

第三十七條 府縣會議員ニシテ被選舉權ヲ有セサル者ハ其ノ職ヲ失フ其ノ被選舉權ニ關スル異議ハ府縣參事會之ヲ決定ス

府縣會ニ於テ其ノ議員中被選舉權ヲ有セサル者アリト認ムルトキハ之ヲ府縣知事ニ通知スヘシ但シ議員ハ自己ノ資格ニ關スル會議ニ於テ辯明スルコトヲ得ルモ其ノ議決ニ加ハルコトヲ得ス

府縣知事ハ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スヘシ府縣知事ニ於テ被選舉權ヲ有セサル者アリト認ムルトキ亦同シ

本條府縣參事會ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ決定ニ關シテハ府縣知事ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

府縣會議員ハ其ノ被選舉權ヲ有セストスル決定確定シ又ハ判決アルマテハ會議ニ列席シ及發言スルノ權ヲ失ハス

第三十八條 本款ニ規定スル異議ノ決定及訴願ノ裁決ハ其ノ決定書若ハ裁決書ヲ交付シタルトキ直ニ之ヲ告示スヘシ

第三十九條 第四條第二項但書ノ市ニ於テハ市長トアルハ區長又市トアルハ區市役所トアルハ區役所ト看做シ本款ノ規定ヲ準用ス

町村組合ニシテ町村ノ事務ノ全部ヲ共同處理スルモノハ之ヲ一町村ト看做シ本款ノ規定ヲ準用ス

第四十條 府縣會議員ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉ニ關スル罰則ヲ準用ス

第二款 職務權限及處務規程

第四十一條 府縣會ノ議決スヘキ事件左ノ如シ

- 一 歲入出豫算ヲ定ムル事
 - 二 決算報告ニ關スル事
 - 三 法律命令ニ定ムルモノヲ除ク外使用料手数料府縣稅及夫役現品ノ賦課徵收ニ關スル事
 - 四 不動産ノ處分並買受讓受ニ關スル事
 - 五 積立金穀等ノ設置及處分ニ關スル事
 - 六 歲入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除ク外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ拋棄ヲ爲ス事
 - 七 財產及營造物ノ管理方法ヲ定ムル事但シ法律命令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス
 - 八 其ノ他法律命令ニ依リ府縣會ノ權限ニ屬スル事項
- 第四十二條 府縣會ハ其ノ權限ニ屬スル事項ヲ府縣參事會ニ委任スルコトヲ得
- 第四十三條 府縣會ハ法律命令ニ依リ選舉ヲ行フヘシ
- 第四十四條 府縣會ハ府縣ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ府縣知事若ハ內務大臣ニ呈出スルコトヲ得
- 第四十五條 府縣會ハ官廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ答申スヘシ
- 府縣會ノ意見ヲ徵シテ處分ヲ爲スヘキ場合ニ於テ府縣會召集ニ應セス若ハ成立セス又ハ意見ヲ呈出セサルトキハ當該官廳ハ其ノ意見ヲ俟タシテ直ニ處分ヲ爲スコトヲ得
- 第四十六條 府縣會議員ハ選舉人ノ指示若ハ委囑ヲ受クヘカラス
- 第四十七條 府縣會ハ議員中ヨリ議長副議長各一名ヲ選舉スヘシ
- 議長副議長ハ議員ノ定期改選毎ニ之ヲ改選スヘシ

第四十八條 議長故障アルトキハ副議長之ニ代リ議長副議長共ニ故障アルトキハ臨時ニ議員中ヨリ假議長ヲ選舉スヘシ

第四十九條 府縣知事及其ノ委任若ハ囑託ヲ受ケタル官吏吏員ハ會議ニ列席シテ議事ニ參與スルコトヲ得但シ議決ニ加ハルコトヲ得ス

前項ノ列席者ニ於テ發言ヲ求ムルトキハ議長ハ直ニ之ヲ許スヘシ但シ之カ爲議員ノ演說ヲ中止セシムルコトヲ得ス

第五十條 府縣會ハ通常會及臨時會トス

通常會ハ毎年一回之ヲ開ク其ノ會期ハ三十日以内トス臨時會ハ必要アル場合ニ於テ其ノ事件ニ限リ之ヲ開ク其ノ會期ハ七日以内トス

臨時會ニ付スヘキ事件ハ豫メ之ヲ告示スヘシ但シ其ノ開會中急施ヲ要スル事件アルトキハ府縣知事ハ直ニ之ヲ其ノ會議ニ付スルコトヲ得

第五十一條 府縣會ハ府縣知事之ヲ召集ス

召集ハ開會ノ日ヨリ少クトモ十四日前ニ告示スヘシ但シ急施ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス府縣會ハ府縣知事之ヲ開閉ス

第五十二條 府縣會ハ議員定員ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第五十三條 府縣會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第五十四條 議長及議員ハ自己若ハ父母祖父母妻子孫兄弟姉妹ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ府縣會ノ同意ヲ得ルニ非サレハ其ノ議事ニ參與スルコトヲ得ス

第五十五條 法律命令ノ規定ニ依リ府縣會ニ於テ選舉ヲ行フトキハ一名毎ニ匿名投票ヲ爲シ有效

投票ノ過半數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス若過半數ヲ得タル者ナキトキハ最多數ヲ得タル者二名ヲ取り之ニ就キ決選投票ヲ爲サシム其ノ二名ヲ取ルニ當リ同數者アルトキハ年長者ヲ取り同年月ナルトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム此ノ決選投票ニ於テハ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス若同數ナルトキハ年長者ヲ取り同年月ナルトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム其ノ他ハ第十八條第二十七條及第二十八條ノ規定ヲ準用ス

前項ノ選舉ニ付テハ府縣會ハ其ノ議決ヲ以テ指名推選若ハ連名投票ノ法ヲ用ウルコトヲ得其ノ連名投票ノ法ヲ用ウル場合ニ於テハ前項ノ例ニ依ル

第五十六條 府縣會ノ會議ハ公開ス但シ左ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 府縣知事ヨリ傍聽禁止ノ要求ヲ受ケタルトキ

二 議長若ハ議員三名以上ノ發議ニ依リ傍聽禁止ヲ可決シタルトキ

前項議長若ハ議員ノ發議ハ討論ヲ須ヒス其ノ可否ヲ決スヘシ

第五十七條 議長ハ會議ノ事ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ其ノ日ノ會議ヲ開閉シ議場ノ秩序ヲ保持ス

第五十八條 府縣會議員ハ會議中無禮ノ語ヲ用井又ハ他人ノ身上ニ涉リ言論スルコトヲ得ス

第五十九條 會議中此ノ法律若ハ會議規則ニ違ヒ其ノ他議場ノ秩序ヲ紊ル議員アルトキハ議長ハ之ヲ制止シ若ハ發言ヲ取消サシメ命ニ從ハサルトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ終ルマテ發言ヲ禁止シ又ハ議場ノ外ニ退去セシメ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉ツルコトヲ得

第六十條 傍聽人公然可否ヲ表シ又ハ喧騒ニ涉リ其ノ他會議ノ妨害ヲ爲ストキハ議長ハ之ヲ制

止シ命ニ從ハサルトキハ之ヲ退場セシメ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場セシメ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

第六十一條 議場ノ秩序ヲ紊リ又ハ會議ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議員若ハ第四十九條ノ列席者ハ議長ノ注意ヲ喚起スルコトヲ得

第六十二條 府縣會ニ書記ヲ置キ議長ニ隸屬シテ庶務ヲ處理セシム
書記ハ議長之ヲ任免ス

第六十三條 議長ハ書記ヲシテ會議録ヲ製シ會議ノ頓末並出席議員ノ氏名ヲ記載セシムヘシ會議録ハ議長及議員二名以上之ニ署名スルヲ要ス其ノ議員ハ府縣會ニ於テ之ヲ定ムヘシ

議長ハ會議録ヲ添ヘ會議ノ結果ヲ府縣知事ニ報告スヘシ
第六十四條 府縣會ハ會議規則及傍聽人取締規則ヲ設ケ內務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

會議規則ニハ此ノ法律並會議規則ニ違背シタル議員ニ對シ府縣會ノ議決ニ依リ五日以内出席ヲ停止スル規定ヲ設クルコトヲ得

第三章 府縣參事會
第一款 組織及選舉

第六十五條 府縣ニ府縣參事會ヲ置キ府縣知事府縣高等官二名及名譽職參事會員ヲ以テ之ヲ組織ス
府ノ名譽職參事會員ハ八名トシ縣ノ名譽職參事會員ハ六名トス

府縣高等官ニシテ府縣參事會員タルヘキ者ハ內務大臣之ヲ命ス
第六十六條 名譽職參事會員ハ府縣會ニ於テ議員中ヨリ之ヲ選舉スヘシ

府縣會ハ名譽職參事會員ト同數ノ補充員ヲ選舉スヘシ
名譽職參事會員中闕員アルトキハ府縣知事ハ補充員ノ中ニ就キ之ヲ補闕ス其ノ順序ハ選舉同時ナルトキハ投票數ニ依リ投票同數ナルトキハ年長者ヲ取り同年ナルトキハ抽籤ニ依リ選舉ノ時ヲ異ニスルトキハ選舉ノ前後ニ依ル仍闕員ヲ生シタル場合ニ於テハ臨時補闕選舉ヲ行フヘシ

補充員ハ前任者ノ殘任期間在任ス
名譽職參事會員及其ノ補充員ハ府縣會議員ノ定期改選毎ニ之ヲ改選スヘシ但シ名譽職參事會員ハ後任者就任ノ日マテ在任ス

第六十七條 府縣參事會ハ府縣知事ヲ以テ議長トス府縣知事故障アルトキハ高等官參事會員議長ノ職務ヲ代理ス

第二款 職務權限及處務規程

第六十八條 府縣參事會ノ職務權限左ノ如シ
一 府縣會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ其ノ委任ヲ受ケタルモノヲ議決スル事
二 府縣會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ臨時急施ヲ要シ府縣知事ニ於テ之ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキ府縣會ニ代テ議決スル事

三 府縣知事ヨリ府縣會ニ提出スル議案ニ付府縣知事ニ對シ意見ヲ述フル事
四 府縣會ノ議決シタル範圍内ニ於テ財産及營造物ノ管理ニ關シ重要ナル事項ヲ議決スル事

五 府縣費ヲ以テ支辨スヘキ工事ノ執行ニ關スル規定ヲ議決スル事但シ法律命令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

六 府縣ニ係ル訴訟訴訟及和解ニ關スル事項ヲ議決スル事

七 其ノ他法律命令ニ依リ府縣參事會ノ權限ニ屬スル事項

第六十九條 府縣參事會ハ名譽職參事會員中ヨリ委員ヲ選舉シ之ヲシテ府縣ニ係ル出納ヲ検査セシムルコトヲ得

前項ノ検査ニハ府縣知事又ハ其ノ指命シタル官吏若ハ吏員之ニ立會フコトヲ要ス

第七十條 第四十四條第四十五條第四十九條及第六十二條ノ規定ハ府縣參事會ニ之ヲ準用ス

第七十一條 府縣參事會ハ府縣知事之ヲ招集ス若名譽職參事會員半數以上ノ請求アル場合ニ於テ相當ノ理由アリト認ムルトキハ府縣知事ハ府縣參事會ヲ招集スヘシ

府縣參事會ノ會期ハ府縣知事之ヲ定ム

第七十二條 府縣參事會ノ會議ハ傍聽ヲ許サス

第七十三條 府縣參事會ハ議長又ハ其ノ代理者及名譽職參事會員定員ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第六十八條第二ノ議決ヲ爲ストキハ府縣知事高等官參事會員ハ其ノ議決ニ加ハルコトヲ得ス

府縣參事會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル會議ノ顛末ハ之ヲ會議録ニ記載シ議長及參事會員二名以上之ニ署名スヘシ

第七十四條 第五十四條ノ規定ハ府縣參事會員ニ之ヲ準用ス但シ同條ノ規定ニ依リ會員ノ數減少シテ前條第一項ノ數ヲ得サルトキハ府縣知事ハ補充員ニシテ其ノ事件ニ關係ナキ者ヲ以テ第六

十六條第三項ノ順序ニ依リ臨時之ニ充テ仍其ノ數ヲ得サルトキハ府縣會議員ニシテ其ノ事件ニ關係ナキ者ヲ臨時ニ指名シ其ノ闕員ヲ補充スヘシ
議長及其ノ代理者共ニ除席セラレタルトキハ年長ノ會員ヲ以テ假議長ト爲スヘシ

第四章 府縣行政

第一款 府縣吏員ノ組織及任免

第七十五條 府縣ニ有給ノ府縣吏員ヲ置クコトヲ得

前項ノ府縣吏員ハ府縣知事之ヲ任免ス

第七十六條 府縣ニ府縣出納吏ヲ置キ官吏吏員ノ中ニ就キ府縣知事之ヲ命ス

第七十七條 府縣ハ府縣會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ臨時若ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得

委員ハ名譽職トス

委員ノ組織選任任期等ニ關スル事項ハ府縣會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ム

第二款 府縣官吏府縣吏員ノ職務權限及處務規程

第七十八條 府縣知事ハ府縣ヲ統轄シ府縣ヲ代表ス

府縣知事ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

- 一 府縣費ヲ以テ支辨スヘキ事件ヲ執行スル事
- 二 府縣會及府縣參事會ノ議決ヲ經ヘキ事件ニ付其ノ議案ヲ發スル事
- 三 財産及營造物ヲ管理スル事但シ特ニ之カ管理者アルトキハ其ノ事務ヲ監督スル事

四 收入支出ヲ命令シ及會計ヲ監督スル事

五 證書及公文書類ヲ保管スル事

六 法律命令又ハ府縣會若ハ府縣參事會ノ議決ニ依リ使用料手数料府縣稅及夫役現品ヲ賦課徵收スル事

七 其ノ他法律命令ニ依リ府縣知事ノ職權ニ屬スル事項

第七十九條 府縣知事ハ議案ヲ府縣會ニ提出スル前之ヲ府縣參事會ノ審査ニ付シ若府縣參事會ト其ノ意見ヲ異ニスルトキハ府縣參事會ノ意見ヲ議案ニ添ヘ府縣會ニ提出スヘシ

第八十條 府縣知事ハ府縣ノ行政ニ關シ其ノ職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ郡島ノ官吏吏員又ハ市町村吏員ニ補助執行セシメ若ハ委任スルコトヲ得

府縣知事ハ府縣ノ行政ニ關シ其ノ職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ府縣吏員ニ臨時代理セシムルコトヲ得

第八十一條 府縣知事ハ府縣吏員ヲ監督シ懲戒處分ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ罷責二十五圓以下ノ過怠金及解職トス

府縣知事ハ府縣吏員ノ懲戒處分ヲ行ハントスル前其ノ吏員ノ停職ヲ命シ竝給料ヲ支給セサルコトヲ得

懲戒ニ依リ解職セラレタル者ハ二年間其ノ府縣ノ公職ニ選舉セラレ若ハ任命セラルルコトヲ得

第八十二條 府縣會若ハ府縣參事會ノ議決若ハ選舉其ノ權限ヲ越エ又ハ法律命令ニ背クト認ムルトキハ府縣知事ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ內務大臣ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ直ニ其ノ議決若ハ

選舉ヲ取消シ又ハ議決ニ付テハ再議ニ付シタル上仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ之ヲ取消スヘシ

前項取消處分ニ不服アル府縣會若ハ府縣參事會ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

府縣會若ハ府縣參事會ノ議決公益ニ害アリト認ムルトキハ府縣知事ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ內務大臣ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ內務大臣ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ

第八十三條 府縣會若ハ府縣參事會ニ於テ府縣ノ收支ニ關シ不適當ノ議決ヲ爲シタルトキハ府縣知事ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ內務大臣ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ內務大臣ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ但シ場合ニ依リ再議ニ付セスシテ直ニ內務大臣ノ指揮ヲ請フコトヲ得

第八十四條 府縣知事ハ期日ヲ定メテ府縣會ノ停會ヲ命スルコトヲ得

第八十五條 府縣會若ハ府縣參事會召集ニ應セス又ハ成立セサルトキハ府縣知事ハ內務大臣ニ具狀シテ指揮ヲ請ヒ其ノ議決スヘキ事件ヲ處分スルコトヲ得第五十四條第七十四條ノ場合ニ於テ會議ヲ開クコト能ハサルトキ亦同シ

府縣會若ハ府縣參事會ニ於テ其ノ議決スヘキ事件ヲ議決セス又ハ府縣會ニ於テ其ノ召集前告示セラレタル事件ニ關シ議案ヲ議了セサルトキハ前項ノ例ニ依ル

府縣參事會ノ決定若ハ裁決スヘキ事項ニ關シテハ本條第一項第二項ノ例ニ依ル此ノ場合ニ於ケル府縣知事ノ處分ニ關シテハ各本條ノ規定ニ準シ訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

本條ノ處分ハ次ノ會期ニ於テ之ヲ府縣會若ハ府縣參事會ニ報告スヘシ

第八十六條 府縣參事會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ臨時急施ヲ要シ府縣知事ニ於テ之ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキハ府縣知事ハ專決處分シ次ノ會期ニ於テ其ノ處分ヲ府縣參事會ニ報告スヘシ

第八十七條 府縣參事會ノ權限ニ屬スル事項ハ其ノ議決ニ依リ府縣知事ニ於テ專決處分スルコトヲ得

第八十八條 官吏ノ府縣行政ニ關スル職務關係ハ此ノ法律中規定アルモノヲ除ク外國ノ行政ニ關スル其ノ職務關係ノ例ニ依ル

第八十九條 府縣出納吏ハ出納事務ヲ掌ル

第九十條 府縣吏員ハ府縣知事ノ命ヲ承ケ事務ニ從事ス

第九十一條 委員ハ府縣知事ノ指揮監督ヲ承ケ財產若ハ營造物ヲ管理シ其ノ他府縣行政事務ノ一部ヲ調査シ又ハ一時ノ委託ニ依リ事務ヲ處辨ス

第九十二條 府縣ノ事務ニ關スル處務規程ハ府縣知事之ヲ定ム

第九十三條 有給府縣吏員ノ給料額並旅費額及其ノ支給方法ハ府縣知事之ヲ定ム

第九十四條 府縣會議員名譽職參事會員其ノ他名譽職員ハ職務ノ爲要スル費用ノ辨償ヲ受クルコトヲ得

第九十五條 費用辨償額及其ノ支給方法ハ府縣會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ム若之ヲ許可スヘカラスト認ムルトキハ内務大臣之ヲ定ム

第九十六條 有給府縣吏員ノ退職料退職給與金遺族扶助料及費用辨償ノ給與ニ關シ異議アルトキハ之ヲ府縣知事ニ申立ツルコトヲ得

第九十七條 前項ノ異議ハ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第九十八條 前項ノ決定ニ關シテハ府縣知事ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九十九條 給料旅費退職料退職給與金遺族扶助料費用辨償其ノ他諸給與ハ府縣ノ負擔トス

第五十條 府縣ノ財務

第一款 財產營造物及府縣稅

第九十八條 府縣ハ積立金穀等ヲ設クルコトヲ得

第九十九條 府縣ハ營造物若ハ公共ノ用ニ供シタル財產ノ使用ニ付使用料ヲ徵收シ又ハ特ニ一個ノ爲ニスル事務ニ付手数料ヲ徵收スルコトヲ得

第一百條 此ノ法律中別ニ規定アルモノヲ除ク外使用料手数料ニ關スル細則ハ府縣會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ム其ノ細則ニハ過料二圓以下ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

過料ニ處シ及之ヲ徵收スルハ府縣知事之ヲ掌ル其ノ處分ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一百一條 府縣ハ其ノ公益上必要アル場合ニ於テハ寄附若ハ補助ヲ爲スコトヲ得

第一百二條 府縣ハ其ノ必要ナル費用及法律勅令又ハ從來ノ慣例ニ依リ府縣ノ負擔ニ屬スル費用ヲ支辨スル義務ヲ負フ

第二百三條 府縣稅及其ノ賦課徵收方法ニ關シテハ法律ニ規定アルモノヲ除ク外勅令ノ定ムル所ニ依ル

府縣ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ費用ヲ市町村ニ分賦スルコトヲ得

第二百四條 府縣内ニ住所ヲ有スル者ハ府縣稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

第二百五條 三箇月以上府縣内ニ滞在スル者ハ其ノ滞在ノ初ニ遡リ府縣稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

第二百六條 府縣内ニ住所ヲ有セス又ハ三箇月以上滞在スルコトナシト雖府縣内ニ於テ土地家屋物件ヲ所有シ若ハ使用シ又ハ營業所ヲ定メテ營業ヲ爲シ又ハ府縣内ニ於テ特定ノ行爲ヲ爲ス者ハ

其ノ土地家屋物件營業若ハ其ノ收入ニ對シ又ハ行爲ニ對シテ賦課スル府縣稅ヲ納ムル義務ヲ負フ其ノ法人タルトキ亦同シ但シ國ノ事業若ハ行爲ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

第二百七條 納稅者ノ府縣外ニ於テ所有シ若ハ使用スル土地家屋物件又ハ府縣外ニ於テ營業所ヲ定メタル營業ヨリ生スル收入ニ對シテハ府縣稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

住所滞在一府縣以上ニ涉ル者ノ收入ニ對シ府縣稅ヲ賦課スルトキハ其ノ收入ヲ各府縣ニ平分シ其ノ一部ニノミ賦課スヘシ但シ土地家屋物件又ハ營業所ヲ定メタル營業ヨリ生スル收入ハ此ノ限ニ在ラス

第二百八條 一府縣以上ニ涉リ營業所ヲ定メテ營業ヲ爲シ且其ノ本稅ヲ分別シテ納メサル者ニ對シ關係府縣ニ於テ營業稅ノ附加稅ヲ賦課スルトキハ關係府縣知事協議ノ上其ノ歩合ヲ定メ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クヘシ若協議調ハサルトキハ内務大臣及大藏大臣之ヲ定ム

第二百九條 府縣稅賦課ノ細目ニ係ル事項ハ府縣會ノ議決ニ依リ關係市町村會ノ議決ニ付スルコトヲ得

市町村會ニ於テ府縣會ノ議決ニ依リ定マリタル期限内ニ其ノ議決ヲ爲ササルトキ若ハ不適當ノ議決ヲ爲シタルトキハ府縣參事會之ヲ議決スヘシ

第三百條 府縣稅ヲ賦課スルコトヲ得サルモノニ關シテハ法律勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルモノヲ除ク外市町村稅ノ例ニ依ル

第三百一條 府縣内ノ一部ニ對シ特ニ利益アル事件ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ不均一ノ賦課ヲ爲スコトヲ得

第三百二條 府縣ハ其ノ必要ニ依リ夫役及現品ヲ府縣内一部ノ市町村其ノ他公共團體若ハ一部ノ納稅義務者ニ賦課スルコトヲ得但シ學藝美術及手工ニ關スル勞役ヲ課スルコトヲ得ス

夫役及現品ハ急迫ノ場合ヲ除ク外金額ニ算出シテ賦課スヘシ

夫役ヲ課セラレタル者ハ其ノ便宜ニ從ヒ本人自ラ之ニ當リ又ハ適當ノ代人ヲ出スコトヲ得又夫役及現品ハ急迫ノ場合ヲ除ク外金額ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第三百三條 府縣稅ノ減免若ハ納稅ノ延期ハ特別ノ事情アル者ニ限り府縣知事ハ府縣參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ許スコトヲ得

第三百四條 市制施行ノ府縣ニ於テハ郡廳舎建築修繕費及郡役所費ハ郡ニ屬スル部分ノ負擔トス

第三百五條 府縣稅ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ賦課ニ付違法若ハ錯誤アリト認ムルトキハ徵稅令書又ハ徵稅傳令書ノ交付後三箇月以内ニ府縣知事ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第三百六條 第二項ノ場合ニ於テ市町村ハ府縣費ノ分賦ニ關シ違法若ハ錯誤アリト認ムルトキハ其ノ告知ヲ受ケタル時ヨリ三箇月以内ニ府縣知事ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前二項ノ異議ハ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴ス

ルコトヲ得

使用料及手数料ノ徵收ニ關シテモ亦第一項及第三項ノ例ニ依ル

本條ノ決定ニ關シテハ府縣知事郡島ノ官吏吏員市町村吏員ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第百十六條 府縣稅ノ賦課ニ關シ必要アル場合ニ於テハ當該行政廳ハ日出ヨリ日没マテノ間營業

者ニ關シテハ仍其ノ營業時間家宅ニ臨檢シ又ハ帳簿物件ノ檢査ヲ爲スコトヲ得

府縣稅使用料手数料夫役現品ニ代フル金錢過料其ノ他府縣ノ收入ヲ定期内ニ納メサル者アルト

キハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分スヘシ

本條ニ記載スル徵收金ハ國ノ徵收金ニ次テ先取特權ヲ有シ其ノ追徵還付及時效ニ付テハ國稅ノ

例ニ依ル

本條第二項ノ場合ニ於テ郡島ノ官吏吏員市町村吏員ノ處分ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ

其ノ裁決又ハ府縣知事ノ處分ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ關シテハ府縣知事郡島ノ官吏吏員市町村吏員ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

本條第二項ノ處分ハ其ノ確定ニ至ルマテ執行ヲ停止ス

第百十七條 府縣ハ其ノ負債ヲ償還スル爲メ又ハ府縣ノ永久ノ利益ト爲ルヘキ支出ヲ要スル爲メ又ハ

天災事變等ノ爲必要アル場合ニ限リ府縣會ノ議決ヲ經テ府縣債ヲ起スコトヲ得

府縣債ヲ起スニ付府縣會ノ議決ヲ經ルトキハ併セテ起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ニ付議

決ヲ經ヘシ

府縣ハ豫算内ノ支出ヲ爲ス爲本條ノ例ニ依ラス府縣參事會ノ議決ヲ經テ一時ノ借入金ヲ爲スコ

トヲ得

第二款 歲入出豫算及決算

第百十八條 府縣知事ハ每會計年度歲入出豫算ヲ調製シ年度開始前府縣會ノ議決ヲ經ヘシ

府縣ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ

豫算ヲ府縣會ニ提出スルトキハ府縣知事ハ併セテ財産表ヲ提出スヘシ

第百十九條 府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ經テ既定豫算ノ追加若ハ更正ヲ爲スコトヲ得

第百二十條 府縣費ヲ以テ支辨スル事件ニシテ數年ヲ期シテ施行スヘキモノ又ハ數年ヲ期シテ其

ノ費用ヲ支出スヘキモノハ府縣會ノ議決ヲ經テ其ノ年期間各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費ト爲ス

コトヲ得

第百二十一條 豫算外ノ支出若ハ豫算超過ノ支出ニ充ツル爲豫備費ヲ設クヘシ但シ府縣會ノ否決

レタル費途ニ充ツルコトヲ得ス

第百二十二條 豫算ハ議決ヲ經タル後直ニ之ヲ內務大臣ニ報告シ其ノ要領ヲ告示スヘシ

第百二十三條 府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ經テ特別會計ヲ設クルコトヲ得

第百二十四條 決算ハ翌翌年ノ通常會ニ於テ之ヲ府縣會ニ報告スヘシ

府縣知事ハ決算ヲ府縣會ニ報告スル前府縣參事會ノ審查ニ付スヘシ若府縣知事ト府縣參事會ト

意見ヲ異ニスルトキハ府縣知事ハ府縣參事會ノ意見ヲ決算ニ添ヘ府縣會ニ提出スヘシ

決算ハ之ヲ內務大臣ニ報告シ其ノ要領ヲ告示スヘシ

第百二十五條 豫算調製ノ式並費目流用其ノ他財務ニ關スル必要ナル規定ハ內務大臣之ヲ定ム

第百二十六條 府縣吏員ノ身元保證及賠償責任ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六章 府縣行政ノ監督

第二百一十七條 府縣ノ行政ハ内務大臣之ヲ監督ス

第二百一十八條 此ノ法律ニ規定スル異議若ハ訴訟ハ處分ヲ爲シ又ハ決定書若ハ裁決書ノ交付ヲ受ケタル翌日ヨリ起算シ十四日以内ニ之ヲ提起スヘシ但シ此ノ法律中別ニ期限ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

此ノ法律ニ規定スル行政訴訟ハ處分ヲ爲シ決定書若ハ裁決書ノ交付ヲ受ケタル翌日ヨリ起算シ二十一日以内ニ之ヲ提起スヘシ

決定書若ハ裁決書ノ交付ヲ受ケタル者ニ關シテハ前二項ノ期間ハ告示ノ翌日ヨリ起算ス

此ノ法律ニ規定スル異議ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ付スヘシ

前項異議ノ決定書ハ之ヲ申立人ニ交付スヘシ

此ノ法律ニ規定スル異議ノ申立若ハ訴訟ノ提起ニ關スル期間ノ計算並天災事變ノ場合ニ於ケル特例ニ付テハ民事訴訟法ノ規定ヲ準用ス

異議ヲ申立又ハ訴訟訴訟ヲ提起スル者アルトキハ行政廳及行政裁判所ハ其ノ職權ニ依リ又ハ關係者ノ請求ニ依リ必要ト認ムル場合ニ限り處分ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

第二百一十九條 内務大臣ハ府縣行政ノ法律命令ニ背反セサルヤ又ハ公益ヲ害セサルヤ否ヲ監視スヘシ内務大臣ハ之カ爲行政事務ニ關シテ報告ヲ爲サシメ書類帳簿ヲ徴シ並實地ニ就キ事務ヲ視察シ出納ヲ檢閲スルノ權ヲ有ス

内務大臣ハ府縣行政ノ監督上必要ナル命令ヲ發シ處分ヲ爲スノ權ヲ有ス

第二百二十條 内務大臣ハ府縣ノ豫算中不適當ト認ムルモノアルトキハ之ヲ削減スルコトヲ得

第二百二十一條 内務大臣ハ勅裁ヲ經テ府縣會ノ解散ヲ命スルコトヲ得

府縣會解散ノ場合ニ於テハ二箇月以内ニ議員ヲ選舉スヘシ

解散後始メテ府縣會ヲ召集スルトキハ府縣知事ハ第五十條第二項ノ規定ニ拘ラス内務大臣ノ許可ヲ得テ別ニ會期ヲ定ムルコトヲ得

第二百二十二條 府縣吏員ノ服務規律ハ内務大臣之ヲ定ム

第二百二十三條 左ニ掲グル事件ハ内務大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

- 一 學藝美術又ハ歴史上貴重ナル物件ヲ處分シ若ハ大ナル變更ヲ爲ス事
- 二 使用料手数料ヲ新設シ増額シ又ハ變更スル事
- 三 寄附若ハ補助ヲ爲ス事
- 四 不動産ノ處分ニ關スル事

第五 第一百二十二條ニ依リ夫役及現品ヲ賦課スル事但シ急迫ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第六 繼續費ヲ定メ若ハ變更スル事

第七 特別會計ヲ設クル事

第二百二十四條 左ニ掲グル事件ハ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一 府縣債ヲ起シ並起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定メ若ハ變更スル事但シ第百十七條末項ノ借入金ハ此ノ限ニ在ラス

二 地租三分ノ一ヲ超過スル附加稅ヲ賦課スル事但シ法律勅令中別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

三 法律勅令ノ規定ニ依リ官廳ヨリ下渡ス歩合金ニ對シ支出金額ヲ定ムル事

第二百二十五條 府縣ノ行政ニ關シ主務大臣ノ許可ヲ要スヘキ事項ニ付テハ主務大臣ハ許可申請ノ

趣旨ニ反セスト認ムル範圍内ニ於テ更正シテ許可ヲ與フルコトヲ得
第三百二十六條 府縣ノ行政ニ關シ主務大臣ノ許可ヲ要スヘキ事項中其ノ輕易ナルモノハ勅令ノ規定ニ依リ許可ヲ經スシテ處分スルコトヲ得

第七章 附則

第三百二十七條 此ノ法律ハ明治三十三年法律第三十五號府縣制ヲ施行シタル府縣ニハ明治三十一年七月一日ヨリ之ヲ施行シ其ノ他ノ府縣ニ關スル施行ノ時期ハ府縣知事ノ具申ニ依リ內務大臣之ヲ定ム

第三百二十八條 島嶼ニ關スル府縣ノ行政ニ付テハ勅令ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ得
町村制ヲ施行セサル島嶼ヨリ選出スヘキ府縣會議員ノ選舉ニ關スル事項ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第三百二十九條 法律命令中別段ノ規定アルモノヲ除ク外此ノ法律ニ規定スル郡長ノ職務ハ島司ヲ置ケル島嶼ニ於テハ島司之ヲ行ヒ町村長ノ職務ハ町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ戶長又ハ之ニ準スヘキ者之ヲ行フ

第三百四十條 從前郡市經濟ヲ異ニシタル府縣ノ財產處分ニ關スル規定ハ內務大臣之ヲ定ム
特別ノ事情アル府縣ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ市部郡部ノ經濟ヲ分別シ市部會郡部會市部

參事會郡部參事會ヲ置キ其ノ他必要ナル事項ニ關シ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得
第三百四十一條 明治三十三年法律第八十八號府縣稅徵收法及地方稅ニ關スル從前ノ規定ハ此ノ法律ニ依リ變更シタルモノヲ除ク外勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルマテ其ノ效力ヲ有ス
第三百四十二條 明治三十三年法律第三十五號府縣制ノ規定ニ依リ選舉セラレタル府縣會議員府縣

參事會員ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ其ノ職ヲ失フ

本法發布後施行ノ日ニ至ルマテノ間ニ明治三十三年法律第三十五號府縣制ヲ施行シタル府縣ニ於テハ府縣會議員ノ改選ヲ要スルコトアルモ其ノ改選ヲ行ハス議員ハ本法施行ノ日マテ在任ス
第三百四十三條 此ノ法律施行ノ際府縣會及府縣參事會ノ職務ニ關スル事項ニシテ急施ヲ要スルモノハ其ノ成立ニ至ルマテノ間府縣知事之ヲ行フ

第三百四十四條 此ノ法律施行ノ際議員ヲ選舉スルニ必要ナル選舉人名簿ノ調製ニ限リ第九條乃至第十二條ノ期日及期間ハ勅令ヲ以テ別ニ之ヲ定ムルコトヲ得但シ其ノ選舉人名簿ハ翌年調製スル選舉人名簿確定ノ日マテ其ノ效力ヲ有ス

第三百四十五條 此ノ法律ニ定ムル直接稅ノ種類ハ內務大臣及大藏大臣之ヲ告示ス
第三百四十六條 明治三十三年第十五號布告府縣會規則明治三十四年第八號布告區郡部會規則明治三十二年法律第六號府縣會議員選舉規則其ノ他此ノ法律ニ抵觸スル法規ハ此ノ法律施行ノ府縣ニ於テハ其ノ效力ヲ失フ

第三百四十七條 此ノ法律ヲ施行スル爲必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル郡制改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十三年三月十五日

內閣總理大臣侯爵山縣有朋
內務大臣侯爵西鄉從道

法律第六十五號(官報三月十六日)
郡制

第一章 總則

第二章 郡會

第一款 組織及選舉

第二款 職務權限及處務規程

第三章 郡參事會

第一款 組織及選舉

第二款 職務權限及處務規程

第四章 郡行政

第一款 郡吏員ノ組織及任免

第二款 郡官吏郡吏員ノ職務權限及處務規程

第三款 給料及給與

第五章 郡ノ財務

第一款 財產營造物及郡費

第二款 歲入出豫算及決算

第六章 郡組合

第七章 郡行政ノ監督

第八章 附則

郡制

第一章 總則

第一條 郡ハ從來ノ區域ニ依リ町村ヲ包括ス

第二條 郡ハ法人トシ官ノ監督ヲ承ケ法律命令ノ範圍内ニ於テ其ノ公共事務並法律勅令ニ依リ郡ニ屬スル事務ヲ處理ス

第三條 郡ノ廢置分合又ハ境界變更ヲ要スルトキハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

郡ノ境界ニ涉リテ市町村境界ノ變更アリタルトキハ郡ノ境界モ亦自ラ變更ス町村ヲ變シテ市ト爲シ若ハ市ヲ變シテ町村ト爲シ又ハ所屬未定地ヲ町村ノ區域ニ編入シタルトキ亦同シ

本條ノ處分ニ付財產處分ヲ要スルトキハ内務大臣ハ關係アル府縣郡市參事會及町村會ノ意見ヲ徵シテ之ヲ定ム但シ特ニ法律ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二章 郡會

第一款 組織及選舉

第四條 郡會議員ハ各選舉區ニ於テ之ヲ選舉ス

選舉區ハ町村ノ區域ニ依ル但シ事情ニ依リ郡長ハ郡會ノ議決ヲ經府縣知事ノ許可ヲ得テ數町村ノ區域ニ依リ選舉區ヲ設クルコトヲ得

町村組合ニシテ町村ノ事務ノ全部ヲ共同處理スルモノハ之ヲ一町村ト看做ス

第五條 郡會議員ノ員數ハ十五人以上三十人以下トス

郡ノ狀況ニ依リ内務大臣ノ許可ヲ得テ前項ノ員數ヲ四十人マテ増加スルコトヲ得

郡會議員ノ定數及各選舉區ニ於テ選舉スヘキ郡會議員ノ數ハ郡會ノ議決ヲ經府縣知事ノ許可ヲ

得テ郡長之ヲ定ム

前項議員ノ配當方法ニ關スル必要ナル事項ハ内務大臣之ヲ定ム

第六條 郡内ノ町村公民ニシテ町村會議員ノ選舉權ヲ有シ且其ノ郡内ニ於テ一年以來直接國稅年額三圓以上ヲ納ムル者ハ郡會議員ノ選舉權ヲ有ス

郡内ノ町村公民ニシテ町村會議員ノ選舉權ヲ有シ且其ノ郡内ニ於テ一年以來直接國稅年額五圓以上ヲ納ムル者ハ郡會議員ノ被選舉權ヲ有ス

家督相續ニ依リ財產ヲ取得シタル者ハ其ノ財產ニ付被相續人ノ爲シタル納稅ヲ以テ其ノ者ノ納稅シタルモノト看做ス

郡會議員ハ住所ヲ移シタル爲町村ノ公民權ヲ失フコトアルモ其ノ住所同郡内ニ在ルトキハ之カ爲其ノ職ヲ失フコトナシ

郡會議員ノ選舉權及被選舉權ノ要件中共ノ年限ニ關スルモノハ府縣郡市町村ノ廢置分合若ハ境界變更ノ爲中斷セラルルコトナシ

左ニ掲クル者ハ郡會議員ノ被選舉權ヲ有セス其ノ之ヲ罷メタル後一箇月ヲ經過セサル者亦同シ

一 所屬府縣ノ官吏及有給吏員

二 其ノ郡ノ官吏及有給吏員

三 檢事警察官吏及收稅官吏

四 神官僧侶其ノ他諸宗教師

五 小學校教員

前項ノ外ノ官吏ニシテ當選シ之ニ應セントスルトキハ所屬長官ノ許可ヲ受クヘシ

選舉事務ニ關係アル吏員ハ其ノ選舉區ニ於テ被選舉權ヲ有セス其ノ之ヲ罷メタル後一箇月ヲ經過セサル者亦同シ

郡ノ爲請負ヲ爲ス者又ハ郡ノ爲請負ヲ爲ス法人ノ役員ハ其ノ郡ノ郡會議員ノ被選舉權ヲ有セス

第七條 郡會議員ハ名譽職トス 郡會議員ノ任期ハ四年トス 議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲又ハ議員ノ配當ヲ更正シタル爲解任ヲ要スル者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第八條 郡會議員中副員アルトキ及郡會議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲又ハ議員ノ配當ヲ更正シタル爲議員ノ選舉ヲ要スルトキハ三箇月以内ニ之ヲ行フヘシ

補選議員ハ其ノ前任者ノ殘任期間在任ス 補選議員ヲ除ク外本條第一項ニ依リ選舉セラレタル議員ハ次ノ改選期マテ在任ス

第九條 郡會議員ノ選舉ハ郡長ノ告示ニ依リ之ヲ行フ其ノ告示ニハ選舉ヲ行フヘキ選舉區投票ヲ行フヘキ日時及選舉スヘキ議員ノ員數ヲ記載シ新ニ選舉人名簿ヲ調製シテ選舉ヲ行フ場合ニ於テハ少クトモ七十日前其ノ他ノ場合ニ於テハ少クトモ十四日前ニ之ヲ發スヘシ

第十條 郡會議員ノ選舉ハ町村長之ヲ管理ス但シ數町村ヲ以テ一選舉區ト爲シタル場合ニ於テハ郡長ノ指定シタル町村長之ヲ管理ス

第十一條 町村長ハ選舉期日前六十日ヲ期トシ其ノ日ノ現在ニ依リ選舉人名簿ヲ調製スヘシ但シ數町村ノ區域ニ依リ選舉區ヲ設ケタル場合ニ於テハ選舉ヲ管理スル町村長ニ之ヲ送付スヘシ

選舉人其ノ住所ヲ有スル町村外ニ於テ直接國稅ヲ納ムルトキハ前項ノ期日マテニ當該行政廳ノ證明ヲ得テ其ノ住所地ノ町村長ニ届出ツベシ其ノ期限内ニ届出ヲ爲ササルトキハ其ノ納稅ハ選舉人名簿ニ記載セラレハキ要件ニ算入セス

選舉ヲ管理スル町村長ハ選舉前五十日ヲ期トシ其ノ日ヨリ七日間町村役場又ハ其ノ他ノ場所ニ於テ選舉人名簿ヲ關係者ノ縦覽ニ供スベシ若關係者ニ於テ異議アルトキ又ハ正當ノ事故ニ依リ前項ノ手續ヲ爲スコト能ハスシテ名簿ニ登錄セラレサルトキハ縦覽期限内ニ之ヲ町村長ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ町村長ハ其ノ申立ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ決定スベシ

前項町村長ノ決定ニ不服アル者ハ郡參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ關シテハ府縣知事郡長町村長ヨリモ亦訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得
町村長ハ第三項異議ノ決定ニ依リ又ハ第四項訴願ノ裁決確定シ若ハ訴訟ノ判決ニ依リ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ選舉ノ期日前七日マテニ修正ヲ加ヘテ確定名簿ト爲スベシ
本條ニ依リ確定シタル名簿ハ郡内ノ各選舉區ニ涉リ同時ニ調製シタルモノハ確定シタル日ヨリ一年以内ニ於テ行フ選舉ニ之ヲ適用ス其ノ郡内一部ノ選舉區限リ調製シタルモノハ確定シタル日ヨリ一年以内ニ該選舉區ニ於テノミ行フ選舉ニ之ヲ適用ス但シ名簿確定後訴願ノ裁決若ハ訴訟ノ判決ニ依リ名簿ヲ修正ヲ要スルトキハ選舉ノ期日前七日マテニ修正スベシ
選舉人名簿ヲ修正シタルトキハ直ニ其ノ要領ヲ告示スベシ
確定名簿ニ登錄セラレサル者ハ選舉ニ參與スルコトヲ得ス但シ選舉人名簿ニ登錄セラレハキ確

定裁決書若ハ判決書ヲ所持シ選舉ノ當日選舉會場ニ到ル者ハ此ノ限ニ在ラス
確定名簿ニ登錄セラレタル者選舉權ヲ有セサルトキハ選舉ニ參與スルコトヲ得ス但シ名簿ハ之ヲ修正スル限ニ在ラス

異議ノ決定若ハ訴願ノ裁決確定シ又ハ訴訟ノ判決アリタルニ依リ名簿無効ト爲リタルトキハ更ニ名簿ヲ調製スベシ其ノ名簿調製ノ期日縦覽修正及確定ニ關スル期限等ハ府縣知事ノ許可ヲ得テ郡長之ヲ定ム

第十二條 選舉會ハ町村役場若ハ選舉ヲ管理スル町村長ノ指定シタル場所ニ於テ之ヲ開クヘシ
該町村ヲ以テ一選舉區ト爲シタルトキハ選舉ヲ管理スル町村長ハ選舉ノ日ヨリ少クとも四日前ニ選舉會ノ場所ヲ定メ關係町村長ニ通知スベシ
選舉會ノ場所ハ選舉ノ日ヨリ少クとも三日間町村長ニ於テ之ヲ告示スベシ
特別ノ事情アル地ニ於テハ命令ヲ以テ選舉分會ヲ設ケ其ノ選舉ニ關シ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第十三條 選舉ヲ管理スル町村長ハ臨時ニ選舉人中ヨリ二名乃至四名ノ選舉立會人ヲ選任シ其ノ町村長ハ選舉長トナル

選舉立會人ハ名譽職トス
第十四條 選舉人ノ外選舉會場ニ入ルコトヲ得ス但シ選舉會場ノ事務ニ從事スル者選舉會場ヲ監視スル職權ヲ有スル者ハ此ノ限ニ在ラス

選舉人ハ選舉會場ニ於テ協議又ハ勸誘ヲ爲スコトヲ得ス
第十五條 選舉ハ投票ニ依リ之ヲ行フ

投票ハ一人一票ニ限ル

選舉人ハ選舉ノ當日自ラ選舉會場ニ到リ選舉人名簿ノ對照ヲ經投票簿ニ捺印シ投票スヘシ
選舉人ハ選舉會場ニ於テ投票用紙ニ自ラ被選舉人一名ノ氏名ヲ記載シテ投函スヘシ

投票用紙ニハ選舉人ノ氏名ヲ記載スルコトヲ得ス

自ラ被選舉人ノ氏名ヲ書スルコト能ハサル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス

投票用紙ハ郡長ノ定ムル所ニ依リ一定ノ式ヲ用ウヘシ

第十六條 左ノ投票ハ之ヲ無効トス

- 一 成規ノ用紙ヲ用井サルモノ
- 二 一投票中二人以上ノ被選舉人ヲ記載シタルモノ
- 三 被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ
- 四 被選舉權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ
- 五 被選舉人ノ氏名ノ外他事ヲ記入シタルモノ但シ爵位職業身分住所又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 投票ノ拒否並効力ハ選舉立會人ノ之ヲ議決ス可否同數ナルトキハ選舉長之ヲ決スヘシ

第十八條 郡會議員ノ選舉ハ有效投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス投票ノ數相同キトキハ

年長者ヲ取り同年月ナルトキハ選舉長抽籤シテ其ノ當選者ヲ定ム

同時ニ補闕員數名ヲ選舉スルトキハ投票ノ數多キ者投票ノ數相同キトキハ年長者ヲ以テ殘任期ノ長キ前任者ノ補闕ト爲シ同年月ナルトキハ選舉長抽籤シテ之ヲ定ム

第十九條 選舉長ハ選舉録ヲ製シテ選舉ノ顛末ヲ記載シ選舉ヲ終リタル後之ヲ朗讀シ選舉立會人

二名以上ト共ニ之ニ署名シ投票選舉人名簿其ノ他關係書類ト共ニ選舉ノ効力確定スルニ至ルマテ之ヲ保存スヘシ

第二十條 選舉ヲ終リタルトキハ選舉長ハ直ニ當選者ニ當選ノ旨ヲ告知シ同時ニ選舉録ノ寫ヲ添

ヘ當選者ノ住所氏名ヲ郡長ニ報告スヘシ

當選者當選ノ告知ヲ受ケタルトキハ五日以内ニ其ノ當選ヲ承諾スルヤ否ヲ郡長ニ申立ツヘシ

一人ニシテ數選舉區ノ選舉ニ當リタルトキハ最終ニ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ何

レノ選舉ニ應スヘキカヲ郡長ニ申立ツヘシ

定期改選増員選舉補闕選舉等ヲ同時ニ行ヒタル場合ニ於テ一人ニシテ其ノ數選舉ニ當リタルト

キハ前項ノ例ニ依ル

前三項ノ申立ヲ其ノ期限内ニ爲ササルトキハ當選ヲ辭シタルモノト看做ス

第六條第七項ノ官吏ニシテ當選シタル者ニ關シテハ本條ニ定ムル期間ヲ二十日以内トス

第二十一條 郡會議員ノ當選ヲ辭シタル者アルトキハ更ニ選舉ヲ行フヘシ

二人以上投票同數ニシテ年長者ニ由テ當選シタル者其ノ當選ヲ辭シタルトキハ年少ニ由テ當選セ

サリシ者ヲ以テ當選トス但シ年少ニ由テ當選セサリシ者二人以上アルトキハ年長者ヲ取り同年

月ナルトキハ選舉長抽籤シテ其ノ當選者ヲ定ム

二人以上投票同數ニシテ抽籤ニ依テ當選シタル者其ノ當選ヲ辭シタルトキハ抽籤ノ爲當選セサ

リシ者ヲ以テ當選トス但シ抽籤ノ爲當選セサリシ者二人以上アルトキハ選舉長抽籤シテ其ノ當

第二十二條 當選者其ノ當選ヲ承諾シタルトキハ郡長ハ直ニ當選證書ヲ付與シ及其ノ住所氏名ヲ

告示スヘシ

第二十三條 選舉人選舉若ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選舉ノ日ヨリ十四日以内ニ之ヲ郡長ニ申立ツルコトヲ得

前項ノ異議ハ之ヲ郡參事會ノ決定ニ付スヘシ

郡長ニ於テ選舉若ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ第一項申立ノ有無ニ拘ラス第二十條第一項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ郡參事會ノ決定ニ付スルコトヲ得

本條郡參事會ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ決定及裁決ニ關シテハ府縣知事郡長選舉ヲ管理スル町村長ヨリモ亦訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十四條 選舉ノ規定ニ違背スルコトアルトキハ其ノ選舉ヲ無効トス但シ選舉ノ結果ニ異動ヲ生スルノ虞ナキモノハ此ノ限ニ在ラス

當選者ニシテ被選舉權ヲ有セサルトキハ其ノ當選ヲ無効トス

第二十五條 選舉若ハ當選無効ト確定シタルトキハ更ニ選舉ヲ行フヘシ但シ得票數ノ査定ニ錯誤アリタル爲又ハ選舉ノ際被選舉權ヲ有セサル爲當選無効ト確定シタルトキハ第十八條及第二十條ノ例ニ依ル

第二十六條 郡會議員ニシテ被選舉權ヲ有セサル者ハ其ノ職ヲ失フ其ノ被選舉權ニ關スル異議ハ郡參事會之ヲ決定ス

郡會ニ於テ其ノ議員中被選舉權ヲ有セサル者アリト認ムルトキハ之ヲ郡長ニ通知スヘシ但シ議

員ハ自己ノ資格ニ關スル會議ニ於テ聲明スルコトヲ得ルモ其ノ議決ニ加ハルコトヲ得ス郡長ハ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ郡參事會ノ決定ニ付スヘシ郡長ニ於テ被選舉權ヲ有セサル者アリト認ムルトキ亦同シ

本條郡參事會ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ決定及裁決ニ關シテハ府縣知事郡長ヨリモ亦訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得郡會議員ハ其ノ被選舉權ヲ有セストスル決定若ハ裁決確定シ又ハ判決アルマテハ會議ニ列席シ及發言スルノ權ヲ失ハス

第二十七條 本款ニ規定スル異議ノ決定及訴願ノ裁決ハ其ノ決定書若ハ裁決書ヲ交付シタルトキ直ニ之ヲ告示スヘシ

第二十八條 郡會議員ノ選舉ニ付テハ市町村會議員選舉ニ關スル罰則ヲ準用ス

第二款 職務權限及處務規程

第二十九條 郡會ノ議決スヘキ事件左ノ如シ

- 一 歳入出豫算ヲ定ムル事
- 二 決算報告ニ關スル事
- 三 法律命令ニ定ムルモノヲ除ク外使用料手数料及夫役現品ノ賦課徵收ニ關スル事
- 四 不動産ノ處分並買受讓受ニ關スル事
- 五 積立金穀等ノ設置及處分ニ關スル事
- 六 歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除ク外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ拋棄ヲ爲ス事

七 財産及營造物ノ管理方法ヲ定ムル事但シ法律命令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス
八 其ノ他法律命令ニ依リ郡會ノ權限ニ屬スル事項

第三十條 郡會ハ其ノ權限ニ屬スル事項ヲ郡參事會ニ委任スルコトヲ得

第三十一條 郡會ハ法律命令ニ依リ選舉ヲ行フヘシ

第三十二條 郡會ハ郡ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ郡長若ハ監督官廳ニ呈出スルコトヲ得

第三十三條 郡會ハ官廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ答申スヘシ

郡會ノ意見ヲ徵シテ處分ヲ爲スヘキ場合ニ於テ郡會招集ニ應セス若ハ成立セス又ハ意見ヲ呈出セザルトキハ當該官廳ハ其ノ意見ヲ俟タズシテ直ニ處分ヲ爲スコトヲ得

第三十四條 郡會議員ハ選舉人ノ指示若ハ委囑ヲ受クヘカラス

第三十五條 郡會ハ議員中ヨリ議長副議長各一名ヲ選舉スヘシ

議長副議長ハ議員ノ定期改選毎ニ之ヲ改選スヘシ

第三十六條 議長故障アルトキハ副議長之ニ代リ議長副議長共ニ故障アルトキハ臨時ニ議員中ヨリ假議長ヲ選舉スヘシ

第三十七條 郡長及其ノ委任若ハ囑託ヲ受ケタル官吏吏員ハ會議ニ列席シテ議事ニ參與スルコトヲ得但シ議決ニ加ハルコトヲ得ス

前項ノ列席者ニ於テ發言ヲ求ムルトキハ議長ハ直ニ之ヲ許スヘシ但シ之カ爲議員ノ演說ヲ中止セシムルコトヲ得ス

第三十八條 郡會ハ通常會及臨時會トス

通常會ハ毎年一回之ヲ開ク其ノ會期ハ十四日以内トス臨時會ハ必要アル場合ニ於テ其ノ事件ニ

限リ之ヲ開ク其ノ會期ハ五日以内トス

臨時會ニ付スヘキ事件ハ豫メ之ヲ告示スヘシ但シ其ノ開會中急施ヲ要スル事件アルトキハ郡長ハ直ニ之ヲ其ノ會議ニ付スルコトヲ得

第三十九條 郡會ハ郡長之ヲ招集ス

招集ハ開會ノ日ヨリ少クトモ十日前ニ告示スヘシ但シ急施ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス郡會ハ郡長之ヲ開閉ス

第四十條 郡會ハ議員定員ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第四十一條 郡會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第四十二條 議長及議員ハ自己若ハ父母祖父母妻子孫兄弟姉妹ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ郡會ノ同意ヲ得ルニ非サレハ其ノ議事ニ參與スルコトヲ得ス

第四十三條 法律命令ノ規定ニ依リ郡會ニ於テ選舉ヲ行フトキハ一名毎ニ匿名投票ヲ爲シ有效投票ノ過半數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス若過半數ヲ得タル者ナキトキハ最多數ヲ得タル者二名ヲ

取り之ニ就キ決選投票ヲ爲サシム其ノ二名ヲ取ルニ當リ同數者アルトキハ年長者ヲ取り同年月ナルトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム此ノ決選投票ニ於テハ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス若同

數ナルトキハ年長者ヲ取り同年月ナルトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム其ノ他ハ第十五條乃至第十七條ノ規定ヲ準用ス

前項ノ選舉ニ付テハ郡會ハ其ノ議決ヲ以テ指名推選若ハ連名投票ノ法ヲ用ウルコトヲ得其ノ連名投票ノ法ヲ用ウル場合ニ於テハ前項ノ例ニ依ル

第四十四條 郡會ノ會議ハ公開ス但シ左ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 郡長ヨリ傍聴禁止ノ要求ヲ受ケタルトキ
 二 議長若ハ議員三名以上ノ發議ニ依リ傍聴禁止ヲ可決シタルトキ
 前項議長若ハ議員ノ發議ハ討論ヲ須ヒス其ノ可否ヲ決スヘシ
 第四十五條 議長ハ會議ノ事ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ其ノ日ノ會議ヲ開閉シ議場ノ秩序ヲ保持ス
 第四十六條 郡會議員ハ會議中無禮ノ語ヲ用井又ハ他人ノ身上ニ涉リ言論スルコトヲ得ス
 第四十七條 會議中此ノ法律若ハ會議規則ニ違ヒ其ノ他議場ノ秩序ヲ紊ル議員アルトキハ議長ハ之ヲ制止シ若ハ發言ヲ取消サンメ命ニ從ハサルトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ終ルマテ發言ヲ禁止シ又ハ議場ノ外ニ退去セシメ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得
 議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉ツルコトヲ得
 第四十八條 傍聽人公然可否ヲ表シ又ハ喧騒ニ涉リ其ノ他會議ノ妨害ヲ爲ストキハ議長ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ之ヲ退場セシメ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得
 傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場セシメ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得
 第四十九條 議場ノ秩序ヲ紊リ又ハ會議ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議員若ハ第三十七條ノ列席者ハ議長ノ注意ヲ喚起スルコトヲ得
 第五十條 郡會ニ書記ヲ置キ議長ニ隸屬シテ庶務ヲ處理セシム
 書記ハ議長之ヲ任免ス

第五十一條 議長ハ書記ヲシテ會議録ヲ製シ會議ノ顛末並出席議員ノ氏名ヲ記載セシムヘシ會議録ハ議長及議員二名以上之ニ署名スルヲ要ス其ノ議員ハ郡會ニ於テ之ヲ定ムヘシ
 議長ハ會議録ヲ添ヘ會議ノ結果ヲ郡長ニ報告スヘシ
 第五十二條 郡會ハ會議規則及傍聽人取締規則ヲ設ケ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ
 會議規則ニハ此ノ法律並會議規則ニ違背シタル議員ニ對シ郡會ノ議決ニ依リ三日以内出席ヲ停止スル規定ヲ設クルコトヲ得
 第三章 郡參事會
 第一款 組織及選舉
 第五十三條 郡ニ郡參事會ヲ置キ左ノ職員ヲ以テ之ヲ組織ス
 一 郡長
 二 名譽職參事會員 五名
 第五十四條 名譽職參事會員ハ郡會ニ於テ議員中ヨリ之ヲ選舉スヘシ
 郡會ハ名譽職參事會員ト同數ノ補充員ヲ選舉スヘシ
 名譽職參事會員中關員アルトキハ郡長ハ補充員ノ中ニ就キ之ヲ補闕ス其ノ順序ハ選舉同時ナルトキハ投票數ニ依リ投票同數ナルトキハ年長者ヲ取り同年月ナルトキハ抽籤ニ依リ選舉ノ時ヲ異ニスルトキハ選舉ノ前後ニ依リ仍關員ヲ生シタル場合ニ於テハ臨時補闕選舉ヲ行フヘシ
 補闕員ハ前任者ノ殘任期間在任ス
 名譽職參事會員及其ノ補充員ハ郡會議員ノ定期改選毎ニ之ヲ改選スヘシ但シ名譽職參事會員ハ後任者就任ノ日マテ在任ス

第五十五條 郡參事會ハ郡長ヲ以テ議長トス郡長故障アルトキハ出席會員中ヨリ臨時議長ヲ互選スヘシ

第二款 職務權限及處務規程

第五十六條 郡參事會ノ職務權限左ノ如シ

- 一 郡會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ其ノ委任ヲ受ケタルモノヲ議決スル事
 - 二 郡會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ臨時急施ヲ要シ郡長ニ於テ之ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキ郡會ニ代テ議決スル事
 - 三 郡長ヨリ郡會ニ提出スル議案ニ付郡長ニ對シ意見ヲ述フル事
 - 四 郡會ノ議決シタル範圍内ニ於テ財産及營造物ノ管理ニ關シ重要ナル事項ヲ議決スル事
 - 五 郡費ヲ以テ支辨スヘキ工事ノ執行ニ關スル規定ヲ議決スル事但シ法律命令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス
 - 六 郡ニ係ル訴願訴訟及和解ニ關スル事項ヲ議決スル事
 - 七 其ノ他法律命令ニ依リ郡參事會ノ權限ニ屬スル事項
- 第五十七條 郡參事會ハ名譽職參事會員中ヨリ委員ヲ選舉シ之ヲシテ郡ニ係ル出納ヲ検査セシムルコトヲ得
- 前項ノ検査ニハ郡長又ハ其ノ指命シタル官吏若ハ吏員之ニ立會フコトヲ要ス
- 第五十八條 第三十二條第三十三條第三十七條及第五十條ノ規定ハ郡參事會ニ之ヲ準用ス
- 第五十九條 郡參事會ハ郡長之ヲ招集ス若名譽職參事會員半數以上ノ請求アル場合ニ於テ相當ノ理由アリト認ムルトキハ郡長ハ郡參事會ヲ招集スヘシ

郡參事會ノ會期ハ郡長之ヲ定ム

第六十條 郡參事會ノ會議ハ傍聽ヲ許サス

第六十一條 郡參事會ハ議長及名譽職參事會員定員ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第五十六條第二ノ議決ヲ爲ストキハ郡長ハ其ノ議決ニ加ハルコトヲ得ス

郡參事會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

會議ノ顛末ハ之ヲ會議録ニ記載シ議長及名譽職參事會員二名以上之ニ署名スヘシ

第六十二條 第四十二條ノ規定ハ郡參事會員ニ之ヲ準用ス但シ同條ノ規定ニ依リ會員ノ數減少シ

テ前條第一項ノ數ヲ得サルトキハ郡長ハ補充員ニシテ其ノ事件ニ關係ナキ者ヲ以テ第五十四條

第三項ノ順序ニ依リ臨時之ニ充テ仍其ノ數ヲ得サルトキハ郡會議員ニシテ其ノ事件ニ關係ナキ

者ヲ臨時ニ指名シ其ノ闕員ヲ補充スヘシ

第四章 郡行政

第一款 郡吏員ノ組織及任免

第六十三條 郡ニ有給ノ郡吏員ヲ置クコトヲ得其ノ定員ハ府縣知事ノ許可ヲ得テ郡長之ヲ定ム

前項ノ郡吏員ハ府縣知事之ヲ任免ス

第六十四條 郡ニ郡出納吏ヲ置キ官吏吏員ノ中ニ就キ郡長之ヲ命ス

第六十五條 郡ハ郡會ノ議決ヲ經府縣知事ノ許可ヲ得テ臨時若ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得

委員ハ名譽職トス

委員ノ組織選任任期等ニ關スル事項ハ郡會ノ議決ヲ經府縣知事ノ許可ヲ得テ郡長之ヲ定ム

第二款 郡官吏部吏員ノ職務權限及處務規程

第六十六條 郡長ハ郡ヲ統轄シ郡ヲ代表ス

郡長ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

- 一 郡費ヲ以テ支辨スヘキ事件ヲ執行スル事
- 二 郡會及郡參事會ノ議決ヲ經ヘキ事件ニ付其ノ議案ヲ發スル事
- 三 財産及營造物ヲ管理スル事但シ特ニ之ヲ管理者アルトキハ其ノ事務ヲ監督スル事
- 四 收入支出ヲ命令シ及會計ヲ監督スル事
- 五 證書及公文書類ヲ保管スル事
- 六 法律命令又ハ郡會若ハ郡參事會ノ議決ニ依リ使用料手数料郡費及夫役現品ヲ賦課徵收スル事

七 其ノ他法律命令ニ依リ郡長ノ職權ニ屬スル事項

第六十七條 郡長ハ議案ヲ郡會ニ提出スル前之ヲ郡參事會ノ審査ニ付シ若郡參事會ト其ノ意見ヲ

異ニスルトキハ郡參事會ノ意見ヲ議案ニ添ヘ郡會ニ提出スヘシ

第六十八條 郡長ハ郡ノ行政ニ關シ其ノ職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ町村吏員ニ補助執行セシメ若

ハ委任スルコトヲ得

郡長ハ郡ノ行政ニ關シ其ノ職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ郡吏員ニ臨時代理セシムルコトヲ得

第六十九條 郡會若ハ郡參事會ノ議決若ハ選舉其ノ權限ヲ越テ又ハ法律命令ニ背クト認ムルトキ

ハ郡長ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ直ニ其ノ議決若ハ選舉ヲ取

消シ又ハ議決ニ付テハ再議ニ付シタル上仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ之ヲ取消スヘシ

前項取消處分ニ不服アル郡會若ハ郡參事會ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ關シテハ府縣知事郡長ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

郡會若ハ郡參事會ノ議決公益ニ害アリト認ムルトキハ郡長ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ府縣知事ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ

前項府縣知事ノ處分ニ不服アル郡會若ハ郡參事會ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第七十條 郡會若ハ郡參事會ニ於テ郡ノ收支ニ關シ不適當ノ議決ヲ爲シタルトキハ郡長ハ自己

ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ仍其ノ議決ヲ改メサルト

キハ府縣知事ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ但シ場合ニ依リ再議ニ付セスシテ直ニ府縣知事ノ指揮

ヲ請フコトヲ得

前項府縣知事ノ處分ニ不服アル郡會若ハ郡參事會ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第七十一條 郡長ハ期日ヲ定メテ郡會ノ停會ヲ命スルコトヲ得

第七十二條 郡會若ハ郡參事會召集ニ應セス又ハ成立セサルトキハ郡長ハ府縣知事ニ具狀シテ指

揮ヲ請ヒ其ノ議決スヘキ事件ヲ處分スルコトヲ得第四十二條第六十二條ノ場合ニ於テ會議ヲ開

クコト能ハサルトキ亦同シ

郡會若ハ郡參事會ニ於テ其ノ議決スヘキ事件ヲ議決セス又ハ郡會ニ於テ其ノ召集前告示セラレ

タル事件ニ關シ議案ヲ議了セサルトキハ前項ノ例ニ依ル

郡參事會ノ決定若ハ裁決スヘキ事項ニ關シテハ本條第一項第二項ノ例ニ依ル此ノ場合ニ於ケル

郡長ノ處分ニ關シテハ各本條ノ規定ニ準シ訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得
本條ノ處分ハ次ノ會期ニ於テ之ヲ郡會若ハ郡參事會ニ報告スヘシ

第七十三條 郡參事會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ臨時急施ヲ要シ郡長ニ於テ之ヲ招集スルノ暇ナ
シト認ムルトキハ郡長ハ專決處分シ次ノ會期ニ於テ其ノ處分ヲ郡參事會ニ報告スヘシ

第七十四條 郡參事會ノ權限ニ屬スル事項ハ其ノ議決ニ依リ郡長ニ於テ專決處分スルコトヲ得
第七十五條 官吏ノ郡行政ニ關スル職務關係ハ此ノ法律中規定アルモノヲ除ク外國ノ行政ニ關ス
ル其ノ職務關係ノ例ニ依ル

第七十六條 郡出納吏ハ出納事務ヲ掌ル
第七十七條 郡吏員ハ郡長ノ命ヲ承ケ事務ニ從事ス

第七十八條 委員ハ郡長ノ指揮監督ヲ承ケ財產若ハ營造物ヲ管理シ其ノ他郡行政事務ノ一部ヲ調
査シ又ハ一時ノ委託ニ依リ事務ヲ處辨ス

第七十九條 郡ノ事務ニ關スル處務規程ハ郡長之ヲ定ム
第三款 給料及給與

第八十條 有給郡吏員ノ給料額並旅費額及其ノ支給方法ハ府縣知事ノ許可ヲ得テ郡長之ヲ定ム
第八十一條 郡會議員名譽職參事會員其ノ他名譽職員ハ職務ノ爲要スル費用ノ辨償ヲ受クルコト
ヲ得

費用辨償額及其ノ支給方法ハ郡會ノ議決ヲ經府縣知事ノ許可ヲ得テ郡長之ヲ定ム若之ヲ許可ス
ヘカラスト認ムルトキハ府縣知事之ヲ定ム

第八十二條 有給郡吏員ノ退職料退職給與金遺族扶助料及其ノ支給方法ハ郡會ノ議決ヲ經內務大

臣ノ許可ヲ得テ郡長之ヲ定ム若許可スヘカラスト認ムルトキハ內務大臣之ヲ定ム

第八十三條 退職料退職給與金遺族扶助料及費用辨償ノ給與ニ關シ異議アルトキハ之ヲ郡長ニ申
立ツルコトヲ得

前項ノ異議ハ之ヲ郡參事會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ
裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ決定及裁決ニ關シテハ府縣知事郡長ヨリモ亦訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得
第八十四條 給料旅費退職料退職給與金遺族扶助料費用辨償其ノ他諸給與ハ郡ノ負擔トス

第五章 郡ノ財務

第一款 財產營造物及郡費

第八十五條 郡ハ積立金穀等ヲ設クルコトヲ得

第八十六條 郡ハ營造物若ハ公共ノ用ニ供シタル財產ノ使用ニ付使用料ヲ徵收シ又ハ特ニ一個人
ノ爲ニスル事務ニ付手数料ヲ徵收スルコトヲ得

第八十七條 此ノ法律中別ニ規定アルモノヲ除ク外使用料手数料ニ關スル細則ハ郡會ノ議決ヲ經
府縣知事ノ許可ヲ得テ郡長之ヲ定ム其ノ細則ニハ過料二圓以下ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

過料ニ處シ及之ヲ徵收スルハ郡長之ヲ掌ル其ノ處分ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁
決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ關シテハ府縣知事郡長ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得
第八十八條 郡ハ其ノ公益上必要アル場合ニ於テハ寄附若ハ補助ヲ爲スコトヲ得

第八十九條 郡ハ其ノ必要ナル費用及法律勅令ニ依リ郡ノ負擔ニ屬スル費用ヲ支辨スル義務ヲ